

564

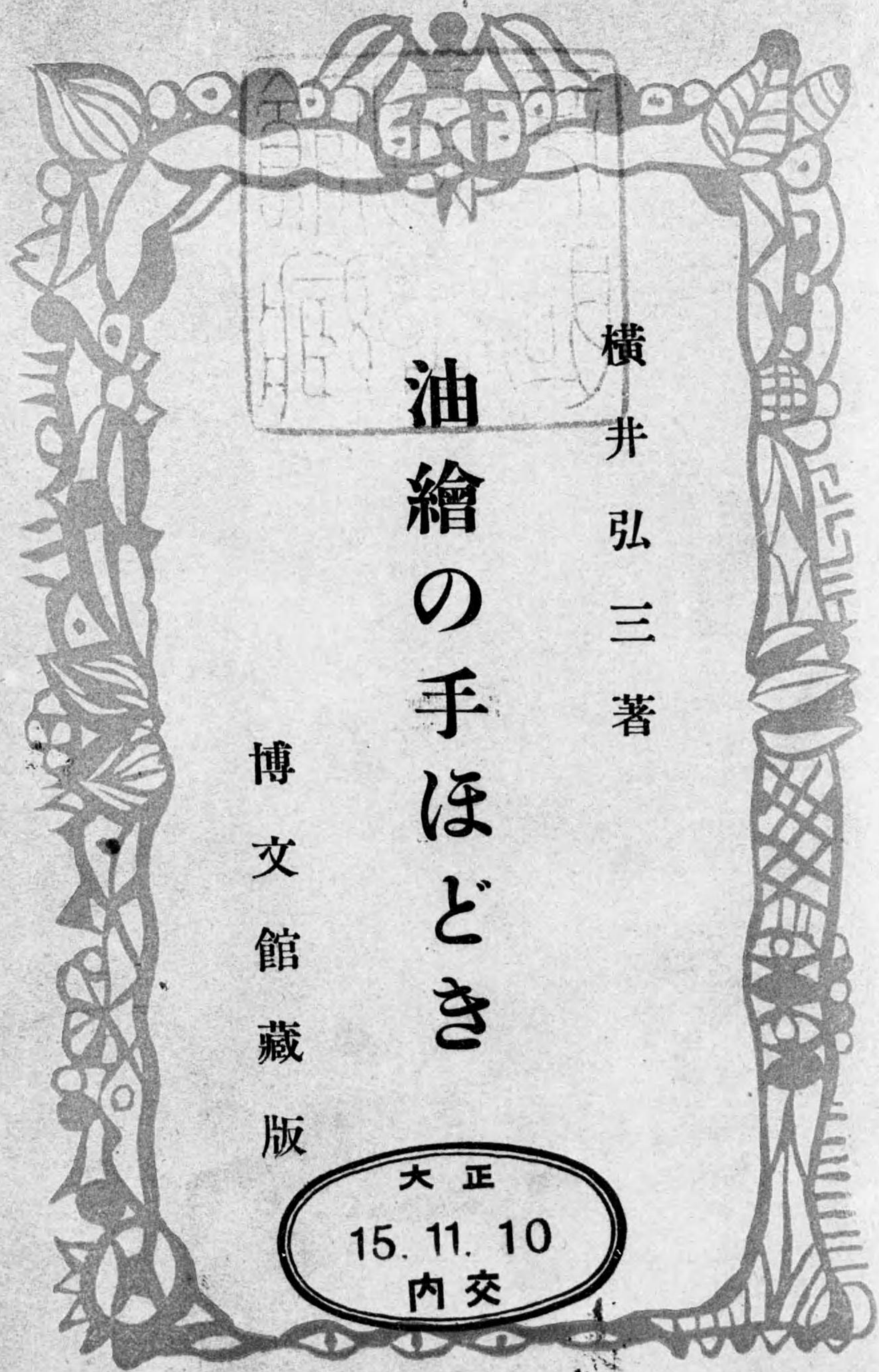
118



始



ト工 22-28



油繪の手ほどき

横井弘三著

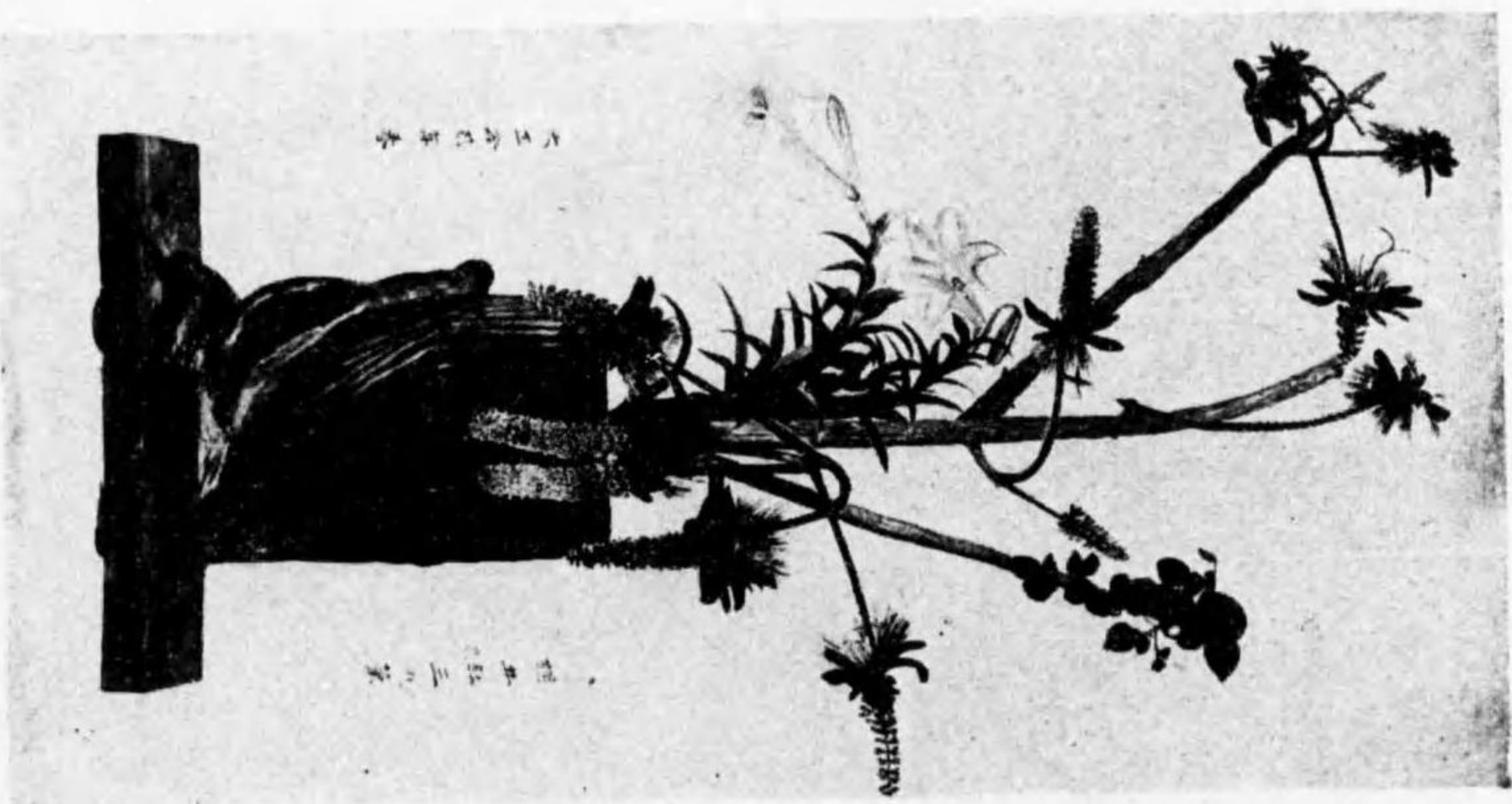
博文館藏版

大正
15. 11. 10
内交

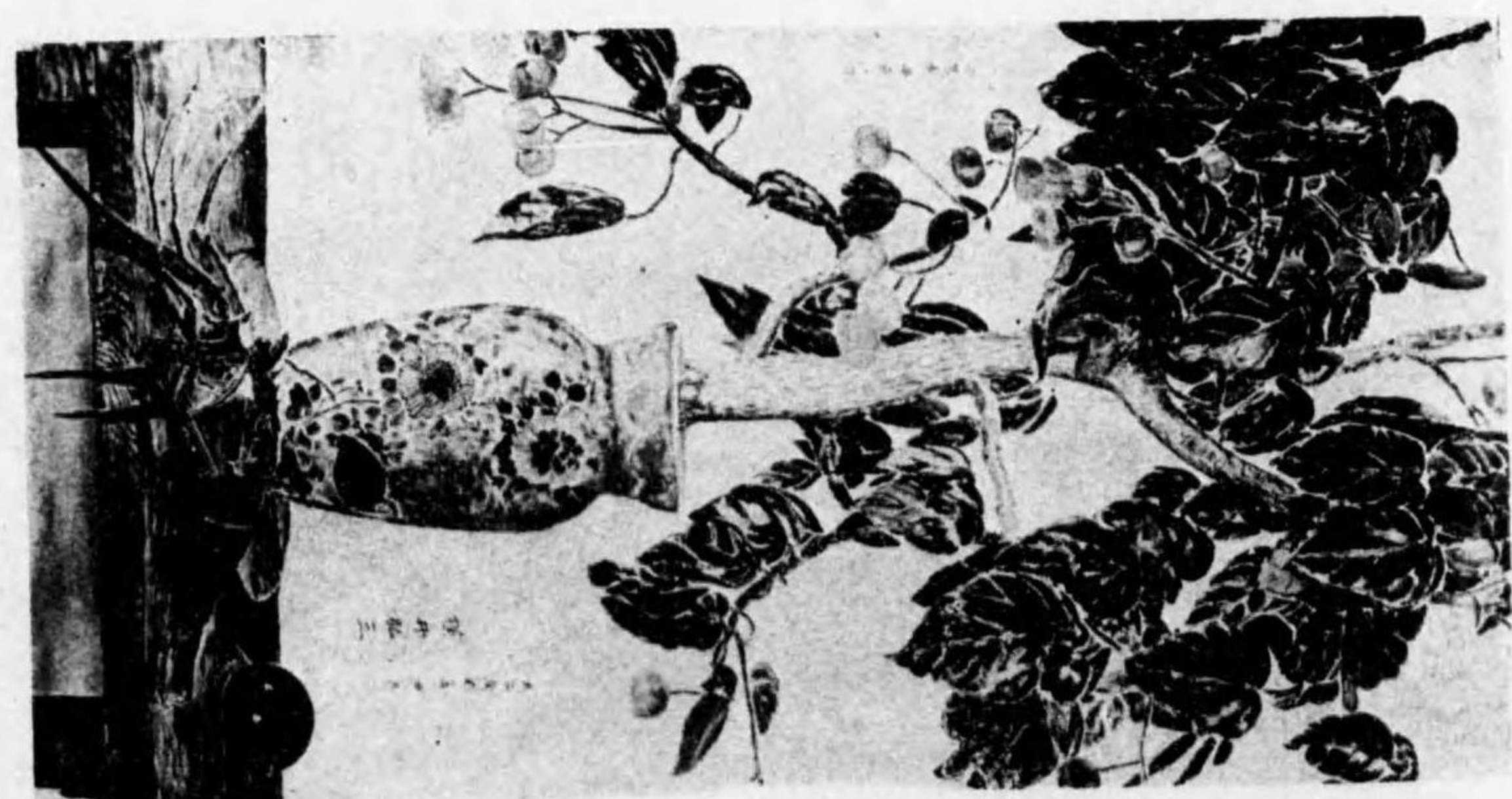


品出又シトード・ソサ年三三九一
品出會覽展科二回四第年七一九一

繪油 (位置一畫サ大) 庭の推るす變



ピーアの生花 (大サ中叢葉全紙) 油繪 一九三三年サロント・トロントノ出品



濱桐の生花 (大サ中叢葉全紙) 油繪 一九三三年サロント・トロントノ出品

自序

この書は、子守唄を歌ひ、赤坊を守るあひま、又、煙草の店番をしながらの、其のヒマに出来上つたもので、油繪の手ほどきが、唯一の目的であります。

本書をかいてる背景には、愛花園と云ふ、自然と人生が親しみあつてる樂土がある。

花畑、青葉繁れる杜、朝からミンミン蟬が鳴き、夕に高臺から、寺の鐘の音がきこえる。崖下の凹地には、鯉や金魚が泳ぎ、子供が草葉に顔を出す。黒土の上の朝顔、ダリヤ、ヒマハリ、オイラン草、月見草、夕顔其他。トンボ、蝶々、ツバメ、雀、蛾、猫。時々、外を通る馬力自動車。ゲンマイパン、飴屋、廣告屋其他。

私は『油繪獨歩記』を著し、『大愚』を著し、今又、『油繪の手ほどき』を著す事が出来ました。日本に自分ほど素人の畫人はなく、自分ほど素人に同情がもて、自分ほど素人の味方であるものもないであらう。本書は、その點、大に自信をもつ。

今や、私所有の數百枚の繪は、全國公共團體に分配せられんとする前に、この書にそ

の重だつた繪を、寫眞版として、挿入出来た事は幸運であつた。故に、一方に於て、私作の記念畫集でもありません。

復興小學への贈り繪は、各方面からの不理解と迫害を受けたが、無邪氣な兒童の喜びと、幾萬の彼等に與へた感化については、自分は喜ぶものである。あの種蒔きは大部の兒童に永久に、彼の核心に宿つてゐる何物かがある。村井吉兵衛氏が、あの繪二百枚に感激し、今年佛蘭西でその展覽會をしてくれるはずだつたが、氏の死去と共にそれも消えた。

素人の畫人は、商賣畫家の出来兼ねる事をやらなければならぬ。アナタがアナタの油繪が、或程度まで出来る様になつたら、第一歩としてアナタの母校に、アナタの繪をおあけなさい。これは何と云ふ美しい事だ。先生も生徒も共に大喜びします。

自分は、かう云ふ事を考へてゐる。もし東京、地方の區別なく、小學校で、其他公共團體で、私の作畫を本當に、理解してくれるならば、そして、鑑賞用として私の繪を、御希望な

れば、そして、使用材料を用意しておいて下されるならば、私は揮毫料なしで奉仕しませう。そして風景畫を描きませう。それが壁畫か、天井畫だつたら、猶更、愉快です。

大精力を續けます。不思議な、現世に矛盾せる、私を疑ひ給ふな。

かくしても油繪は、理解がすくない。それには油繪及び油繪畫家の態度をよく知らないからだ。この點からして、本書は、如何に油繪を鑑賞するか、一方その手引にもなるのです。ともかくも油繪、洋畫、日本畫、其他美術藝術を研究せんとする初心者には、唯一の案内書である事を確信する。又、光明である。

終りに、本書製作に協力して下さい下さつた方々に、謹んで厚く御禮申し上げます。

大正十五年初秋

著者

油繪の手ほどき……目次

緒言……………	一
作畫に就て……………	五
一 田舎者の藝術觀……………	五
二 作畫の三時代……………	一九
手本時代——(一九) 寫生時代——(二二)	
創作時代——(二八)	
三 作畫の二要素……………	三一
形と色——(三一)	
四 作畫の二描法……………	三六
素描——(三八) 彩描——(四〇)	
五 油繪用具に就て……………	四四
油繪具の履歷——(四四) 油繪具の性質——(五〇)	
油繪繪具と使用……………	四四

區別——(五五) 畫面——(六六) 筆と刷毛——(七六) 混和液——(七九) 道具箱——(八四) 畫架(イイセル)——(八七) パレット(調色板)——(八八) パレット・ナイフ——(八九) メインテナンス・ナイフ——(八九) 油壺——(八九) 三脚床几——(九〇) スケッチ板携帶箱——(九一) コマ——(九一) 筆洗——(九二) 布紙——(九二) 油繪便覽——(九三)

六 作畫の順序……………九七

技巧——(九七) 畫因——(九九) 構圖——(一〇一) 位置——(一〇二) 調子——(一〇三) 比較——(一〇三) 標準——(一〇四) 大きさと輪廓——(一〇四) 材料——(一〇六) 把筆——(一〇七) 調色——(一〇八) 觸筆——(一一〇) 運筆——(一一一) 組合せ——(一一三) 全局——(一一三) 保存——(一二四) 裝飾(額縁)——(一二六) 安置——(一二七)

七 一般畫法の種類(用具上)……………一九

鉛筆畫——(二一九) 木炭畫——(二一九) クレイオン畫——(二二一) メン畫——(二二二) 墨繪——(二二三) テンペラ畫——(二二四) 水繪自修記——(二二四) 漆繪自修記(二三六) ペエニ繪の描き方(二六二)

八 油繪による二大道(物畫と心畫)……………二七

物畫の行き方——(二六七) 人物畫——(二七三) 風景畫——(二八〇) 風景畫の六要件——(二八六) 來るべき我等の油繪——(二九〇) 心畫の行き方——(二九二)

九 作品發表機關……………三〇

展覽會——(三三〇) 個人展覽會——(三三〇) 同人展覽會——(三三一) 公募展覽會——(三三一) 展覽會入選法——(三三二) 印刷物||版畫(三三四)

十 油繪研究法……………三六

美術學校と研究所——(三三六) 個人授教——(三三七) 洋行——(三三八) 獨立獨習——(三四〇)

生活に就て……………四三

一 洋畫の變遷……………四三
二 藝術の獨立……………四五
三 故郷に繪の旅……………五〇

四 畫會と寄贈……………二九〇

五 解放の美術……………二七六
發明と生活——(二八一)

六 玩具考案……………二六五
雜貨店——(二九三)

七 畫家の小笠原島旅行……………二九九

八 俄車力……………三〇〇

九 へぼ畫家の震災感……………三〇七

十 繪の宗教……………三〇七
繪畫禮讚——(三三三)

十一 復興小學への贈り繪展覽會……………三四七

十二 美術の革命……………三五四

十三 理想展祭り……………三七〇

十四 畫家の福音……………三七九

十五 大創作館の建立運動……………三六八

十六 歎喜の世界……………三九四

(口繪)

牧場(三色版)
 愛する椎の庭
 生花

(挿繪)

聖兒・花に戯るゝ幼兒(三色版)……………一八

水彩畫スケッチ……………二四

椎の大木・愛花園……………三六

漆繪畫集……………四二

アダマイイア……………五六

大川附近……………六二

實るヒマハリ	一六八
婦人讀書	一七二
樂しき日の記念(三色版)	一七八
日本橋	一八八
自然と人生(三色版)	二四二
天龍峽の景	二六〇
郊外のオモチャ屋	二九四
離れ小島	二九六
小笠原島風景	三〇四
花籠持てる子供	三二五
東海道スケッチ	三四二
其他刷込寫眞版挿繪三十五枚	

油繪の手ほどき

横井弘三著

緒言

油繪云ふものは、非常に、習ふのに困難な様に思はれてますが、それはウソです。水彩畫や日本畫に比較したら、これほど、獨習するのに都合がよいかわかりません。

油繪は、道具を買ふのに高價を拂はねばならぬ、お考への方々もありませんが、それも、アナタの心一つです。安くもすむのです。

緒言



油繪は習ふに困難でない

油繪は安價にも道具は買へる

油繪全國小學
校に流行す

繪具を安く賣
らんとす

本書は素人の
味方

命
作畫は天の使

油繪の手ほどき

二

油繪は今や、クレイオンを征服して、日本全國の小學校に、流行せんとしてゐます。すでに教へてる小學校が大分あります。全國三萬餘の圖畫教員諸君は、油繪の手ほどき位は、是非一通り心得てをかぬ時代おくれをします。この豫言は近き將來に確實になります。(東京市の小學圖畫教員の團體が出来たのでわかる。)

油繪具は東京では競争で安くうつてゐます。又、品質を落さず非常に安く製造販賣しだし、全國的に初心者に廉價供給大活躍をはじめんとする店もあります。

畫家志望に迷へる若き煩悶兒よ。諸君は、この書ほど、親切であり、この本ほど素人の味方であるここを始めて知るであらう。この著は過去のそれの如く、たゞに油繪の描き方のみを説明するに止まるほどの程度のものでない。一層二層三層四層五層も、アナタの精心そのものの根本を愛し、熱情をもつて、燃やさずには、おかぬと云ふ、ドンゾコからの叫びが、この六七萬字のツナガリ玉であります。

天地は、あなたに、さもなく繪をかく事をさづけた。絶對である。アナタは世間から如何に輕蔑されても、繪をおかきなさい、研究をしなさい。畫家になれなくともいい、道樂にやるのです。これほご心持よい事はない。信念をもつて進み給へ。下手で

學者の一線
藝術家の一線

偉人と比して
アナタは失望
し給ふな

油繪は入門目

もい、煩悶もうんごおしなさい。うんごお考へなさい。人生にお迷ひなさい。科學を信じなさい。そして科學で解決のつかぬ戀も純新に味ふて下さい。その神祕は、科學の萬能でない事を最後に直感しませう。萬物一より始まるご先哲は言ふ。一本の線を、定木をあて、意識して引くものは學者である。智者である。一本の線を、定木をあてずに意識して書く人、描く人は藝術家である。近愚である。學者は言論の人である。藝術家は實行の人である。従つて畫人は、感激のある時には、ごんご描いてゆかねばならぬ、又描けてゆく。アナタよ、煩悶の同志よ、描く事を恵まれたのを、おシヤカさんや、キリストさんや、最近ではレイニンさんの如き偉大な使命でなかつた事に失望したもうな。彼等が千の力をもつて生れ、我等がよしや五の力しか與へられて生れたごしても、五は五なり、千は千なりの仕事をすれば、それで、ごつちも、なすべき事をなしたのである。絶對です。全力です。私は従つて、過去の如何なる畫家より下手でもいい。私は上記の如き信念の下に失望せず、常に元氣よく、突進せんごするものである。又、突進は出來てゐる。

油繪は、入門が自由で、いつも開門されてゐる。又、庭も開放されてゐる。しかし最

由しかし、堂
の發見は困難

油繪には、鉛
筆畫も水彩
も知つておく
必要がある

ユートピア

油繪の手ほどき

四

後の堂を山中に發見するのは至難である。本書は、いささかその方向だけを示す事が出来ればよい。あこはアナタの自覺を、努力によつてである。

油繪の手ほどきは、油繪の事だけ書けば良い様なものだが、私の心は、それではどうも無責任の様な気がする。順序として、鉛筆畫、水彩畫、漆繪等の事まで一寸かきそへてきました。これは決して無駄でなく、又、一方アナタ方への僕からの友情を、申上げたいのです。又、挿畫は私の畫集代りに、新案法をもつて、諸君に澤山御覽に入れます。有終に、アナタが、

それは意外とした記事を

私は、最後に加へておきましたから、

是非、そのユートピアを、

狂人の、寢言としてでなく、

この世に、マレなる世界として、

お仲間入りをなさる事を、

御す、め、願ひします。

作畫に就て

一 田舎者の藝術觀

立人も元は素
人である

藝術味の有無

純な繪

立人も元は素人である。立人素人の境は、今迄の説明では、専門道樂の、くだらぬ境にすぎない。立人云はれる人は、よく素人さされる人の繪を見た時、批評して『素人の繪には藝術味がない』云ふ。つまり繪に對しての美が少なく、知識の習練がたりぬ、研究がたりぬ云ふ事になる。一面は注意であり、一面は愚蔑である。自分が、今から一昔前に、始めて世界に公表した繪に對して、批評家からやはり、藝術味がない云ふ事をきかされた。其時分、私には、其の理由がわからなかつた。考へてみました。してみるに、私は單に、自然の表面を寫眞したにすぎないのかしら。自分は少なくとも、それ多或少ちがつた美の世界を見、且つ表したつもりである。又、或批評家は私の作に對して、ナイーブだ、純だ、素朴だ云はれた。これも

作畫に就て

五

私にはわからなかつた。何故に、純なのかしらを熟考した。結局、自分には、所謂藝術味がないから純なのかしらを思ふた。技巧を云ふものにトラハレテなかつたから純だを云はれたのだと思ふた。

美術を云ふに、諸藝の一部を表す術なのだを字義的に考へられる。然らば藝とは何術とは何か。そんな事はこの無學者の知るところでないから、精しい事は、他に頭腦のよい人に定義をゆづる。藝は大自然の出来事を、人間其他が真似るを云ふ事から種まかれる。山雀でも種々の藝をする。これは人に教へられたる藝であつて、又、山雀獨特の藝である。猿や犬でも、なか／＼面白い藝をする。其他大蛇や猛獸までが、或程度まで藝をする。藝には深いものと浅いものがある。だれが考へても人間のする仕事は他の動物よりか進んでゐる。

人間の藝の中にも、さまざまある。が、繪畫などは美に富み、實に高尚で、又貴くあると思はれます。人間のなす廣義の技藝は、五つに分つ事が出来る。五官による區別であります。目耳鼻口手其他で。見る事、聞く事、嗅ぐ事、味ふ事、觸れる事であります。

美術とは？

藝とは？

人間の藝

人間のなす五つの技藝

見る方

大漁の夢
これは、私の
夢を油絵にか
いたもので、
す、珍らしい
怪奇派に屬す
るもので、
用紙に、
大正九年か
一の作です。
色のものでは
す。

聴く方



作畫に就て

七

客觀的立場からしては、見る方には美術品には美術品其中にも繪畫、彫塑、其他造型作品として表れ、踊りも見る方の部に入る。文學もある。聴く方には音樂とか、

嗅ぐ方
味ふ方
觸る方

繪畫の價値

藝術家でない事

畫家でない事

演説とか、其他種々ある。嗅ぐ方では、香料とか云ふものが、人間の造つたものごしである。味ふ方では、料理ごして、かなり食物が發達してゐるから、興味のあるものが随分ある。觸る、方では、柔道、擊劍、ボキシング、アンマ術、等は、技術味のあつたものであらう。

が、繪畫は何ご云ふても、藝術の上からは、重要な地位を占めてゐるもので、我々はその仕事にたづさはる事は、最も幸福である様な氣がする。ではありますが、今ここに、私は藝術家でないご云ふ氣が、最近になつてめき／＼感じます。變ではあるが。従つて私は藝術家でなく、畫家でもない様だ。否、私一人ばかりでなく、素人の多くの人は、畫家でも藝術家でもない事になります。所謂今までの世の畫家は、表面上の技巧を第一の作畫の上の根本ごしてゐるからです。私は表面技巧を根本ごしない、からです。

ですから、前者は畫家であり、後者は畫家でないのです。私はしいて畫家であるご云はれなくごもい、のです。私は現代上につ、二流三流の畫家仲間から、技巧なき故に、別物にされてもい、のです。自分はむしろ、これを有り難く思ひ名譽ごする。

林檎を描くに
は

美に對する少
年少女

平易な例ごして、ごに多くの人が林檎を描かうごする。この林檎ほご描くにたやすい様で、むづかしいものはありません。林檎は子供も描けば成人も描く、最も靜物の畫題にのせられる。それだけ、偉大な美を見て、傑作をそれから描く事は難事である。さて與へられた多くの人々が、林檎を描くにAは林檎其ものに、或潜在する幼なき不思議を認めて描くごする。つまり愛をもつて描くのであります。Bは、只其林檎其ま、見える様に描かうごする。天然色寫眞の様に描かうごする。Cは感じるま、に描かうごする。Dは實物ご殊更に異なつて描かうごする。Eは全然實物を目前にする必要なくして表さうごする。

少年少女が、年齢十五六歳前後になるご、世界が、今までご異なつて、新らしく美に満ちて見えだしてくる。これは人間自身から自發する約束であるご同時に、大自然の神の力だごも云へる。この時分には萬物が、不思議の綺麗さでもつて見られる幸福の時だ、林檎一つも馬鹿にしないで、強い力で、そこにそ、がれて描ける。併し、美味の食物も長くつゞけば、美味も感じなくなるご等しく、追々ごこの神祕の世界は、毎日つゞくにつれてさほごでもなくなる。やがて林檎は只見える様に、非常な天才の

作畫に就て

この林檎は本物の様だ

立人の見る林檎

十人の描く林檎
アカデミツクとは何ぞや

天才的素質

他は、上皮だけの形を色を描いてゆけばいい、事になつてしまふ。御自分もこの時を上手に思ひ、素人の成人なごからも、本物の様だ云はれて、描手も有頂天になつてしまふ。所がこれを、先輩や批評家に自慢らしくもつてゆく、技巧がたらない、幼稚だなき云はれる。そこで自己を反省してみる氣になる。はて、繪云ふものは實物の通りに描けばいい、と思ふたが、立人仲間はいさ出来たものを藝術味がないとは何事だ。失禮千萬だ、腹立たしくなる。感じは一たいごんなものだらう。一つの林檎でも刻々に光線の變化あり、林檎其物の生命の變化が、色や線に表れてゆくのだご等しく、作者の心もその通り刻々に變じてゆく。ましてや各人の心の性質が異つてゐる事は、各人の顔が異つてゐるのと同じ。各人のちがつた心の持主が一つの林檎を描けば變つた表現によつて描かれなければならない。

十人か、つて一つの林檎を別々の畫布に描いてまるで、皆が同じ様な表現法（描き方）だつたら繪は大した價值もない。これは美術學校や、研究所や、月並の師や平凡な友人等に共々にある時、受け入れるものである。古き同じ様な表現法はアカデミツクな描き方云ふ。尤も天才的の素質のある人は學校にあらうが研究所にあらうが、

獨習の天才

模倣

一時は古き表現法を入れても、すぐ吐き出して、本當の自分の道に氣づくものである。それが等しく獨歩者にもありうる。教へられなくともこの繪畫の道に自發してゆける。ご、まで来た人は、ご、に力云ふ誘惑に出あふ。或人は繪云ふものは技巧云ふものがなければ、面白くない云はれて、殊更に、ごうかして、その技巧云ふ奴を出してやらうとする。所が種や根のない土に芽は出てこない。

ひそかにセザンヌ風をやるご、人々から「やあ、セザンヌ張だ」云はれる。これはいけないと思ふて勢をつけて、熱狂するご「ゴッホ張だ」ごくる。現實から離れんごして見ようごすると「ゴーガンだ」ごやられる。いつそ古典に遡上らうごするごゴヤだ、デュラアー、レンブラン等がひかへてゐる。そこで表現寫實から離れば離れるほど藝術味があり、實在がつかめるごて、無形なる實在そのもの、極主觀物ごして輸入された、譯畫された、未來派、表現派、構圖派、構成派、ダダに行つてみても、本當に「これは日本人の己れの物だ」と自信が心の底から許さない。又も迷へる寫實を眺めるミクルペーが、がんばる。プロレタリア的に農民繪畫に共鳴するごミレーが所有してをり、今度は利口ぶらずに馬鹿な様子に出ようごするご、アンリー、ルツン

作畫に就て

誘惑の舟

「が笑つて先着してゐる。そこで初めて俺は日本人だ云ふ事に目醒めて、自身の作物を描き出さうとする。日本畫家もゆきづまり、これから大日本の創作期であるのに大難を目前にするからこゝで、まごついてゐる内に死はすでに大きな穴を掘つてゐる。これは多數の畫家の感ずるところぢやないかしらと思ふ。始め誘惑の船に乗つたら危険だ、危険だ。今多くの若き人々は「如何にしたら上手になれるか、如何にしたら二科に入選出来るか、春陽會に出品出来るか、そして帝展に登龍する事が出来るか」をこあせつてゐる。併し、我々は展覽會の爲めに描くのでない。繪其物を描く事を喜び楽しむを、第一とすべく、繪を描いて不平を言ひ、作畫は戰であるなごも、フクロの様に暗くひつこんで高ぶる必要はないのだ、描いた繪が展覽會に出せるなら出すがいい、不安な末を待つて、元を忘れちやだめだと思ふ。

私は今、悪い性質に巻きこまれた様な氣がする。それは人さんの繪を見る時、何人の繪でも、ずつこ過去には良い美しい點が見えたものだ。所が近頃は、繪を展覽會なごで見ると、アラサガシの心が先に立つ。これは私の心が悪くなつて來たからさう見えるのだ。そしてそれが、繪を始めて間のない現在の人々にも、しみこんでいつてゐる様

繪の鑑賞について

だ。お互に良い繪がかけてもしないで、口先ばかり達者になつて、他人の繪をなごむやみにけなすのだ。これはやがては自身の描く作畫の美をもほろぼしてしまふのだ。私は私の廿歳前後の心持にたち歸つて、人さんの繪を見て、先づ最初のよい氣持になりたい。自分の立場から批評眼をこりさる事だ。自分は唯々描いてゆけばいいのだ。そして大自然と私と合致すればそれでよいのだ。

さて、ペンを前にもごしてみるご、我々素人は、美の技巧が少なく、従つて、畫家でなく、美術家でなく、藝術家でなく無くなる事になるので、畫界から追放された異端者でなければならぬ。私はそれでいい。私は彼等の技巧界から去つて自然にまかせよう。我等の筆使はいつも等しくあらう。ゆつくりしたもので進歩も鈍からう。併し盗んだ技巧なき誇が一方にある。

素人は何もアセル必要はない。殊更にうまく描いてやらう云ふ野心もいらぬ。悠々として歩むがい、と思ふ。お互に描いた以上、絶對的には繪でない事はないのだだけごも、これは、私だけの寢言かも知れない。

私は繪畫の上に、何を第一に根本に置くべきか。それは何人でも知つてゐる事なの

異端者

素人と野心

繪の上の根本「本心」

作畫に就て

悪された批評家

に、さうして人間そのもの、『本心』をそれに基礎づけられないのでせう。

悪された批評家はミレー氏の繪は描れた人物の衣服が、皮みたいで柔みがなく、不器用の出來の様に云ふ。又水平線が高すぎるの、籠の位置がさうのかうの云ふ。併しそんな事よりも、先づ彼の心にちかに觸れてみたいではないでせうか。彼はそんなくだらぬ技巧について言ふたら笑つてでせう。『約束のみに縛られてはいないよ』と答へるであらう。そして「お前さんは見方が異なつてゐる」云ふのだらう。ゴッホ氏の繪を見てもさうだ。あの純な直線畫から、曲線畫に移つて、彼が熱狂した時、其時の繪、まるで毛蟲か芋蟲か、トカゲか蛇の固まりをし合ふてゐる様なタッチ、又は火の燃え盛り、渦卷きたるが如き筆觸、それは人心を氣持よくさせることは云はれない。又、不安にさせる。しかし、もし、日本人が、たゞ表面だけその筆法を眞似たらばまるで價值云ふものはないのである。つまり、こすい人格がそこに悪化してしまふ。我々はこゝに初めて、本心から出發した繪でなければ駄目云ふ事を知る。

振出しに戻らんとする畫家

次の例もある。文展、帝展に長らく人選してた人で、藝術的煩悶にせめられて、十數年もつゞけて來た教へられた其人が、其筆法を捨て、振出しにもぎつて、出直さ

うに悩んでゐる人がある。つまり素人の心に戻らうと志してゐるのである。むしろ其人は知らずに無價値な自己に適してない作をのこすよりも、自覺し、もたえるだけ幸である。

ミレー氏と裸體畫

畫因とは繪をかく、根本の精神の事

大地震は何を教へたか

ミレー氏が金儲の爲め裸體畫を描く時代を捨て、驟然バルビゾンで、純藝術的の農民畫のみを描く様に決心したところに、彼の偉大さはあるのだ。人格の輝があるのだ。偉人は悪い場所に置かれても、そこをぬける力がある。畫因云ふものは第一に大切なものだ。その心の爲めには、技巧も立派なものに變化する。つまり技巧を立派らしく見せるのでなくて、立派になつてゐるのである。つまり女人でも元は素人である事を、私に二度言はしめて下さい。

我等素人は大地震で何を教へられたであらうか、建築物について、天麩羅式の表面が知れませう。それよりか、ドダイを根強く固めて、其の上に建てた家は、さうだつたらうか。つたなき技巧の衣を着て居ても、しつかりしてゐるではありませんか。高樓でも日本固有の神社佛閣的建物は、しつかりしてゐた。それは日本に、ピッタリした適してゐるものであり、日本のものなのだつた。

日本人の繪

繪畫も日本人の描いた日本人のものでありたい。オカメから見て外國人は、日本人がバタ臭い繪を描いてゐるのを見て笑ふてると。そしてなぜもつゝ日本的に描かないのだら

藝術品を衣服にタトへて見ると

いのだら

藝術品を人間にたこへるこ、人は立派な衣服を着る、併し、昔織の織物がいゝ、こす

る。これ古典である。木綿にたこふべきはミレー氏の繪であらうか。しかし心組は立派だ。輝やいてゐる自然の衣服が着飾られる——これ繪として印象派である。しかし、マネー氏モネー氏は心をも衣服以上に輝かした。後の畫人は、この輝やきにあきたらず、變態心理的の強い刺戟の強いものでなければ満足が出来ぬ時代にまで來た。

綜合美から分散の美

綜合美から分散の美に來たこ云ふべきか。これも自然界の一現象だ。全然否定してはいけないが。突拍子もなく、日本人が未來派やダダイストの衣をまこはなければなら

ない。人々はそれを眺めて珍奇とした。唯變つた衣であるこしたただけで、自分がそれを着るには餘りに適してゐなかつた。

大震災と還原

大震災が來た。人々は珍奇を求めてゐる所ぢやない、生存そのもの、方法が原始に還つた。その思想は東京を中心として、全國に擴大されてゆく。人々は絹を捨てな

素人の藝術は手織の木綿

ればならない。はでくしい衣は着る事は出來ない。質素な衣服になつた。元始藝術は大した道具を要しない。技巧がさう一々變らなくこもいゝ。殊更に、野蠻人の衣服をまこふ必要はない。自然のまゝであれ、木綿だこて、田舎織だこて笑ふ必要はない。心をこめた手製の尊さがある。

今や、我等素人の藝術は手織の木綿織である。味は表面少ないだらう。併し、そこに別の強味をもつ。あゝ、我等アマツールよ。永遠に田舎者であれ。その繪の上に技巧の變化進化少なくとも。

アマツールは素人畫家なり迷はず働かけ文明的藝術

少なくこも迷はず働かけよ。我等の作品にまちがつた見方をしてあきるものはあきよ。それ等の人にしひて見てくれこは言はない。こ云ふて自分は頭から都會的藝術をけなすものではない。そこに、私は大に認むべき偉大なる人の時々あるのを尊敬する。しかし、田舎にも、別のさうした人もないこ限つた事なき事を注意してもらひたい。

技巧

技巧は自然に出てくるものでなければいけない。殊更に出さうこするこ、他人のすでに所有したものにぶつかつてしまふ。技巧は本心こ合致したものでなければなら

作畫に就て

鑑賞の第一要件は

猫をかぶった作品

本心と技巧

田舎者の藝術観は、無學者の藝術観

油絵の手ほどき

一八

ぬ。本心に技巧が別々であれば、それは價值がない。技巧は本心の表現であつてこそ尊い。そしてそこに噛みしめれば噛みしめるほど、本心の味がある。作者その人が感じられる。飽きがない。あきのこない繪は貴重だ。鑑賞の第一要件は「あきのこない繪」云ふ事を昔から云ふが尤もである。

だが時々、猫をかぶった作があるから氣をつけなければだめだ。ニセ物の價值のない點は、技巧は達者だが、本心が空だからだ。この一例でも人々は、藝術家には本心が第一で、技巧が第二に來る事がわからう。

私の本心はまだく不完全だ。一生不完全であらう。しかし、磁石の針をいつも北に向けたい。

田舎者の藝術観は亂筆であります。私一個の考へですからそれを多數の人々には通用しませんかも知れません。又、無學者の藝術観ですから缺點だらけかも知れません。自分は少なくとも或程度までの人間になれぬまでは、俺は藝術家だ、美術家だ、畫家だ、眞の意義からして云ひたくなく、又、云へぬ様に感じて來ました。(みつゑ掲載)

二 作畫の三時代

手本時代

中學校又は女學校の圖畫教育云ふものは、小學校の圖畫教育よりも進んでゐないもので、第一、圖畫云ふ課目はちつとも上手下手でも及落に影響しないほびベツされてゐます。今でも大した差はないと思ひますが、私達の中學の圖畫の時、教師は『お手本の通りにかくんですよ』又は『お手本よりもつゝ立派におかきなさい』なん云ふ所で樂をきめこんで、なか／＼それ以上の親切心はありませんでした。それですから、繪の好きな生徒有志に寫生にゆかうなご云ふ事は、在校中に一度もありやしないのでした。かうした風で、月給は相當に我等の月謝からこつてゐたのだから今考へて見るに、お座なりの教師にぶつかつたら、その生徒達はみじめなものだ。つまり、この教育法は、懶けた手本本位で教師の勝手本位で、生徒本位でないのです。生徒本位でしたら、先生は、生徒をもつゝ、圖畫云ふものを面白く、愉快にさ

中學校、女學校の圖畫の教育はおとる

手本本位

作畫に就て

一九

手本と印刷

してくれたでせう。

手本の印刷云ふものは、印刷に慣れぬとわかりませんが、一冊のお手本に印刷されたインク（繪具）の色がクラベテ見るに、十冊の中には、スバラシク異つた色の亂調子である事を、發見します。そんな不完全な本を、手本の通り描けなご云ふ言葉で、かたづけられたのでは、生徒もかはいさうです。かうした場合には、生徒に印刷云ふもの、缺點等を十分説明して、教師がそこに御手本の不足なところを補足して生徒を導いて行く親切心がほしいものです。

實物説明

假に松の木の御手本があつたとしたら、松の木の種類の説明からして、又、時には實物の枝でももつて來て學生に見せてやる。すくなくもこの位の心持で教へなければ、月給にメンジテもすまないであらう。

獨學者と手本の注意

獨學者の方法は以上の様な事を注意して、かゝらぬに、手本云ふものは、アテになつてあてにならぬものです。又、手本にあまり依頼しすぎるに、實物寫生の時に、寫生が、うまく出來なくなる。（すべて本の挿繪なども不完全なものを知り給へ）

日本畫家とお手本

過去日本畫家が、手本を重視し、寫生にメザメなかつた爲めに、支那へ一度も行つ

た事なくして、平氣で支那の、しかも古びた風景をゴマカシて描いたりしてゐるものが澤山ある。その又、ゴマカシ物を有り難がつて眺めてゐるのだからあきれてしまふ。つまり彼等は、新らしい畫題を作る云ふ代りに、古くさい畫題から、新らしい描き方を發見しよう云ふアセツテル者は、まだしも、古くさい畫題からゴマカシ繪をかうして世を渡つてゆかうとする畫工があるのだから、さうした人々は氣の毒である。願はくば、繪畫志望者は、アナタの出發點と進路をあやまらぬ様に。

自覺せる日本畫家
鑑賞畫

所が、最近の日本畫家の一部の人々は、寫生を重んずる様になりだした。それは近き古き、明治前後に於て、錦繪として、國芳、北壽、北齊等が寫生をこり入れ、黒船の繪や、江の島、東京名所なごをしたものがある。我々としては、ありふれた教科書手本よりか、かうした錦繪の方から、種々教へらるゝよいものを見出します。これ等の繪は、左にをつて右にウツス云ふものでなく、只、熟視して、そこから或美を味ふ云ふ方面です。鑑賞繪とは、かうした類のものでせう。

寫生時代

作畫に就て

日本の寫生の
始めは

平賀源内

手本も、繪の
幼年期に必要

作畫に對して
子供の頭は單
純だ

油繪の手ほどき

二二

作畫は、手本でなく、實物を生き寫す事からでなければならぬ云ふ様になつた始
めは、日本が、外國と貿易を開始してから、あちらの人々の作品を見、又、それらの
人々の話をきいてからの事が多いと思ふ。キリストの繪が始めであらう。

手本から寫生に入りかゝつた油繪で古い所で、平賀源内（一七五〇年）の美人の圖
がある。又、有名な寫實家圓山應舉氏は小學校の生徒も知るころ。

併し、手本からの練習も繪の幼年期には必要なもので何人も一度はこゝを通過する
のである。自然物は見れば見るほど複雑である、形も色をもつ。この複雑なものを
人間の力で、或程度まで簡單に描くのであるが、これがなかくむづかしい。

子供の頭は、かなり單純なものですから、寫生させても、成人が、さうしたら單純
にゆくだらう云ふ所を子供は、安々こやつてのける様だ。近頃は小學校では、寫生
に重きをおいてゐるがこれは誠によい傾向である。子供も追々繪が解つてゆき頭も發
達して中學時代の年齢になるまで、密畫を描く様になる。これは科學の力も人間の力も
による。それから、廿歳前後から、作畫の傾向は二つに分れる。表面寫實と、内面心
寫となる。

表面寫實内面
心寫

私の二十歳の
時、友人の妹
を描いたもの
で、左の寫は
右の寫の如く
肉筆したた
もの。濃いの
は印刷の
もので、薄
くならした
三月十四日
の作



育目的な畫家

作畫に就て

前者は、たゞ、物象の表皮のみの實寫
に熱してゆかうが、後者は、表皮はこも
かく、作者自身の心をそこに描出してゆ
く。普通用ゆる言葉だが、上手だ、達者
だ云はれる人は表面描寫にゆく様であ
り、不器用の作者は、後者にゆく様であ
る。そして前者は、藝術美術繪畫の如何
なるものか云ふ、此深さに突進しない
人に多く、後者はなかなか、さうした本
もよみ、理論に走る人に多い。又後者に
は理論をぬきにして、先天的に、直感的
にやりぬいてゆく人もある。
盲目的に教へられた畫家が、美其物を
十分研究しないで、又藝術上の良書も讀

二三

メクラとビツ

略畫と密畫
チの區別

まずに、唯技巧の上からして、所謂流行的に、大家の技巧を模するのは、頭の小さい手足の長い不具者なる。福助はよく、それと反對の不自然を示します。自分は以下にかく事を非常に意味深く思ひます。それはよく少年時代に見た錦繪折本の内に、一つの浅き川を、手足の達者な盲目者が、目の見える手足のきかぬ不具者を脊にして、二人は、無事に川を渡らんとしてる。これは繪を描く者への大きな暗示であります。

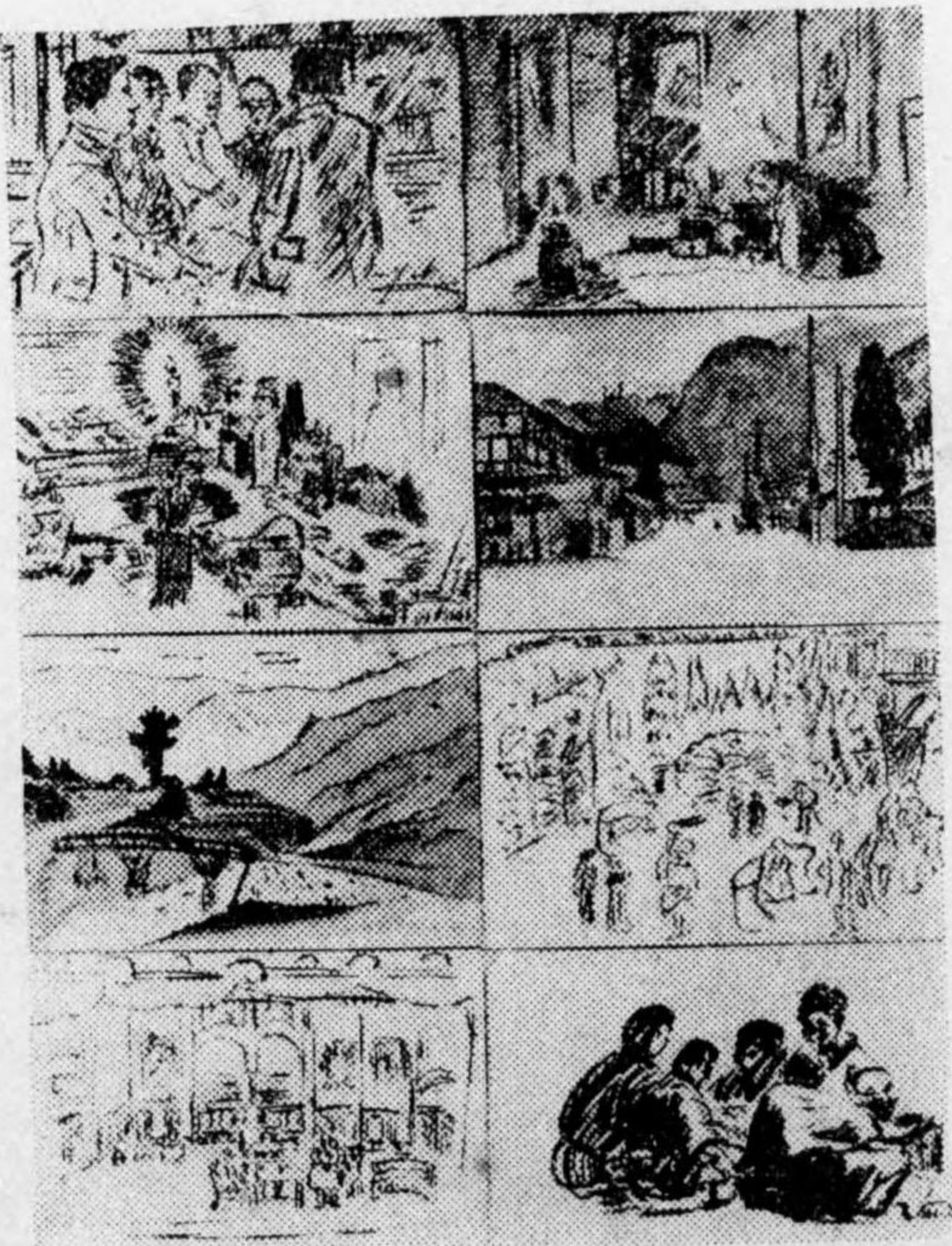
略畫と密畫

寫生はかうした二つの分け方にする事が出来る。略畫を描く事をスケッチする云ふ。略畫とは、實物でないものも含むが、スケッチとは、實物の場合に重に用ひられ、一寸ちがう様にも思はれる。スケッチ帖云ふものは諸君の知つてるところである。スケッチは、鉛筆、色鉛筆、クレオン、墨、水彩繪具等、種々のもので出来る。スケッチは、遠足をするとか、旅行をするとかの時、土地の風景や人物等を短時間に描く場合によく用さられる。スケッチ云ふ言葉は、畫から轉じて文章の上にも用ひられる。

楽しいスケッチのやり方

私のスケッチは、
前の二十五年、
帝室、将基、
の道具、夜、
峠の、
で、水彩、
給、
た。

楽しいスケッチのやり方。アナタが日曜にでも遠足した時、立ち所に景色のよい所を短時間の内に、大體の要點だけかく事。これは實に上手下手にか、はらず楽しい。



横巾を割り出し、又、森の高さ、人物其他を割出してゆく。この割出さへ注意してればあまは練習次第で、なれる面白くなつてくる。又、その内に、自由に心の働が進

作畫に就て

んでくるミ不愉快な電柱を、こつてしまふか、鳥のミんでるのを入れるか、邪魔物を取つたり、入用のものを加へたり出来る。一日の旅行もかくして、愉快である。汽車の中の座睡してゐる所なミ面白い顔が出来る。

スケッチの描き方は「作畫の順序」の章も読んで下さい。又挿繪から要點を知つて下さい。

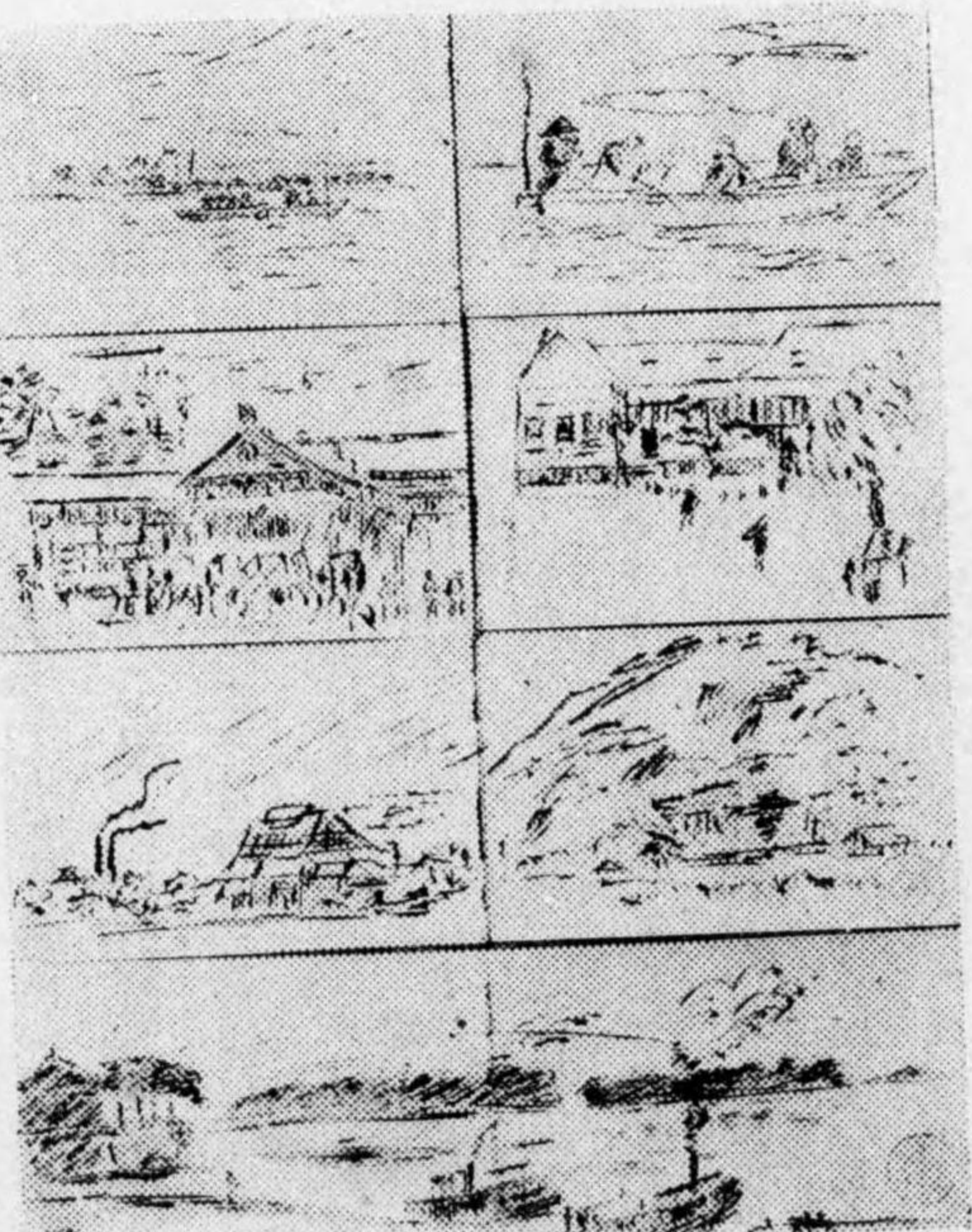
こもかく、一枚の繪に、幾日も幾日もつひやしてかく事はそれはスケッチミ云はな
い場合が多い。もちろん、この二つの間には斷然たる境界線がないのだから、或人は
スケッチミ思ふものを或人はスケッチでないミ云ふ場合もあらう。密畫は努力はスケ
ッチよりあらうが、密畫がスケッチよりもいつも、すぐれてゐるミは定まらない。これ
はかく人の人格ミでも云はうか、さうした事によつて來るのだ。ロダン氏の人體スケ
ッチ一枚の方が、私の努力した密畫よりも價值ありミする様なものだ。

正式に調理された、お料理も美味でありませうが、お香物で茶漬も、外人はいざし
らず、日本人には、そこに別の味を知る。スケッチは香物に茶漬ミ云ふた格だミ思
ふ。ごちらが美味で、ごちらが、不味ミ云ふ事はない。

密畫とスケッチの區別

香物に茶漬

繪を上達させるにはスケッチを澤山しきくミい、ミ云ふ人がある。しかし、これ
一がいにいへぬ。努力の多作はよいが、氣のぬけた亂作はだめです。



近頃、我々は街頭にたつて、行人の肖像をスケッチしてをります。この事は後に章を新らしくしてお話しますが、これは實に石膏なミヤ、寫真なミヤから肖像をスケッチするよりも、生きた人々を即時にスケッチするのであるから、なか／＼愉快です。

スケッチの用材

街頭スケッチ
鉛筆スケッチ
上より鉛筆二枚
停車場二枚
松島山二枚
忍ぶ山二枚
これは鉛筆で
すからはずき
り版に出ませ
六〇歳の二十
代に務めてる時
代の作です。

スケッチは、前述したが、黒鉛筆の他に矢立と筆でい、事勿論ですが、又、油繪でもスケッチすべきものがあります。スケッチは重に風景である様ですが何でもい、

ミケランジェロ、ゴッホ、ブレイク氏の人體にはすばらしいものがあります（スケッチとして）だが、ロダン氏の人體スケッチや、セザンヌ氏が、神田の古本屋か古道具屋にでも、ダマツテころがしとる時は、まづ美術學校か研究所の生徒でも描いたものとして或はかへりみられないであらう。それほぎ兩氏のかうした作は、鑑賞にむづかしい。ロダン、セザンヌ云ふ言葉は人心をまごはす。

創作時代

創作時代云ふたゞて、寫生時代の、その作家の一生にまつて、はつきりした區別はない様なものでありますが、こゝにお話してかうした區別は或程度まで必要かと思ひます。私としては、一生寫生時代がつまきますと同時に創作時代が來てるのです。私は、この大自然そのもの、普遍なる所を忘れぬと共に、内面描寫に入る事も忘れてはいけない。又初學者には、内面研究に入るまでには充分の、前時代の準備が大に必要であります。

我々の現在教育は、餘りに科學的なる爲めに、太陽の光線の區別やら、遠近法等に

約束づけられて、平面的に繪を描かず、立體的に描かうとする。しかし、そののみがその人のなすべき仕事であれば仕方ありませんが、さうした所から脱出して自由の心天地に飛び走らんとする作家には、停滯は、我等の本義ではありません。

停滯は濁らします。腐敗させます。

想像で描く、記憶で描く。これはしかしかなり冒險的のかきかたですが、これがなかなか馬鹿にならない仕事なのです。これは子供の様な描き方ですが、大膽な方法です。しかし、本質的に、自然を忘れぬ時、そこに立派な作品が出来るのぢやないでせうか。

尤も我々は、いまだに、十年も油繪をやつても、印象派の乳房から離れません。又殊更にムリに離れようとする必要もありませんが、私は最近、私の描法を見出した自信する點をもちます。その一つは、先づ輪廓を、墨で描いてをき、その線を残す事です。これは、西洋畫の材料を、東洋畫の描法で生して、日本人獨特の世界を發見せんとするものである。又、畫面の材料は、半紙、唐紙、畫箋紙で、墨と油繪具等にて描くのです。又、ニジミも生じます。いづれ後に精しくのべます。

宗教が行きつ
まつたら宗師
に歸れ

私は尋常一年
生に戻つた

創作は足元
にある

今の世は、實に、藝術上のみならず、思想上にも全く動亂の時である。偉大な大統領一力ある天才の出でぬ限り、世界はやはり迷の中に暮してゆかねばならぬ。何人か言ひました「宗教が行きつまつたら祖師に歸れ」なるほご尤もである。しかし祖師に歸つたら、一層自然までに還らなければ駄目だ。途中で迷つてゐる人は出直すべきだ。悶えるばかりじゃ仕方がない。自然を愛せよ、師とせよ、手本とせよ。大震災直後、自分は發心するころがあつて振出しに戻つた。尋常一年生にもぎつた。幼稚園にもぎつた。赤坊にもぎつた。そして、そこから、本當の自分を見出して歩み出した。人々は笑つた。反對した。そんな事はかまはない。これが私の本心だもの。創作は雲の上に隠れてゐない。目前の地上の足元にあるのだ。遠い山を理想として、足元の理想を忘れる事は、あはれむべき事だ。私の「心の華」と「怪奇派」が諸君に、童心畫とし、て認めらるゝ時も來よう。童心畫運動は、所謂自由畫の對岸に、スバラシキ姿となつて、現れかかつて來た。諸君はその仁王立の活躍が見えだしたでせう。これこそ實に子供のものだ。

三 作畫の二要素

形 と 色

萬有は肉眼で
は二つに分た
れる

繪畫からはそ
れ以上にわけ
られる

形は大別して
點、線、面

萬有は、人間の肉眼に映ずる時、形と色との二つに分ける事が出来る。牛や馬や鳥や、蟲が見ても、やつぱり、その二つはわかる事だと思ふが。さもないれば彼等は走る事も飛ぶ事も出来ないわけだ。

所が、繪畫になるに、肉眼に見えぬ所のものをも見せる事が出来る。心鏡にママ現はれてくる怪物とか、風とか、運動の跡とか、其他、不可思議に屬する事をも繪として描く事が出来るのだ。

形は其の種類に於て、實に無数であるが、繪としての場合、大別しますと、點と線と面とになります。點は幾何學上で云ふと、位置はあつても、大きさも、學問上では幅も厚さもない事になつてゐますが、實際に當つては、大きさも、厚さもあるものです。従つて、實際上の點には、圓い點も尖つた點も種々あります。繪畫や書の上の點は

線とは

東洋の線
西洋の線

面とは

油絵の手ほどき

三二

幾何學上の點はこゝなつてゐます事、かくの如しです。(百十二頁参照)

線でも、さうです。學問上では長さはあつても、幅や厚さのないものゝさされてゐるが、繪の上では、幅も厚さもあるわけです。線は、二分して、直線と曲線になります。直線には繪の上で太い線と細い線と、其の兩者の混合したものとありますが、曲線は、その上に、種々の方向への曲があるので、複雑なものをつくります。

西洋の方の線は理智的のもので、味ひも云ふ感情的のものが少いが、東洋のは描く材料の關係上ニジミがあるので、その線に、温たか味を表現する事が出来ます。半紙や、畫箋紙等は、水繪具を合して、その特徴を十分に發揮します。現代は科學的の線や、面が流行してゐる。構成派の線や面を見てごらん下さい。指先で一本線を引くよりも、定木をあて、ペンか、烏口で引く方が歡迎されてゐますが、人間としての感情がなく、冷やかな熱情のない學者的のもので、これも一時の流行でせう。創造力も云ふものが缺乏して來て、器械そのものに依頼してゆかうとする、文明病の一つになる。我等は土に還る事である。信念の藝術は永久にほろびず。

面は學問上で、大さはあつても厚さのないものゝさされてゐる。そして、面と面との接合點は線であることなつてゐるが、實際では、面でも厚さを感じ、面と面との接合場所には、幅のある線であること云はなければならぬ。

作畫の場合、例へば人體を描く時に、五尺のものは五尺の比例に描く事になつてゐるが、さうでなくてもいい事は、繪の場合に立派に證明される。皆様も、御承知の歌麿氏の繪をごらん下さい。あの美人畫が實物よりも、丈が高い長いぢやありませんか。又、グレコー氏の作でも、皆ヒヨロヒヨロした精神の惱みが出現してゐます。尤も歌麿氏のは惱みでなく喜びですが。

未來派の作は、實物としての形を破壊してゐる。直立せるものを、斜にかいてもいい、全體のものは半分でさしつかへない。例へば顔の上で二つの目をかく場合でも、一つの目、一つのマユ、半分の鼻、半分の口でいゝ、さされる事もある。又、足でも四本の足であるのに十本も二十本もつけていゝ、云ふ事もある。又、上に向いてゐるものをサカサにかいてもいいのだ。

面に重きをおいた作品に立體派のものがある。南洋の土人の作品からヒントを得て作り出したものである。面には、平面と曲面との二つに分ける事が出来るが、立體派

人體について
實物の高さ
繪からの高さ

未來派は實物
の形の破壊

立體派は面に
重きをおいた
面には平面と
曲面

作畫に就て

三三

面積の種類

以後に平面の組合せでいつたのこ曲面の單純なのが現はれたけれど、要するに單純化であるから、複雑な面は尊ばれない。
面積の一番單純なものは、平面の組合せでは、三角四面形である。次が四角六面形である。曲面の方では、圓錐形である。次が圓筒形である。これ等の組合せが、最近の畫壇、彫刻界に盛んになつてゐる。形の方はこの位にして次に、色彩の方に移りませう。

* * * * *

色と形との關係

漆器の馬鹿塗り

カンデンスキ

色。色云ふものは、繪畫の上では肉眼に映ずる、形の内から表面に宿る、はなるべからざる關係にあるものです。形のある所、きつこ色があります。日本の漆器に「バカ塗り」云ふて、漆のあまつたのを塗り集め、それを、こぎだして、そこに珍奇な色合せを見せて、そこに一つのリズムを現はしてゐますが、かうした事を、意識的に研究した人にカンデンスキー云ふ人がありますが、その人は、色彩の方面にその點で注意した人で、日本へも紹介され、有名な論説をも傳へてゐますが、かうした事こ子供の幼時の仕事こ、非常に類似した點がありますので、大に我々童心畫研究者の注

心の華

三原色
七原色

意をひきます。が、この事については「心の華」こして章を新しくしてのべませう。
色彩が、物理的に三原色、七原色である等の科學的説明は、科學書で讀んでいたくこして、色彩學云ふた事はやめにします。たゞ、何故に、或物は赤く見え、或物は白くみえるか、それだけを述べてをきます。科學の云ふところでは、七原色の内、赤は赤だけ反射して、他の色を、物體が吸収するからだ云ふ事になり、白は七原色を全部發射するからだこされ、黒は全部の七原色を吸収するからだこされてゐるからだこされてゐます。所が繪具の場合になります。七原色を合せても白になりません不思議があります。

そこで、我々は繪の上での繪具の性質についての色彩の研究を試みなければなりません。これについては、繪具の所でのべてみませう。

色の用ひ方でも近代作家は複雑なものよりも單純な色を愛する事、形の單純化こ等しいのです。初期構成派なごは極端に單純なものを好みます。

物體について、色云ふものは一定不變のものこ思へる事は誤りでした。あの鐵こ云ふ原子すらも、何十萬年こか何百萬年こかたつこ原子が變化するさうです。さすれ

作畫に就て

近代作家は色が單純
物體に宿る色は一定でない

形色と目と心の關係

ば、物の色も永久性と瞬間性とがあるもので、萬有は、おそかれ早かれ變化してゆくものであります。

形や、色は描くには目と心が大なる問題です。物體が近眼的に見ゆる人には、茫々として概觀的に、近代畫的に見えます。又、心でさう感じる人もありますけれど反對に、目の餘りキキスギる人には、はつきり説明的に風景なり、人物なりが見えすぎて、物とはこんな、ボツトしたもの、物とはこんなハッキリしたものと云ふ事が知らず識らずに頭にしみこんでくる。

色盲

又、色盲と云ふ事があるさうだ。物の色が多くの人々が區別する様に區別がつかず或色が灰色に見えたりするのであるさうです。所が表現派の人々は、物がさう見えても、さう繪具を塗らないで、事更らに作家の好みによつて種々の色を用ひます。これは色盲からでないのです。

亂視

それから、亂視と云ふ事がある。物が眞實の在場とは異なつた様に見えるのださうです。又、目のシツカリした人でも、視覺の錯覺と云ふ事があつて、平行のものが、平行に見えなかつたり、凸つてるものが凹んで見えたりする。現に我々が經驗する所

視覺の錯覺

によるこ、實に面白い實例があります。例へば長い塀の前に立つて、左右を見るこ、遠近法の理によつて、直線的に狭いが、それか云つて、近く目先を見るこ、その線直線ではなくて、圓の孤でなければ、表せなくなる。又、三つの柱に接近して、左の柱を垂直とすれば、他の二柱はかたむき、眞中の柱を垂直とすれば、左右が傾いてくるこしなければならぬ。最も我々が、日々、感じてる事で、氣の付かぬ事は、四角な家に住つてゐながら、これが圓くでなければ表せない事で、圓い卵も切りよで四角の反對で、感覺の教へるところです。所が、昔の日本畫を見るこ、建築物の描法にも幼稚だが、大膽で、子供の繪の様に、遠近法にそむいた場合が多い。吾人はその科學的でない誤描を笑つたが、それは反つて、藝術家として見る時、それ以外に、良い點を見出さなかつた吾人が淺き無智を知る。

私等はこの章を終つて、形と色からくる、素描と色描の章に移りませう。

四 作畫の二描法

素描 (デッサン)

素描とはどんな事か

素描とはどんな事なのだらう。わかつてゐる様で、わからない様なものだ。我々素人(甘茶)に、てつさり早い説明は、素描は形を描くのだ、云ふのが一番近道のやうだ。多彩でか、ず、主に黒色(他色でもい、が)木炭又は、コンテイでか、れた場合が多い。それは線で重にか、れます。勿論幅のある點や面も入りますが。

形に重きをおく

素描でも、その物の色彩の濃差を推察する事は出來ます。表面上、種々の色を現したのではありませんが、又、光線の明暗も之れが語らひます。ですが、九分九厘は形の方にかたむいてゐます。

形の畫家と色彩の畫家

畫家には形の得意な畫家と、色彩の得意な畫家とがあります。又、兩者を兼ねて上手な人もあります。古典派の人々は色彩にも注意しましたが、より以上形に注意したものでした。

錦繪の色彩

錦繪なごは、名前からして美しい名ですが、そして、二代目豊國氏あたりの繪は、實に色彩に對しても複雑を極め、巧妙なものです。前に申した通り、素人の方には初代豊國氏よりその方がい、様に思はれますが、さうでなく、又春信氏あたりの、ごく淡い單色勝の方が深く、あきのこないものを持つてゐる。私は考へます。しかし、二代豊國氏の作は素刷も彩刷も完成された點からゆきます。確に無難な繪です。

素人の上手

以上の錦繪については、立人の繪についてのお話でしたが、我等素人は所謂上手になつては俗に云ふ立人らしくなつて來た事は、駄目になつたものぢやないでせうか。も云ひたくなります。一がいにも言へませんが。

素人繪と稚拙觀

素人繪の價值は、努力にともなふに稚拙觀のある所にあると思ひますが。従つて作品には、綺麗だの、地味だの云ふ事を越えた何物か、そこに表現されてゐなければなりません。

セザンヌ氏の素描

セザンヌ氏の素描は下手だ。四六時中、物が左にかたむいてゐる。そして、いつもタッチに癖がある。しかしこんな事をこした、すばらしいものを彼はもつてゐたのだ。

作畫に就て

彩 描

彩描とは

彩描とは、素描の上に、色彩を加へて描くかき方で、つまり二色以上でかいて、本體に向ふて、色彩を分類し見わけて描く。前方云ふた如く一色でかく場合は、それは彩描とは言へない、素描であります。だが、物には色がない事はないから一色でも彩描ではないかと言はれませうが、彩描は多くの色でかく云ふ意味なので、一色のは素描は思ひます。

明い色を用ゆる人暗い色を用ゆる人

一つの物を描くに、明るくかく人、暗くかく人あります。その畫家の性質によりますので、宗教的、哲學的、又は壓世家等には往々にして、黒だとか脂色だとかを用ひたがるので、樂天的な快活な人は、アトリエから、郊外又は街頭に出たのですから、鮮やかな色材を使用しますのが多い。

繪具の明暗

明るい色は深味のない事がある。暗い色は魔の住家の様な氣もしないではないが。繪具の種類（製造會社の）によつて、同じ名の色でも多少異なつて來ます佛蘭西のは明るみがあり、英國製のは地味な堅實な色合です。これ等の事は、繪具の所

繪具の明暗

で又、のべませう。

それからつけ加へておきますが、お互素人は、美しい、綺麗な色彩を用ひた繪のみが立派なものだと思ふのは間違でした。従つて、美人畫はよほゴツヌケた作でない佳作はありません。林檎そのもの、色も美しいものですから、それだけ、傑作を見出すこと、描く事が困難なものです。ですから、墨繪でかいた繪、ペン畫の繪も、色もハデバデクなくから見下げてはいけません。立派な作がその内に随分あるのですから。

印象派と色彩

印象派の人々は形も注意しましたが、より以上外光に研究の歩をす、めました。従つて、光の境界はつきりしても、形の境界がキチンと現れない場合があります。

素描は略畫、密畫にもふくまれる

素描はスケッチの中にも含まれますが、又、多彩の密畫の中にも勿論あります。私は美術學問のない人間ですから、素描なるものに、學術的の定義は下せません。たゞ『形を描く事』で、下描き云ふものは意味が異なり、一つの立派な繪である事と思ひます。

ミケランジェロ氏の素描

素描として、たれしもミケランジェロ氏の裸體筋肉には、すばらしいものを見出し

作畫に就て

ゴッホ氏の素描

素描と研究所

私の中學校の
國畫教育

研究所の生徒
の素描観

油繪の手ほどき

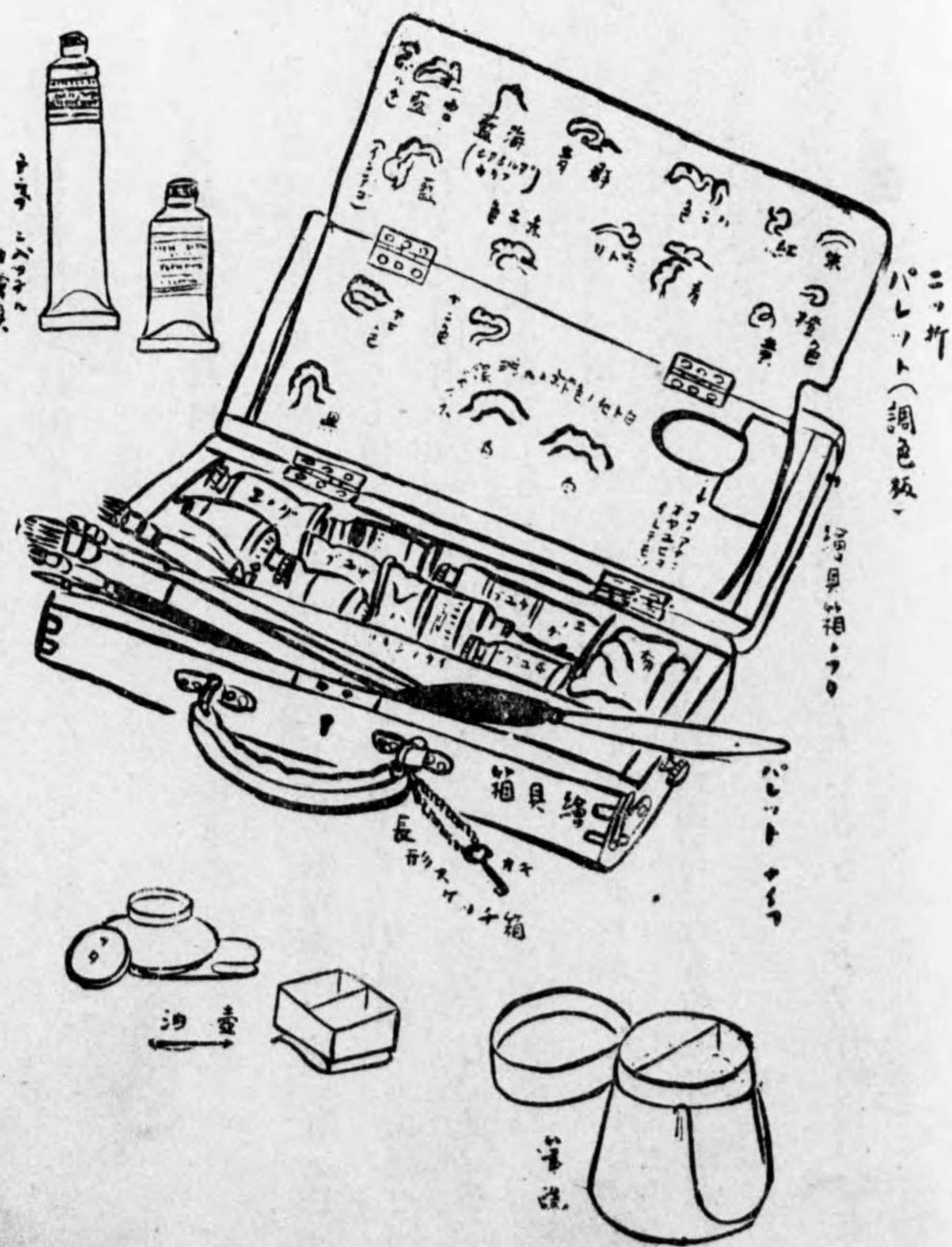
四二

ます。又、ゴッホ氏のあの素直な素描から、狂的に藝術の殿堂に大獅子吼した、爬蟲類の曲線の組合せかにも、私は素晴らしいものを見出します。ゴッホ氏のサイブラスが、實物として見られたら、ごの位に人々は喜ぶ事でしょう。

繪をかき始めるに研究所では、今までの教書法によるに、素描云ふて、味氣なき不完全な石膏像を寫生させたものだ。我々の中學時代には、我々の教師は、無責任なもので、時々、新聞紙大の紙に自分で墨で繪をかいて來てそれを模寫させたものだ。美術の何、藝術の何なき云ふ話なきもしなかつた。だから、私は卒業するまでも、畫家云ふものは貧しい卑しいものだと思ふてゐた。わからずやの教師にあつては生徒もみじめなものだ。

又、私の家に時々、研究所へ通つてゐる學生がこぼしにくる。それは、油繪をやりたいのだが、當分石膏で素描ばかりやらなければならぬので面白くない。何ぞそれ等の人は、この青年時代をオシク費うじやありませんか。油繪に素描が含まれてゐないと思ふのがまちがひです。單獨に素描の好きな人はこもかくも、嫌な人は一日も早く研究所を去れ。依頼心を起すな、自分の力にたよれ。

上左のミの
入つてる筒に
具入る物、
ユウの物は
形入る物、
で入る物、
物入る物、
所入る物、
ト折る物、
出下る物、
油洗の筆、
筆洗の筆



作畫に就て

四三

五 油繪用具に就て

油繪繪具の履歴

もしも、推古朝の法隆寺の、厨子の扉にかゝれた云ふ密陀繪が、油を用ひてかいたさするなれば、それは朝鮮から傳へられた方法かも知れず、又朝鮮からの支那からも知れない。しかも密陀僧云ふのは支那國の人であつたさうだし、又、その密陀繪具は、印度あたりに源を發してゐるかも知れない。

日本に油繪具らしいものが紹介されたのは、スペイン、ポルトガル人が日本へ來た頃で、今から三百六十年も前の事であります。秀吉氏が關白になる前です。永祿年間で、天文三、天正の間です。

當時、日本最初の油繪畫家が山田右衛門氏云ふ人ださうです。有馬侯の家來です。キリスト教信者でせう。

一時キリスト教禁制となり、油繪では司馬江漢氏などは、彼の作(油繪)をかくし

日本最古の油繪具。密陀繪具。

歐洲より日本に最初に輸入された油繪具

日本最初の油繪畫家

教禁と司馬江漢

明治前の繪具

明治九年美術學校が出来る

伊太利人キヨソネ

日本最初の油繪具製造販賣店

たりしてたが、先輩、平賀源内氏と共に江漢には愛弟子、亞歐堂田善(永田善吉)氏があります。江漢氏の富嶽遠望の圖を私は拾年も前に本物を見た事がありますが軸物になつてゐるものでした。

聞くところによると、明治前後、今のテウブ云ふものがなくて、繪具は長い氷袋に入れてたさうだし、又、繪具の製法も、外國は勿論、祕法とされてゐたのださうな。だから一般に賣品としてはなかつた。

油繪はごもかくも、明治に入つてからの發展である。明治九年に美術學校が出來てアントニオ・ホンタネジイ云ふ伊太利人が來て、小山正太郎、淺井忠氏等が、油繪の描き方を教はつた。黒田清輝氏が洋行から歸り一層發達した。

又、印刷局の技師にキヨソネ云ふ伊太利人がゐて、日本の油繪の先輩がその人から教へられた云ふが、キヨソネ氏は 御肖像を描いた云ふ人で、一般のは でないのださうで、最近まで僕も知らずゐた。

外人から油繪具の製造祕法を日本の洋畫家は明治前後に教へられ、自給自足の状態だつたが、村田宗清云ふ繪具製造家が日本橋大傳馬町に出來、油繪具もこさへたが、

作畫に就て

繪具粉末器は代理石

繪具大競走

菱印、獅子印の水彩繪具

時期尙早でつぶれ、次に伊藤彩料店が銀座一丁目に現れた、そして、當時近常商店に云ふ（銀座二丁目）の機械商から舶來繪具を輸入してもらつて、賣りだした。それは英國のニウトン製であります。又、繪具を製造もしたのですが、やつぱりをしい事に閉店したが、大きな大理石の平たい石の上に、ウスミたいな大理石の繪具を粉末にする製造器があつたさうだから、これで繪具はつくられてた事が知れる（繪具は金屬が化學作用を起すので、石を用ひたのだ）こもかく、明治二十年、巴里のブルジョア、エーネ（創立一八六七年）の水彩書繪具を、二十五錢で賣つてたのを、文房堂ミ竹見屋ミ、神田で大競争をして、一本五錢にまで値下げして賣つた。當時五錢テウブとして有名なものだつた。

明治二十六年前は商館の手をへて、一部の畫家が油繪具を用ひてたが、伊藤彩料店の後に、文房堂ミ竹見屋が油繪具もうりだした。

水彩繪具ではその後、立野ミ云ふ繪具屋が、ブルジョアの菱B印をまねし、又、花野屋がニウトン製の獅子印の商標をまねて賣りだした。ニウトン會社の繪具は水彩にしろ油繪具にしろ、品がしつかりしてるので評判で、大正五年頃に大跋扈したので、

子供がその水彩繪具の型のがほしく、外國のをまねしてA型テウブを日本でこさへた位である。

油繪繪具の製造會社で、外國で有名な代表的のものは佛蘭西のルフラン（創立一七七五年）ミ英國のニウトン會社（創立一八二四年）のものである。

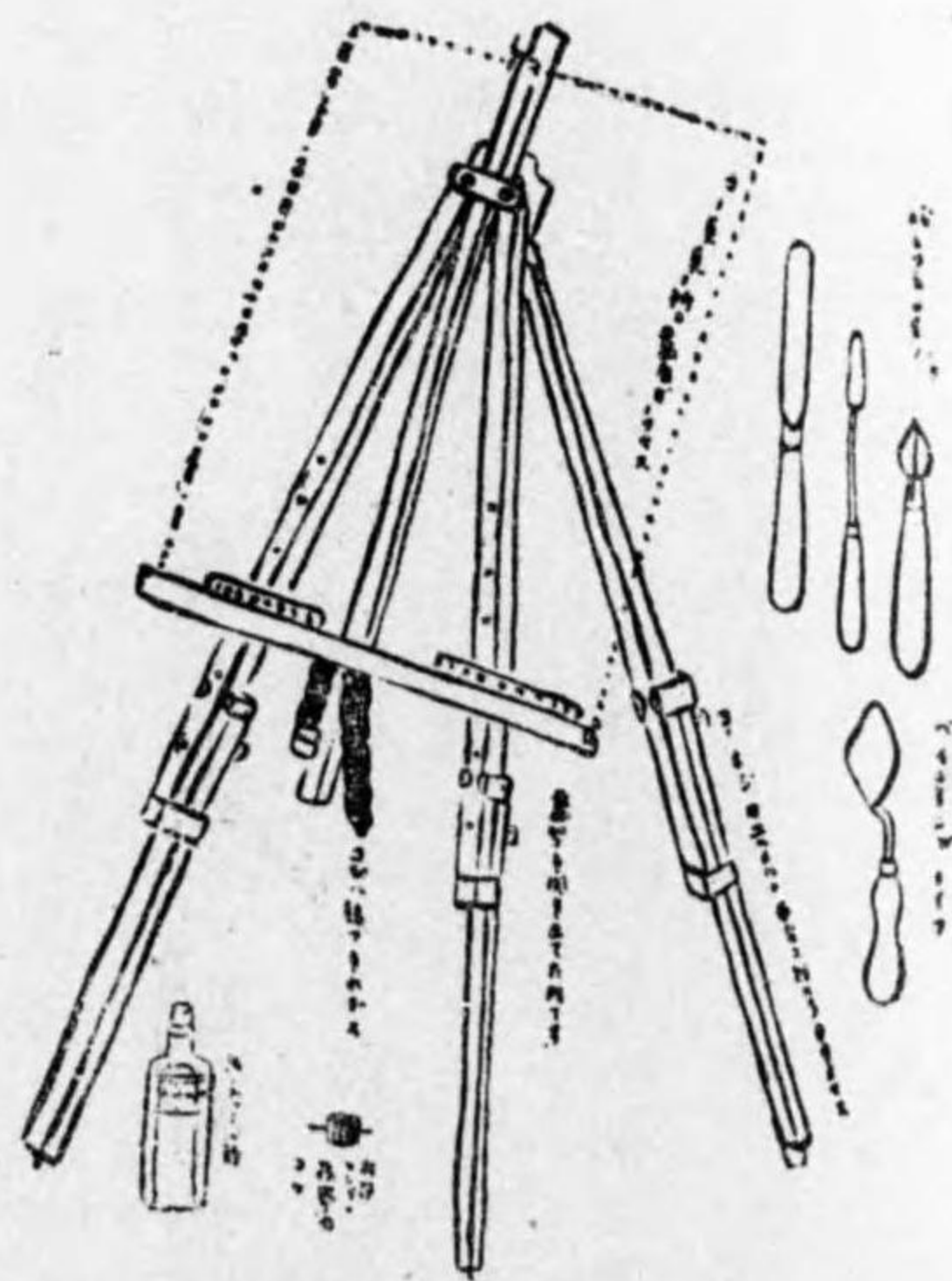
ルフラン會社ミ云ふのは、三世紀に渡つて、つゞいてるミ云ふ古い會社であります。それ故、そのポスターをみるミ、三世紀間の代表畫家の繪をのせてる。

ケンブリッチミ云ふ繪具は、マダートン會社（創立一八九一年）（英國）の製品

油繪具製造で有名なのは英國のニウトンと、佛蘭西のルフラン

ルフラン會社

ケンブリッチの繪具



右のナイフは、八十九頁の説明圖です。左下の瓶は、油の入つてるビン（八十頁）真中の大きいのは、畫架（八十七頁）を開いてたつた所、點點の所へ畫布がのります。左下のコマ（九十一頁）形のは、塗りたての、畫布の四スミに、はさみ、お互ひに、ぬれぬ就にするもの。

作畫に就て

ケンブリッジ
のは永久不変
色

でニウトンよりおそく出来たものですが、ニウトン製の繪具が、永久不変色であるか
ないかは、星記をつけて購買者に責任を明にして賣つたが、それは、畫家の立場にな
るに、眞の製作品が、色によつて得られないので、そこへ、ケンブリッジのが、不変
色である事を標榜して繪具をつくりだした。それでありますから、ケンブリッジには、
エメラルドグリーンや、クロームの類はこしらへないで、類似の色をもつてしまし
たのみならず、製造場所も、エセック州の深林の内へもつてゆき、空氣のすんだ所で
もつて製るに云ふ、コリ方だつた。だから英國へゆかれた人は、ケンブリッジのを安
心して、使用するわけです。

若い人はハデ
な色

所がやつぱり、ハデな色も、若い人々から要求されたので、マダートン會社は、出
來るだけ不変色に、近いものを、別にこしらへ、これをケンブリッジ繪具の補色に使
ふに云ふ事になりました。

佛蘭西製の繪
具が流行する
理由

日本の畫家は、佛蘭西へゆく人が多いので結果、佛蘭西の繪具が流行してると云ふ
わけですが、最近、佛蘭西では、フランが下落しまして、爲替相場は下る、品物は反對
に、原料を他國から輸入するので高くなるに云ふ様になつて來ますから、繪具の流行

もさうなりますか。

繪具の流行は
外國爲替にも
よる
白耳義のプロ
ツクスの繪具

繪具の流行は爲替による事が一つの原因ですから、繪具は品質本位でゆくより外あ
りません。白耳義にプロツクスが有名です。

佛國ブランシ
エの繪具

佛國のブランシエ（創立一七九六年以前）の繪具、その會社は小さいが、親子で
やつた時は、エミール・ブランシエに云ふてましたが、子の代になつて、ロバート・
ブランシエに云ふてゐます。カンバスが最もよく、日本へ知られてゐます。

佛國アンボ
ールの繪具

佛のアンボール繪具は、品質はよろしいが、大量に各國へは出しません。モラン・
エ・ジアーネーに云ふ屋號の家で出來ます。

佛國エドワ
ールの繪具

佛のエドワール（創立一八四四年以前）繪具に云ふのは、小さい店で作られてゐ
ます。モアスキ云ふ人がやつてたのですが、親が死んで、子供がやつてたが、失敗閉
店したのを番頭がもりかへしてやりだした。品質はその人々によつて時々かはる。

佛のルフランは美術品についての、各種の材料まで製造販賣してゐるので、文房具、
ペンペンテング繪具から、硝子繪具等新らしいものをこしらへる。

佛のL・C・H
の繪具

佛のL・C・Hの繪具は分子の微細で明快な色相をもつた手練り不変色の由。

作畫に就て

はでい較粒水顔*
出は。すも料と
來染。故と染と云
ない。め。に。料。け。ふ
事。き。大。け。す。は

にへ顔繪染出とをか染
なく少料具料來染け料
る。は。に。だ。る。め。は
。と。な。け。る。水。粒
繪。を。ら。で。だ。事。従。に。が
具。こ。ぬ。は。が。つ。も。細

油繪具化學主成分表

重なる油繪具の化學主成分を御参考として記載せり表中★★印は完全なる不變化にして★一個を附したるものは殆んど不變色なり。硫化物は銅及鉛を含有する色と混和すれば變色す

作畫に就て

紅色類		化學主成分
クリムソン (佛名ラツクフィンヌ)	レーキ パーマネント	★★★ アリザリン、礬土、石灰
クリムソン	レーキ	★★★ コチニール 蟲色素
アリザリン	クリムソン	★★★ 礬土、アリザリン、(人造レーキ)
アリザリン	ローズ マッダー	★★★ 同
ピンク	マッダー (佛名ガランズローズ)	★★★ 茜(植物)酸土
ローズ	ドレ	★ 同
スマルナ	レーキ ペール	★★★ 同
〃	ミツドル	★★★ 同
〃	ディーブ	★★★ 同
ローズ	マッダー (佛名ガランズフオンセ)	★★★ 同
マッダー	カーマイン	★★★ 同
カーマイン	No. 2	★★★ コチニール色素
朱色類		
フレンチ	ヴァーミリオン	★ 水銀の硫化物
チャイニーズ	ヴァーミリオン	★ 同
ヴァーミリオン	パーマネント	★★★ 同
ヴァーミリオン		★ 同
カドミウム	レッド ペール	★★★ 硫化カドミウム、亞攝列酸鹽
〃	オレンジ	★★★ 同
〃	パープル	★★★ 同
藍色類		
ブラッシアン	プリュー	★ 鐵の青素化合物
インディゴ		★ 植物性鹽(インジゴ)
フレンチ	オルトラマリン	★★★ 硫酸曹達、硫酸、礬土硫化物
オルトラマリン	エキストラ	★★★ 同

五二

油繪の手ほどき

五〇

日本では文房堂の繪具、それは原料を外國から輸入してゐるのでから、それも製造を七八年前から研究、販賣してまゝから充分に使へます。以上の様に油繪具も、個人製造(畫家自身)から、大量製造販賣に移つたのであります。その歴史も、十五世紀頃オランダの畫家ユーベルト及びジャン・ヴン・アイツクの二人が、或程度の發明の最初の人だ云はれ、それから發達して五世紀にもなるわけです。その前から、繪具に油を用ひた人もありました。

油繪具の性質

油繪具は、どんな品物から出來てゐるか云ふ事は、それは或程度まで、各製造會社によつて秘密になつてゐるので、大體の事しきやわかりません。さもなく、顔料(染料)も油も、その他に混合物もがあり、それで出來上つてゐるのです。種々の繪具の原料はどんなものからなりたつてゐるか。それには、文房堂の目錄の中に親切な、次表がありますから轉載させてもらひました。

暗赤色及褐色類

ライト レッド	★★	鐵の酸化物
ロー アンバー	★★	鐵又マンガン含水酸化合物
パーント アンバー	★★	同上 溶燒物
ロー シンナ	★★	天然産土
パーント シェンナ	★★	同上 溶燒物
テラ ローザ	★★	著色土
ピテューメン	★★	礦物性脂
ヴンダイク ブラウン	★	天然産土

作畫に就て

紫色類

マース ヴイオレット	★★	酸化鐵、コバルト、礬土
コバルト ヴイオレット	★★	コバルトの砒酸鹽

黒色及鼠

アイチリ ブラック	★★	象牙の炭化したる物
ランプ ブラック	★★	油煙
ニウトラル チント	★	ダビース グレー、レッド、オーカ
メインス グレー	★	フレンチオルトラマリン混合物
		同上

白色類

ファウンダーシヨン ホワイト	★	鉛ノ鹽基性 炭酸鹽
ウイントン ホワイト	★	同
フレーク ホワイト	★	同
シルヴァー ホワイト	★	同
(佛名ブランダルヂヤヌ)		同
シンク ホワイト	★★	酸化亞鉛

五三

セルリアン プリュー	★★	コバルトの錫鹽
コバルト プリュー	★★	アルミナ酸 コバルト

綠色類

エメラルドグリーン (佛名ベールベロネーズ)	★	亞硫酸曼達、硫酸銅
ギリヂヤン	★★	水酸化クロミウム
コバルト グリーン	★★	亞鉛とコバルト合金
オキサイド オブ クロミウム	★★	酸化クローム
カドミウム グリーン	★★	酸化カドミウム及クロームの酸化物
テル ェルト	★★	天然産土

黄色類

イエロー オーカ	★★	天然産土
クローム レモン	★	クローム酸鉛(淡黄)
クローム イロー	★	同 (黄色)
クローム デープ	★	同 (濃黄色)
クローム オレンジ	★	同 (橙黄)
ネーブルス イロー	★	鉛とアンチモニーの硫化物
ブリリアント イエロー	★	酸化クロームの炭化したるもの
レモン イロー (シトロン・イエロー)	★	クローム酸亞鉛
ストロンシヤンス イエロー	★	ストロシウム クローム酸鉛
レモン イロー メール	★	バリウムの クローム酸鉛
カドミウム シトロン	★★	硫化ガトミウム(淡黄色)
カドミウム イエロー メール	★★	同 (黄色)
〃 ミッドル	★★	同 (濃黄色)
〃 デープ	★★	同 (橙黄色)
〃 オレンジ	★★	硝酸コバルト及ホツシウム複製
オーレオリン	★★	ゴム樹脂
ガムボーシ		

油繪の手ほどき

五二

繪具には、ポ
ツピイオイル
を和したのが
上等

繪具の選擇

顏料の選擇

油繪の手ほどき

五四

それからが油だが、これはポツピイオイル（ケシ油）を用いたものが一番上等だ。粗悪な繪具になります。石油を混ぜたりしてあるのがあります。油の性質については解油の所でのべませう。

繪具を素人の方が買ふべき選擇なさるには、テウブのフタをこつてみて、臭をかいでみる事です。ポツピイオイル獨特の臭がすればいいのですが、外國のステウデントカラーは生徒用ですが、腐つた様な臭がします。しかしアアテストカラー（美術家用の繪具）はそんな事はありません。

次には顏料を選擇してゐるかどうかです。つまり、ピユアー（純粹）のものか、イミテイション（模造品）のものかをしらべなければならぬ。これは素人の方には一寸わからない事です。信用のある店できいて求めるのがいいと思ひます。最もテウブのフタをこつてみて、繪具が筒にくつついてる所が、腐つた鉛色して出てくるのはよくありませんし、又、マツダーの類（紅色）が、出してみてコンニヤクの様になつてゐるのもだめです。又フタをしつかりしてない爲めに空氣が入り、繪具のカタマリかかつてゐるのもだめです。又、氣をつけぬと、運送取扱の關係でテウブに孔のあいてゐる

油繪具は水繪
具より堅固

時がありますから御注意なさい。

油繪具の性質として、乾固してしまへば、水をはじき堅固になりますから、耐久力があります。水彩畫より以上です。水彩は色を重ねませんが、油繪具は重ねる事が出来ます。しかし水繪具の如く、線が出しにくく、早く水繪具の如くにはかわきません。油繪は他の繪具よりも、艶を持ちます。何しろカナリに自由な繪具ですから、今後ますます流行して來るでせう。

油繪繪具と使用區別

諸君は前表によつての百數十種の繪具を見られたならば、その中から、この種ご、この種ごを用ひたら、使つたらいいかに迷はれるであらう。

先づ必要な色としては、十二色か十五色もあれば結構です。限りのない様に多種に多量にても貧乏畫家の買ふ事の出來ぬ所であり、又、十二色位で、その他の色はこさへる事が出来るのですから。

私が十年間の經驗から必要の色は、紅、朱、橙、黄、青、緑、空藍、群青、海藍、

作畫に就て

五五

私の使用する
繪具

繪具は十二色
か十五色位

百餘種より如
何なる色を選
ぶか

脂、赤土、黒こ白等です。

白色の類

白には大別してシルヴァーホワイトとジンクホワイトの二種にする事が出来ます。他の白繪具はその中間物です。

白は雪の場合は勿論、人體にも紅色こまぜて用ひられ、衣服から、壁、紙、其他種類の色の中にも、淡い色には白をまぜる事によつて表す事が出来ます。用途が多いので、特に大きなテウブに入つて販賣されてゐます。半ポンドチウブ入りと云ふのが手頃の大きさです。

シルヴァーホワイト

佛名ではブランドルヂャンとも云ひます。化學主成分は、鉛の鹽基性炭酸鹽からなります。この鉛白はキメがこまかく、固まつても、ネットリした様な氣持ですがカドミウム類とブルーミリオンの類を混合するに變色します。ですからこの白で旗地の白をぬり、その上に朱色の日の丸を描くに良い色にならぬわけです。その場合には、ジンクホワイト（亞鉛白）を用ひ、その上に朱色紅をまぜて日の丸をかけば變色しない

シルヴァー、ホワイト、ジンク、ホワイト、白色の用途

鉛白

鉛白の特徴と缺點

わけです。鉛白は毒物故、御注意。

又、黄い花などをかく時、その花が光線の具合により、又は色が淡い色をしてる場合、ホワイトを用ひますが、この場合にも、ジンクホワイトを用ひた方がよく、このシルヴァーホワイトはいけないわけです。又、肖像畫の顔の場合でも、朱やカドミウムの黄を用ひた時は鉛白を用ゆるに變色する事になります。しかし、私はそんな事をかまはず描いて來てゐました。

ジンク、ホワイト（亞鉛白）

肌ざりはシルヴァーにはかきませんが、他の色こまぜて變化をいたしません。しかし、がさつき、時により、われが來ます。ジンクはシルヴァーより定價は少々高いのです。化學主成分は酸化亞鉛です。

紅色の類

ピンク、マッダー（ガランスローズ）（紅類の一つ）

佛名でガランスと云ふのがあります。これは實に氣持のよい紅色です。化學主成分は茜（植物）酸土です。茜の精からゐるのでして、透明で一種獨特のもので、ピン

作畫に就て

鉛白と實例

亞鉛白

ピンク、マッダー、マッダーは心持のよい透明な紅

ピンク、マツダーの粗製品はコンニャクの様になる

紅色の仕業

カアマインはシヤボテンの密生蟲からと

クリムソンレーキの用途

クマツダーは、製法が悪いと長くおくに、コンニャクの様になつてしまひます。これは買ふ時にチウブをあけてみて一寸しらべればわかります。何しろ、これ等の紅の類は、人間を熱情に燃えしむる妙力をもつてゐるもので、この爲めに、種々の喜劇も悲劇も起つた事です。又、甘い戀のさゝやきも、この色の仕業が多いのでした。

カアマインとクリムソンレーキ（紅類の一つ）

ウツカホントか知らないが、熱帯地に産するコチニールといふ蟲がシヤボテンに云ふあの怪奇な様子をした植物、さうしたものに油蟲の如く澤山居る、その蟲からとつたカアマインだ、さうですから變色します。そして描いたあこ、日があたるに、アセタ、赤になるのです。つまり主成分が、コチニール色素となつてゐます。クリムソンは、カアマインの代用として用ひられない事もないが、とてもあつたよい色は出ないのです。クリムソンはしかし、花から、衣服から、その他、慘酷な、それも戦争で人間もがムジユンした共喰をする時の、あの血の色の場合に用ひられたら似よつた結果が得られるかも知れません。日がたち黒味がかつてくる。

永久にクリムソンレーキの色を保持する

ローズマツダーの用途

粗製品はコンニャクの様になる

ガランスの用途

朱の種類

パーマメント、クリムソン（紅の一種）

クリムソンレーキの變色する缺點をのぞき、永久にクリムソンの色をたもたせるために出來たものです。主成分はアリザリン、礬土、石灰からです。

ローズマツダー（紅の一種）

ピンク・マツダーを濃くした様な色です。つまり紅バラです。女色です。バラの花をかくには是非ともこの色を用ひたく、人間の顔から人體にもこの色は必要かくべからざるもの。この色はピンクと同じやうに、コンニャク様になる事が粗製にあります。又、この色はわりあひ、ピンクと同じく描いたあこ、かわきのおそいものです。佛國ではガランスフオンセト云ひます。主成分はピンクと同様です。不變色です。ガランスは不變色であり、紅色の花に用ひてよく、林檎、人間の顔、衣服、朝日夕日に朱こまぜて用ひられ、朝焼夕焼の空等、又、如何に青春に燃ゆる若者をよろこばす色でせう。全く心臓の色です。

朱色の類

朱は濃い方から薄い色の方へかいてみます。一番濃いのが、チャイニース・グリーン

作畫に就て

リオン、次が普通のグリーンリオン、第三がフレンチグリーンリオン第四がスカレット・グリーンリオンです。これは英國のニウトン會社の繪具での分けかたです。皆、成分は水銀の硫化物です。

チヤイニース・グリーンリオンは、これは、重みこ深い感じが特にする繪具で、漆石の様に、ぎつしりしてゐます。

チヤイニース
グリーンリオン
スカレット

朱色の用途

あごの色は明い色ですが、スカレットはニヤケた色です。
朱は火の燃ゆる色である（紅を混ぜて燃やすと八百屋お七の火事になる）そしてこの色は又、紅と一緒になつて朝日、夕日に用ひられる。花にはあまり縁が遠くない。しかも煉瓦の色である。煉瓦造りの高樓も、監獄の塀も今は二つともさびれた色だ。しかし朱色は朝夕の雲の色ざりこして現れてくる。

黄色の類

クロロウムの黄
カドミウムの黄
クロロウムの長
所と缺點

黄色の類は重に、クロロウムの黄、カドミウムの黄色が重です。クロロウムは私はずきです、しかし硫黄の氣にあふると黒くなります。ですから、硫黄氣の温泉の所などで寫生する時は、クロロウムエローの如きはいけません。そこへゆく、カドミ

カドミウムの
長所と缺點

ウム類の黄はその點は大丈夫です。たゞ、カドミウムは、前述の如く、シルバーホワイトと一緒に用ひない事です。やはり變色しますから、私の考へでは、クロロウムエローを用ひて、色を保存しておきたければワニシを後に塗つたらと思ひます。

クロウムの黄の類はカドミウムの黄の類よりは定價も三倍もちがひますが、よい色を出したければ後者をフンパツスル事です。クロロムオレンジはクロロムエローより濃いので橙色です。そしてクロロウムの主成分はクロロム酸鉛です。

黄色の用途
菜の花

春アナタが郊外に出てごらん下さい。あの菜の花の畑のついでいたところ、そこは何をもつて、あの美しい貴い色をあらはすか。これは黄色の繪具の力をかりるの他ないのです。しかし、如何なる天才がやつても、あの菜の花の色は出ない。

東洋人と黄色
の關係は深い

黄は東洋人の顔の色になくてはならぬ色、そして我々は、本能的にあの色を好む。錢は時にいやしいものだ。しかし、あの黄金の色は高貴な色だ。黄は朝夕の天空の色ざりに最も多く現れる。そして、又、秋再度我々が田園に立てば、稻は波うつて歡喜にまねく。又しても秋から冬の萬葉にも紅や黄が枯葉枯草に宿る。

波うつ稻

青緑色の類

作畫に就て

風景畫家と緑
の関係

ギリデアン
の特徴

ギリデアンの
用途

エメラルドグ
リーン

油繪の手ほどき

六二

風景畫を愛する人は、この青色を最も好むであらう。春は緑、夏は青、黄と青は風景畫家には、なくてはならぬ懐しい色。

○ギリデアン（佛名オキサイド・クロミウム）この色は、すばらしい色です。紅の代表者がローズ・マツダーならば、青の代表者はギリデアンであらう。あの透明なる伶俐な色、深くそして濃く。一度我等が彼を愛用したならば彼から永遠に別れをつけることはとても出来ない。松の葉、桐の葉、椿、檜、櫻、ダリヤ、ヒマハリ、其の他の青葉、皆、このギリデアンのゐないところはあまい。そして彼ギリデアンは黄色と仲よしになつて世界中の若葉、照葉に輝きまねく。ギリデアンは水酸化クロミウムで不変色です。他の色とはなかくの交際家です。

こゝにギリデアンの親族で、エメラルドグリーンと云ふのがあります。あの寶石のエメラミ似た色で心持のよいものです。この色は、他の色とまざる事を好みません。單獨でゆきたがる變り者。交際がきらひで孤獨をすいてる美小女です。主成分は亞硫酸曼達ニ硫酸銅。ほこんと不変色とされてゐます。

暗赤色と褐色類

*岸田劉生木村
莊八氏の指
導しての畫圖

土を愛する者

これ等の色は、明治初年の頃、各畫家に愛用されましたが、今は草土社一派に残さるゝのみ。これは土には、しかしなくてはならぬ色です。ほこんと不変色が多いのです。しかし外國に、又、流行しかつて來ました色です。

土を愛するものは、これ等の色をも愛さなければならぬ。脂色をすく人は又この土を好かなければならない。又、これ等の色は價も安くかへる。

ライト・レッドは赤土色である。鐵の酸化物であります。

ロー・アンバー（鐵及マンガンの含水酸化化合物）

バーント・アンバー（同上溶燒物）

ロー・シエンナ（天然産土）

バーント・シエンナ（同上溶燒物）

ヴンダイク・ブラウン（天然産土）

以上皆、暗重な色です。そして、それ等は昔の肖像にはよく用ひられました。

藍色の類

ブラツシアン・ブリュー

作畫に就て

六三

主成分及び用途

彼は大海に住む。又、山陰に住む。

日本人の衣服の上に現れる色

紫派とは黒田清輝氏の洋行土産の技巧色

袖繪の手ほどき

六四

鐵の青素化合物です。海藍にして、水の色にこれは入用なものです。時に海の濃厚な色合はこれではなければなりません。私はこの色を本當に知つたのは、太平洋にのりだして小笠原島にいつた時です。いかに男性的の彼が大海の上に躍る事よ。その勇敢さよ。プルシアンは又遠山に樹木の葉蔭に現れる。諸君は風景を描く時、そこにも御注意のまなこをそ、いでいたゞきたい。

インデゴ

我等は常に衣服の上にこの色をきる。この色こそは、あまりに見慣れてるわけだ。彼はしかし、他の多くの場所に用ひられない。しかし、夜の空色は彼の住家である。月や星がお友達。主成分は植物性藍（インジゴ）である。

オルトラマリン

日本では群青に云ひます。日本畫家に愛用されてる。この色は印象派が現れてから、ヒドク流行した紫派に云ふのがあつて、物の蔭影にはこれではなければならぬとされた。日本に脂色で使用された次に、美しい色にして、このオルトラは紅に握手していまだに風景畫の一面に覇をしめる。主成分は硫酸曹達、硅酸、礬土硫化物からである。

る。

コバルト

群青の青味を味びたものに、その親類であるのが、このコバルト（空藍）です。彼女は實に心持よき空の女王である。女は油繪具の他の色にまざる事をきらう。彼女は實に飛行家の服に宿る。又、西洋労働者の青服です。日本の労働服（シルシハンテン）はインデゴで染められる。コバルトは理想家である。又、彼女はいつも彼女の姿を大水にうつす。コバルトブリュはアルミナ酸にコバルトの主成分から出来る。彼女は三原色の一つとして原色版畫には交際する。

黒色の類

紅と朱との赤が、共産黨の色だつたならば、まさしく黒は無政府黨の色である。黒は東洋人が昔から好んだ色彩であり、線である。今や畫人は黒にめざめんとしてる。黒の力、黒の統一力、七原色を全く含めたものは黒である。黒は深い、そして強い。東洋の蔭は黒である。西洋の蔭は紫である。黒は我等の色だ。私は黒は大好きだ。黒は永遠の色彩だ。黒は大なる苦勞人だ。彼はアラユル七色を経験して。だが彼は

コバルト色は空の女王

黒は理想郷の色

東洋藝術の代表色

黒の勢力

作畫に就て

六五

白と反對だ。黒は日光にあつて變色しない。

黒は二つにわけて、アイボリーブラックと、ランプブラックにしよう。

アイボリーブラック。これは象牙を炭火したものである。黒でもこれは明るい、やはらかい黒である。そして多くの人々はこれを使つてた。しかし、ランプブラックのある事も知つていた。これは油煙である。これは深黒なものだ。

眞暗い夜は黒だ。神秘だ。東洋人の髪も黒だ。目の玉も黒に近い。タドンも黒だ。大地の神は大黒様云ふ。あのタハラに乗つた偶像はつまらぬものだが、實在の力は尊敬すべきものだ。大地の神秘は黒である。

畫 面

畫布 (カンブス)

畫布が何故、麻布でなければいけないか。綿布でもよさそうなものだが。ところがこれは化學的の油繪具が、畫布に對する作用に向ふて、綿布は麻布よりも耐久力が弱いからだ。麻布がそれにもつて來て、畫面にしてたもつ上に、畫布を張つた場合に伸

アイボリー、
ブラック、
ランプ、ブラ
ック

黒の用途

大地の神秘

畫布に麻布を
用ひ綿布をさ
ける理由

麻糸と綿糸の
化學作用

白味がちと、
黒味がちの麻
布は質がちが
ふか

畫布は製して
から、二ヶ月
以上たつたも
のを、用ひたい

畫布製造所

縮が少ないからでもある。綿布だミタルンでしまふところを麻布はたるみの度がよくないのだ。強いのだ。

そして麻糸の纖維と、綿糸の纖維を比較するに麻布の方が長いのだ。この長いこと云ふ事がやがて、化學繪具にかされ易くないこと云ふ事になる。何しろ、油が纖維に作用する力は馬鹿に出來ないので、纖維が短いとその内にシンニウする事が多く、従つて早くもろくなつてしまふと云ふ事になるのです。

麻布の白いのは、黒味がかつたのより品質をギンミし丈夫であると思はれるが、それは、表面だけの考へで、同じ麻布でも晒しの具合によつて白くも黒味勝にもなるのだから、同じ品質のでは、白い色のだから上等と云ふてゐないので。純粹の麻布はやはり纖維の長いのがそろつてゐるのがいゝのです。

畫布は製造工場を、二ヶ月以上すくなくとも下塗をば乾燥させなければならぬ。塗つて二三日してすぐ、使用に出すことになる。下塗がなか／＼十分に乾いてゐないので、結局それは布に對する繪具の密着をよわめて、はがれがちにしてしまふ。畫布の製造所では、丁度紺屋が布を張つて干してゐるのを我々は時々みるが、あゝし

作畫に就て

た具合で、巾広い長い下塗をした畫布を段々上の方へ干して二ヶ月以上もおおいこく
のだから、随分場所をこり、そして屋根には換氣法として、くるく廻る風入れがつ
いてゐる。さうした装置のもこでこさへる。出来上るまでにはなか／＼のものだ。

各カンブス製造會社の長所短所

佛蘭西製としてはブランシエーのが長く知られてゐます。

ルフランのは評判がよくありません。

所がベルギーに大規模のカンブス専門の會社が出来たのです。彼の説によりま
す、畫布の下塗に油を入れてあるので、これは、繪具の變色をきたすおそれがあり、
ベルギーの大家は油氣のある畫布は使用せぬと云ふのです。そして油氣を抜きにして
十年程前から始めてる會社は、ビクタークレツサンスカンブスです。そこのは三メー
トルから四メートルの中のもつくるのです。そしてクレツサンのは比較的安く賣る
さうです。それ故ブランシエより使用があるこの事。

ニウトンの畫布は繪具でもつて、良品であること云ふ評判をこつたので、カンブスも
賣れてゐます。ニウトンのは三尺三寸巾です。そして畫布がネヅミ色をしてゐますの

各カンブス製
造會社の長所
短所

ルフランの畫
布

ビクター、ク
レツサンス畫
布

ニウトンの畫
布

最近佛蘭西カ
ンブスを使用
する人多し

ニウトン畫布
の缺點

英價と畫布

日本製の畫布

で一寸うけがよくありませんが、安いので一方に賣れること云ふ點もあります。下塗も
佛蘭西はちがひますが、布の織方もちがつてゐるのです。

日本の古い人たちはニウトンのを好みます。最近の人はフランス物を用ひます。こ
の三尺三寸巾云ふニウトン畫布は、一本一丈八尺ありまして、地方の畫家に賣れま
す。それは地方の人々は八號大か十號大のものを多くかくからです。

そこへゆくフランスのは一本三丈三尺の長さで、巾六尺六寸あります。ニウトン
に比して四倍です。これでか、れたほうが耐久力があるようです。ニウトンは畫布が
固く、上つ滑りが描く時します。それから一度折目がつく、佛蘭西や、ベルギー製
の様に容易に折目がされません。ですからニウトン製はあつかひに注意してほしいの
です。

それに英國製の賣れの遠いのは、英價が上つたから、賣れゆきがすくなくなつた。
五六年前までは随分ニウトン製も賣れたものですが、クレツサンス製の畫布が出て來
ましたから需要はさうなりましたか。

畫布は日本では出来ないか云ふ、さうではありません。東京の文房堂のはかな

作畫に就て

りに使用出来ます。そして製法も眞面目にやつてる様ですから、益々完全に近いものが出来ませう。價も安い故に、初學者の人は是非試用してごらん下さい。二尺五寸巾から四尺二寸巾まであります。

さあ、始めてお習ひになる方は、どんな畫布を用ひたい、か云ひます。寫生から入つてゆく人が順序ですから、麻布の織糸の太いのはつまり、織目の太いにより、従つて畫布に下塗がしてあつても、思ふ様に表はせませんものだから、私の考へでは、初めの人には、細かい目の畫布をおす、めします。云ふて極細なん云ふ、價も高く細すぎていけません。極荒目、荒目、中目、細目、極細目、ありますが我々は中目、細目を用ひませう。

そして、さあ、どの位の大きのがい、かアナタがお問ひになるなら四號云ふ大きさの、それは半紙大位です。次が六號、八號、一圍りづ、大きくなります。これ等の大きさは、畫布の* 枠の大きき等しいので、後に表を出しますから、四號だの六號だの云ふ寸法はそこでみて下さい。

又、四號なり六號、八號なりには各、風景用の六號だの、人物の六號だの、海面の

初心者は、どの位の大きの畫布を用ゆるか
畫布をピンと張るため、畫布の裏にあて、四角な四本の棒の組合しための
種類、風景、人物、海面用

如何なる畫布を初心者は用ゆるか

六號だのこの區別があります。人物用が一番巾が廣く、次が風景、海面用云ふのが最後に布がせまいものです。

又、畫布には、アブソルバントの畫布云ふのがあります。これは、畫布が光るのがきらひな人が用ゆるのです。價は普通のより高いものです。

* * * * *

畫板。油繪は布にかく事にかぎつた事ありません。板にかくのもい、ものです。板ですから、今までは大きなものは有りませんでした。そして半紙大位の大きの、スケッチ板云ふのがあり、これが一番多く使用されてゐます。しかし、もつこ大きなものも、もつこ小さいものもあります。板の種類は桂か朴(ホウ)とあります。板はよほぎ柁目のそろつたのでない、板が風や陽に當つて、やけにそります。つまり板を見た時、筋の巾の廣い所のあるのがいけないので筋がつんでる赤味がかつたのがい、のです。

近年ベニヤ板にて、圓木を蒸して卷紙を開く様にけづり、その薄い板を縦横に張り合した、疊一疊から六尺四方の板があります。これは陽に當てなければ使用出来ま

アブソルバント畫布

畫板の大き

板の材質の種類、板の選擇

ベニヤ板

カンブス、ポ
ールド

油繪の手ほどき

七二

す。小さいのは安いから試してごらん下さい。材木屋によく賣つてゐます。尤も、すべて、畫板の裏には藥屋から木蠟を十錢ほど求めそれを板の裏にこすり、火にあぶり布でグングン力を入れてふき、そのあこへ、ラツクニス（ビール瓶大一本一圓以下でかへる）を綿につけ、手早くぬりおけば、雨風にも板のそりが少ない。板のフチまでぬればなほ確實です。

カンブス・ポールド。ボールの紙にも油繪はかけます。そして、畫布がそのボールの上にはりつけてあるのです。これはあまり使ふ人がありません。ごうもそりたがり安つばいものです。

畫紙

油繪は、畫用紙にも、唐紙にも畫箋紙にもかけます。いつれこの事は、新油繪にしてのべませう。又、手製畫布の製り方は後方に章をあらたにしてのべませう。

油繪 枠

枠は畫布をそれから、ベニヤ板の大きいの等に用ひます。角の木の棒を四角に組みその上に畫布を張る。

畫布の號數

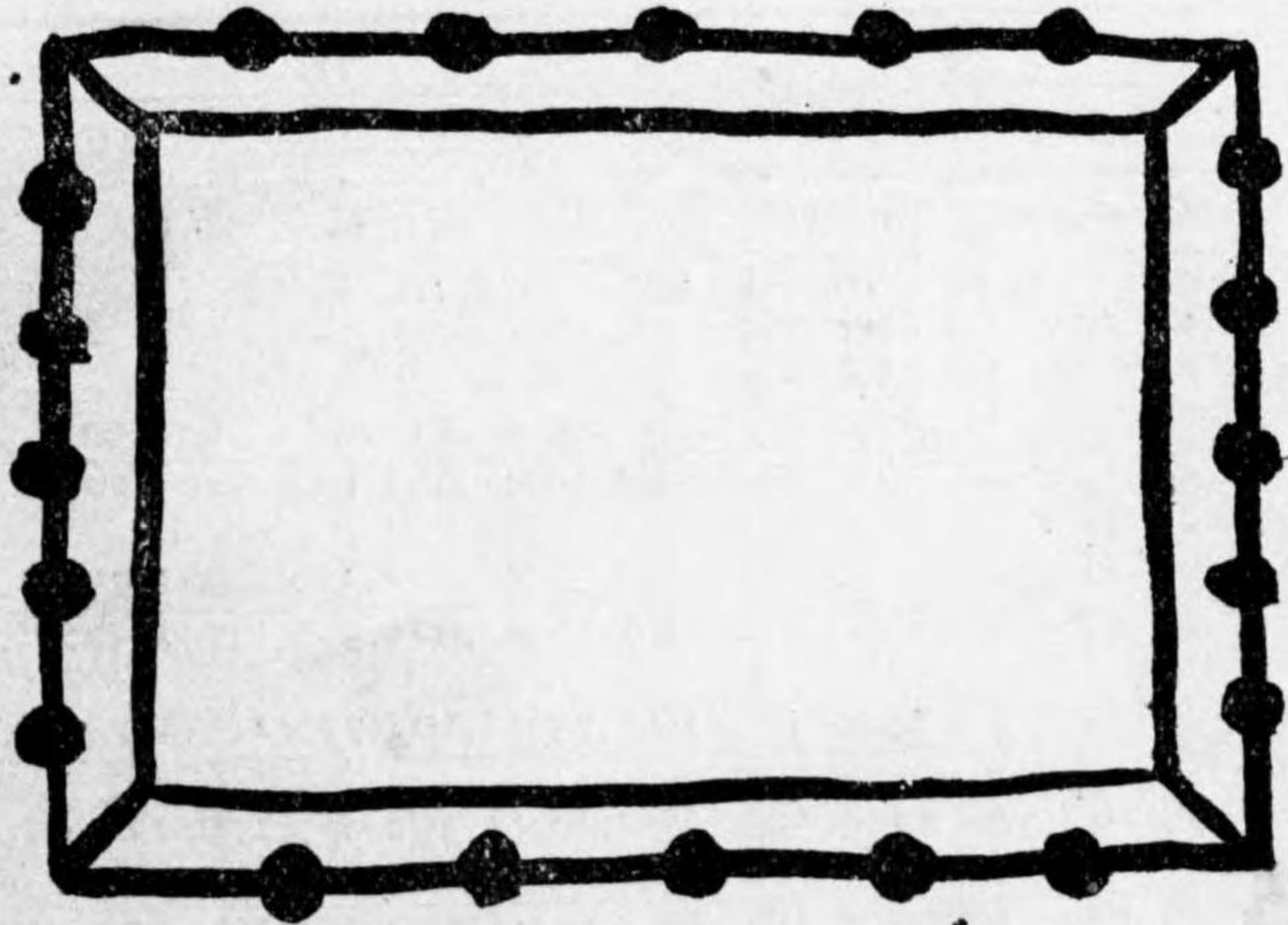
FRENCH SIZE			JAPANESE SIZE			號數
marine	paysage	figure	海面	風景	人物	
22×12	22×14	22×16	—	—	—	1
24×14	24×16	24×19	—	—	—	2
27×16	27×19	27×22	.90×.53	.90×.63	.90×.70	3
33×19	33×22	33×24	1.10×.63	1.10×.76	1.10×.80	4
35×22	35×24	35×27	—	—	—	5
41×24	41×27	41×33	1.35×.80	1.35×.90	1.35×1.05	6
46×27	46×33	46×33	1.50×.90	1.50×1.10	1.50×1.25	8
55×33	55×38	55×49	1.75×1.10	1.75×1.35	1.75×1.50	10
61×38	61×46	61×50	2.00×1.35	2.00×1.50	2.00×1.65	12
65×46	65×50	65×45	2.15×1.50	2.15×1.65	2.15×1.75	15
73×50	73×54	73×60	2.40×1.65	2.40×1.75	2.40×2.00	20
81×54	81×60	81×65	2.65×1.75	2.65×2.00	2.65×2.15	25
92×60	92×65	92×73	3.00×2.00	3.00×2.15	3.00×2.40	30
100×65	100×73	100×81	3.30×2.15	3.30×2.40	3.30×2.65	40
116×73	116×81	116×89	3.85×2.40	3.85×2.65	3.85×3.00	50
130×81	130×89	130×97	4.30×2.65	4.30×2.95	4.30×3.20	60
146×89	146×97	146×114	4.80×2.95	4.80×3.20	4.80×3.70	80
162×97	162×114	162×130	5.35×3.20	5.35×3.70	5.35×4.30	100
195×97	195×114	195×130	6.40×3.20	6.40×3.70	6.40×4.30	200

作畫に就て

枠は手製で出来ま
す。大物になつたら
棧をつける事です。
さうしない枠がね
ぢれてしまひます。
別記の表は、佛蘭
西の日本を並
べてみたもので、日
本のは曲尺（カネジ
ヤク）です、鯨尺で
はありませぬ。
畫布に四號だ六號
だ十號だ、二十五號
だ、五十號だ、百號

七三

畫布の張り方



さて枠の長さの短い方から、釘を打ち始めるのですが、C DよりもA Bから先にや

だ云ふが、ここから出て来たのか云ふは佛蘭西のサイズ(大きさ)からのもので、定めたので、あつちこ、こちらこ、ものさしが異なるので多少の差はあります。

畫布の張り方

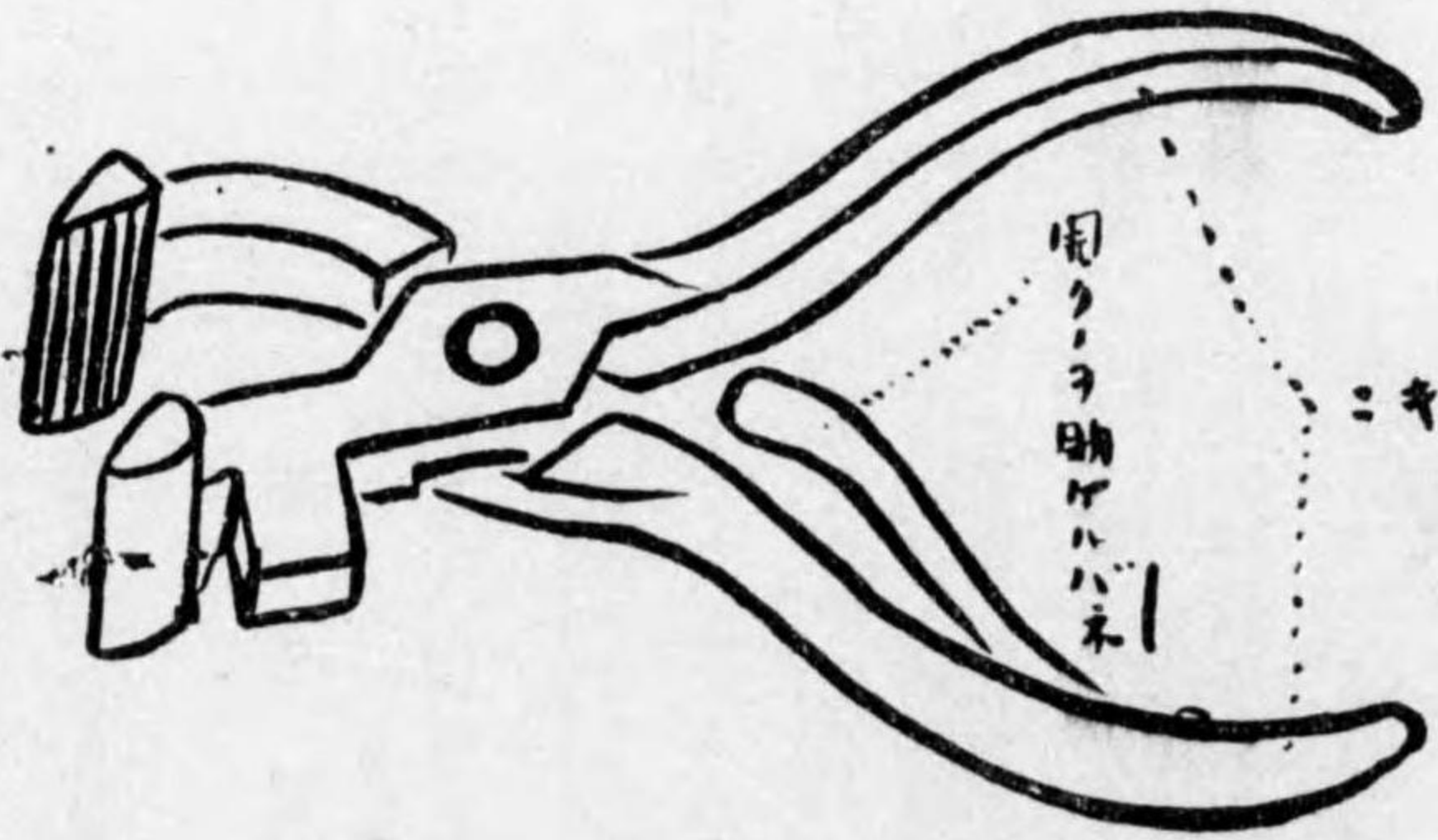
畫布を枠にむやみに張りますとたるみが諸所に出て氣持の悪いものです。

先づ、畫布を疊の上に裏向けにして擡げる。材料店で賣つてる枠ですこ、枠の面に裏表があつて、表の方は板が傾斜してゐる。その表の方を、畫布の裏向けにしてある上にのせ、枠と畫布の位置に注意してなるだけ真中におく。

釘抜きたいものに説明してあります

ります。G A Eから、枠と畫布を持ち、起し、そしてAに一本釘を打つ。それは、畫布枠

畫布枠張器



作畫に就て

畫布のハシをけさむ

張器の喉に金槌の頭がありますから、それでうつのです。十號や、十二號位の畫布でしたら、手で引つばつて、カナヅチでた、いてさしつかへないのです。次にBの部を枠張器にて、畫布をはさみ、折りまげ、引つぱり、適度を見て釘を打つ。緩急はこれ布の強弱にもよりますが、何はともあれ經驗がそれを知らしてくれれます。次にC Dをゆく、次にC點の近くから折つて見る。次にDに打つ。それから四隅に向つて、次々、張を等しくして對する邊の向合せに打つ。そして隅で引きしめ行けば、ピンとしたものがいくら大きな畫布でも出来る。

畫布枠張器

無くてもいゝが、大物の畫布張にはあればこれにこした事なしです。鐵製ですから一個あれば永くもちます。日用品として、カナヅチ、釘抜の代用となる。

筆 と 刷 毛

筆か刷毛か

筆云ふていゝか、刷毛云ふていゝか、あなた方に一寸御説明するのにこまりませんが、油繪用の毛先が切つてないので筆ですが、形からゆくゝ、刷毛そつくりのがあります。そして、それを英語でブラッシュ云ふのですから尙更まごつきます。この邊の所は讀者諸君のみこんでおいて下さい。以下私は筆云ふてかいてゆきませう。

筆 毛 の 種 類

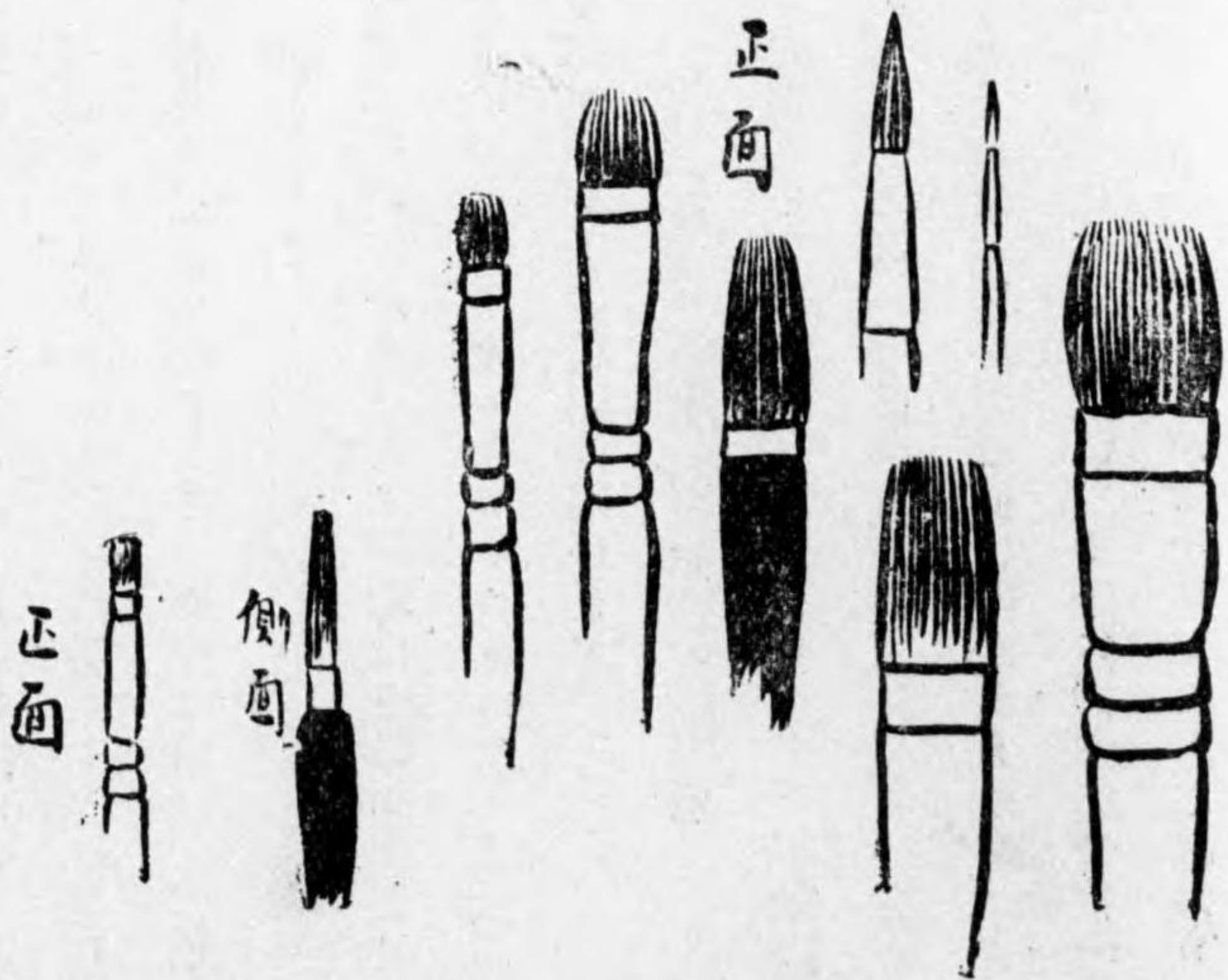
筆毛の種類

油繪の筆を毛の種類によつてわけます。豚毛、貂毛、狸毛にわけれる事が出来ます。そこへ私は日本製の馬毛の様な細筆や眞書を加へて、この位になります。

豚毛の筆

豚毛のは豚の背にあるかなり上等の毛を用ひます。豚毛には眞直なのも、曲つたのも、毛先が二つにわかれてるのがありますから、二つにわかれてるのを、はねてしま

貂毛の筆



ひ、眞直なのを筆の眞中に入れ、そのまはりに段々曲つたのを内側に向けて、そろへてゆくのです。ですから、上手に出来たのミ下手に出来たのミは、値段がずる分ちがふわけです。

貂 毛

これは英語で、セイブル・ヘヤー云ひます。セイブルも、貂の側の毛、首筋、モモ等、又太い細いによつてちがひます。純貂毛の細い、艶のあり、弾力のあるのが良いとされてゐます。貂の毛は指先でさはるゝやはらかいが、油繪具をつけた時に

作畫に就て

は割合しつかりしてるので使ひ心持がい、。これは永く用ひても、尖つて、細いけ
ぎ、強くてスリキレヌのが特徴です。しかし貂の筆は豚毛の筆の様に澤山繪具をつけ
て使ふ人には不向きです。豚毛は白いが、貂毛は赤い。

狸毛

黒毛に狸毛があります。貂ほごにゆきませんが、やはらかいものがい、のです。そ
れから、シベリヤ・オツクス・ヘヤーミ云ふのがありますが、やはらかいもので、セ
イブルヘヤーの代用に用ひます。

筆の形の區別

筆の形の區別

大別して、平筆と丸筆とあります。平筆には短いのに長い、厚さの薄いのに厚い
の、筆先の圓いのに平たいの。

丸筆には、短いのに長いのがあります。すべて、筆には大小があります。アナタ方
がお求めになるのには、平筆の、巾二分位の三分位の五分位の、それに、丸筆は、
舶來もよいが、日本の文房具屋にある眞書筆や細筆も使用してみてもいい。

筆の使用向き

筆の使用向き

大作をするには、細くない所は、例へば大空をぬる場合等には、大きい平筆を用
ゆるこよいと思ひます。早く、むらが少なくかける。木の葉などは、平筆の小さいの
や丸筆でやる。たいていの場合には平筆の小さいのでやれるが、細長い線を引くとか、
小さい點を描く場合にはさうしても丸筆を用ひなければなりません。

筆の製造先は舶來と和製とあります。両方とも使用してみたらさうです。

クレイオン

これは畫布に輪廓をこる時、私がやる方法で、クレオンも鉛筆の代りに必要です。
品のい、クレイオンを用ひて下さい。

混和液

油絵に用ゆる
油の種類

油繪繪具用の油には、用法によりまして、解油、ワニシ(艶出し油)ミトライヤ
(乾カシ油)等あります。

解油

これを三つに分ける事が出来ます。ポツピーオイル(罌粟油)、リンシードオイル

作畫に就て

ケシ油
ケシとはどん
なものである

油繪具の第一
が用なるもの
がこの油

油は年數がた
てばたつほど
い

油の善悪

(亞麻莖油)、テレピン油。

ポツピー・オイル

これはケシ油で、ケシの實から採るものでして、ケシは皆様御承知かも知れませんが、餅菓子で大福に似たので、上に細かい、薄茶色の砂みみたいなブツ／＼のついた、こうばしい美味しいお菓子を御存じでせう。あのブツ／＼が、實なのです。ケシの實はアヘンが含有されてるますから澤山たべるこのほせます。

このケシ油は、油繪具の製造に第一にかくべからざるものであります。ポツピーは亞麻莖油より質が上等ですが、値段が高いのです。

油は、搾り取つたからとて、すぐ使用する事は出来かねます。それは不純物が澤山に交つてますから、さうしても甕に入れて、一年二年三年も保存したものを用ひなければなりません。だから製造業者も、良い物を賣るにはなかく／＼待ち遠しいものだ。

素人には油の善悪はさわかりかねるものはない。ポツピーの粗製品になるこ、リンシードオイルにテレピン油を混ぜて、ポツピーだなどて賣られたこてわからず、勉強して安く賣つてののだと思ふこ、實はさうでない場合がある。専門家ならば油の良

い悪いはしらべれば、ポツピーはポツピーの比重があるから、不純物が入つてゐればほゞわかるが、油屋は、労働品物が長くなる仕事ですから、なかく／＼骨でせう。ですから、文房堂あたりでは、油からと云ふより、實から仕入れて製造するさうだ。そして年數をおく。さうでないと確實なものが出来ないといけないからだこ。

外國では、ニウトンこ、ルフランのものは純粹なものにしていゝ。それはニウトンののは、ポツピーが十分にカラシテあるからです。貯藏しておくこ油が年數共々軽くサラ／＼になります。粗製のは繪具に合して熱を生じて來ます。油の純粹なのは無色透明です。

佛西蘭物は、無色透明さゆかない。ポツピーの晒し方がたりないのでせう。晒方のキイテルのこ、キカナイのは、繪具の色に異ひを生じて來ます。

ボイルド・リンシード・オイルは、ポツピーの代用として價も安いので用ひられる。又、ボイルド・リンシードは、ネバリが有つて黄色の皮膜が、繪具の上にかぶさるのこで、繪具によつてはこの油皮が邪魔をする。リンシードの粗製品は、ペンキ繪具を製する時に用ひられる。

作畫に就て

外國で上物は
ニウトンとル
フラン

ボイルド、リ
ンシードオイ
ル

こもかくあなたは、ボツピーミリンシードミ、兩方御使用になつてごらん下さい。和製でも十分です。小瓶のがい、でせう。

テレピン油(ターペンタイン)

これを用ゆるミ、繪具の中の油をもつて蒸發するので、早く繪具がかわくが繪具に艶がぬける。又、テレピン油は、繪具でよごれた筆を洗ふのにも使用される。

艶油

グニシ

グニシは、知らない人は、乾きの早いもので、早いほゞ性質もよく、結果もよいものだミ御思ひでせうが、實はそれミ反對なのでした。そしてグニシは一たいに黄味を帯びたものです。そして、繪具にまぜて用ひられ得るグニシは、そこへ艶も出ます又まぜてはいけないグニシもあります。繪具屋にあるものは舶來品で、すぐそのまゝ、使用出来る様になつてゐます。種類は種々あります。

マステック・グニシ

これは、繪を描いて乾燥後にぬるグニシで、繪具ミ一所に、繪を描くのに混用して

グニシの善惡
グニシは黄味
を帯び艶を出
す

。テレピン油

はいけません。一番グニシの内早く乾くので、繪具ミ分離したが、一方は固まり繪具の方は、固まりがおそい。そこで、エミワレが出来るので。つまり、湯飲によゝあるヒ、燒ミ云ふた風になる事もあります。

エルニア・タブロー

マステックよりも、乾きおそく、比較的さらくしてゐる。そして繪具の艶をもたせる。これは繪具ミ混ぜていゝのです。又、描いた後にも用ひられる。つまり、オイル又はターペン、又、ペトロール(佛國製の解油)を混ぜて適當に用ゆるのです。

エルニア・パンドル

パンドルは、タブローよりも、乾きがおそい。サラくミしてゐる。半成の畫面に筆を加へんミする時には、この少量を塗るミいゝさうだ。パンドルは非常によく用ひますが、薄めるには、リンシード、ボツピー、ターペンタインを用ひ、マステックやペトロールを交ぜるミいけません。乾きがマステック等は早いものだから。

ニウトン會社やケンブリッチには、アンバー及びホワイトラックグニシ及びコーバルグニシ、及びピクチュアグニシ等がありますが、大同小異で、使用人によつて待

パンドルは、
タブローより
乾きおそい

エルニア・タ
ブローは便利
なグニシ

ホワイト、ラ
ツク、ブニシ

つみ云ふ風です。
ホワイト、ラツク、ブニシはアルコールでこかぬこいけません。ペトロールも混ぜるこ白くなります。

修正用油

エルニア・ルツシエー
ルツシエーは英語でいふミレタツチングですから、作品を修正するのに用ひられます。これをぬりおきて描けば、色もよく落付よくなるさうです。

オーフラマン
ド(洗液)

オーフラマンド

これは、ホコリ等でよごれた作品を洗ひます。描きたての様に繪が生き生きして来る事になつてゐますが、これも用ひてみた事もありますが、それほどでもありませんでした。さもなく紹介だけしておきます。

道 具 箱

スケッチ箱

室内用繪具箱云ふ・大層立派なものも出来てゐるが我々には用はない。

スケッチ箱と
繪具箱

スケッチ箱と云ふか。繪具箱でも云ふたらよさそうなののに？
がこの箱は、スケッチ板が、フタの方に入る様になつてゐて、一寸スケッチでもしやう云ふまきに携帯用に便利に始めこしらへたからだ。

スケッチ箱に
は種々の用具
が入る

この箱は道具が種々入るもので、繪具、筆、油壺、パレット、パレットナイフ、スケッチ板等。大層使つてよく便利なものです。

用材の區別

用材からの區別。桐、胡桃(クルミ) 楢(ナラ)オーク) があります。

桐 製

桐は白くて軽い。それに木質にねばりがあるのでよけい用ひた。そして金具を用ふる所だけは山桐をはめたものでした。大戦争前は、桐は多く使用されましたがその後は胡桃云ふ風に變つて來た。

胡 桃

堅く従つて丈夫で重たい。桐より五割重たい。滋味があり、弱々しくない。これが桐に變つた戦争の影響だらう。しかし女の方は桐が軽いので用ひられる。

楢は木口を出すこ、木目が面白いものです。一つの木で木口を出したのが七枚これ

作畫に就て

楢製のスケッチ箱

胡桃製のスケッチ箱

桐製のスケッチ箱

フとは雲の如き模様を板からだしたものを

箱への塗り方

ラウンの板の箱

マホガニー

スケッチ箱の形からの區別

外國には金屬製のスケッチ箱あり

るこするこ、目なりは十枚されるので、木口から、フを出したのはキレイですし、ニスをかけるこ、美術的箱に見える。この木も十年前には、ケバケバシイ云はれましたが、今こなるこ、これでなければならぬ様になつた。

箱への塗方も粗製になるこ、一度しかぬつてない。固く塗つてないのだから雨でもかゝるこハゲツチョロになる。塗料は薄くこん氣よくテイネイにぬるのが秘訣だ。

スケッチ箱の板にラウン云ふ南洋からのを用ゆる所もある。この木はモロク、蟲が喰つていけません。又、ねばりがなく、従つてそり易い。ラウンは、マホガニーに似てるので、マホガニーだとして賣りつけるむきもある。當のマホガニーは、ネバリがあり、色が良いのである。それに大きなマホガニーの板などは、高くすくないものだ。

形からになりますこ、スケッチ箱には、大形、長形、小形こあります。大形はスケッチ板が二三板入る大き。それから長形云ふのは、大形の半分位で、大形に入るパレットの二つ折のが入る様に出来てゐて、長形はテイサイよく、軽いものですから、今流行の最中です。小形は中途半端ですから、おすゝめ出来ません。

外國には金屬製の種々の型の箱がある様ですが、やはり木箱の方がいゝと思ひます。

す。箱を肩よりかつぐ場合に、革紐をうつてゐます。

塗 架 (イイゼル)

畫架こは、描かんこする畫布を、たてかけるものであります。室内用の贅をつくしたのものには、一臺百圓ほごのものもあります。これは我々にはほんご關係がありません。我々は郊外用云ふのを室内にも應用出来ますから、それにしませう。

畫架は室内用はこもかく、郊外用のは天日にさらされるのでありますから、クルヒのこないものでなければなりません。その要件こしてはその木がねばりつこく、堅く軽くなければなりません。これには櫻が適してゐます。櫻の中でもシウリ櫻が良いので、ガンピ櫻は、固すぎてねばりが少ないので、畫架を開いてたてる時に、ネジが滑る缺點があり、又重いのです。シウリ櫻の畫架に限りません。

畫架には種々の形がありますが、最も普通に用ひられてゐる、前圖の如きのが値も安く一番便利です。勿論疊込みが出来ますから持運びには大してさしつかへありません。

畫架とは

室内用と郊外用の畫架

郊外用畫架の要件

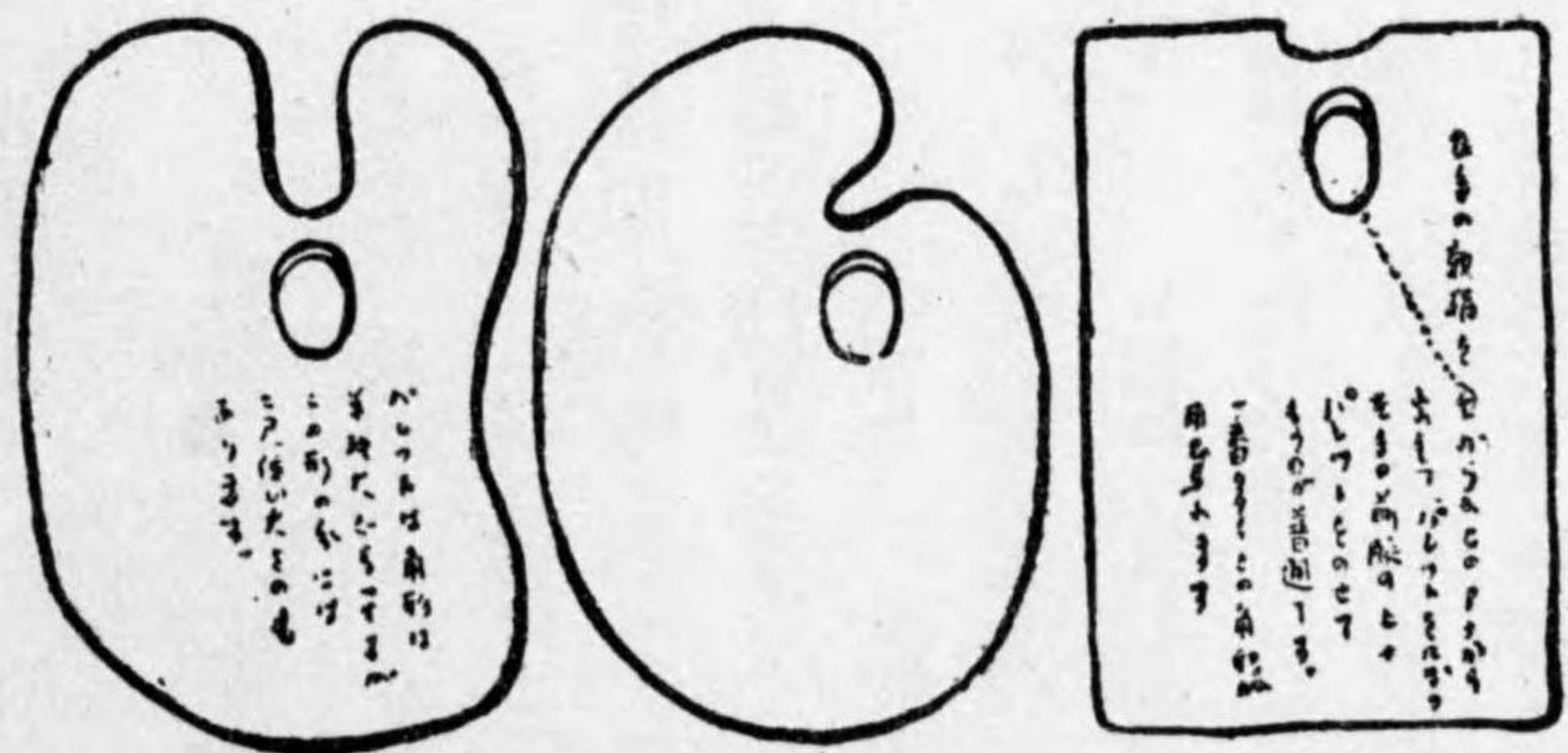
櫻の木材

畫架の形の種類

パレットも櫻

パレット(調色板)の種類

パレットに繪具の並べ出し



パレット(調色版)

パレットも櫻製が多いが、それは板の目のつんでゐるのが良品で、シウリ櫻がいゝ。板の毛孔が浅いからだ。ガンビは毛孔が深いので、筆の毛がきれやすい。合理的のものが、安物は誤つた利益の爲めに不合理のものを生じた。初學者の一考を要します。極大でマホガニ製のものもあります。しかしこれは我々には縁遠く、室内で金のある人が用ゆるのです。

パレットの形には、上の三種類位あります。パレットには、繪具をぎんな風に、ならべますかについて、一寸のべませう。私のは、こんな風です。明いのを右上から暗いのを、左上そして左下まで並べます。しかし、青、黄、赤は、風景畫をかくのに、混ぜ合

せなければならぬので、接近させてあります。これもきまつた事はないのですから、あなたのすきにおならべなさい。そしてあなたの好むごほりに、その板の上で調色してごらんなさい。

パレット・ナイフ

パレットについてゐる、不要になり、かたまつた繪具等を、さりのぞくのに、これは必要です。和製のでたくさんです。

ペインテング・ナイフ

これは、パレット・ナイフに似てゐますが、筆の代りに、左官屋の用ゆるのこはちがひますが、コテを用ひて、それに繪具をつけて描くのです。すべらつこい、繪具の効果が出てくるものです。これは金屬製のものである事勿論です。形は幾種もあります。

油壺

作畫に就て

パレットナイフ、ペインテングナイフ、油壺の説明圖は四三頁を見てください

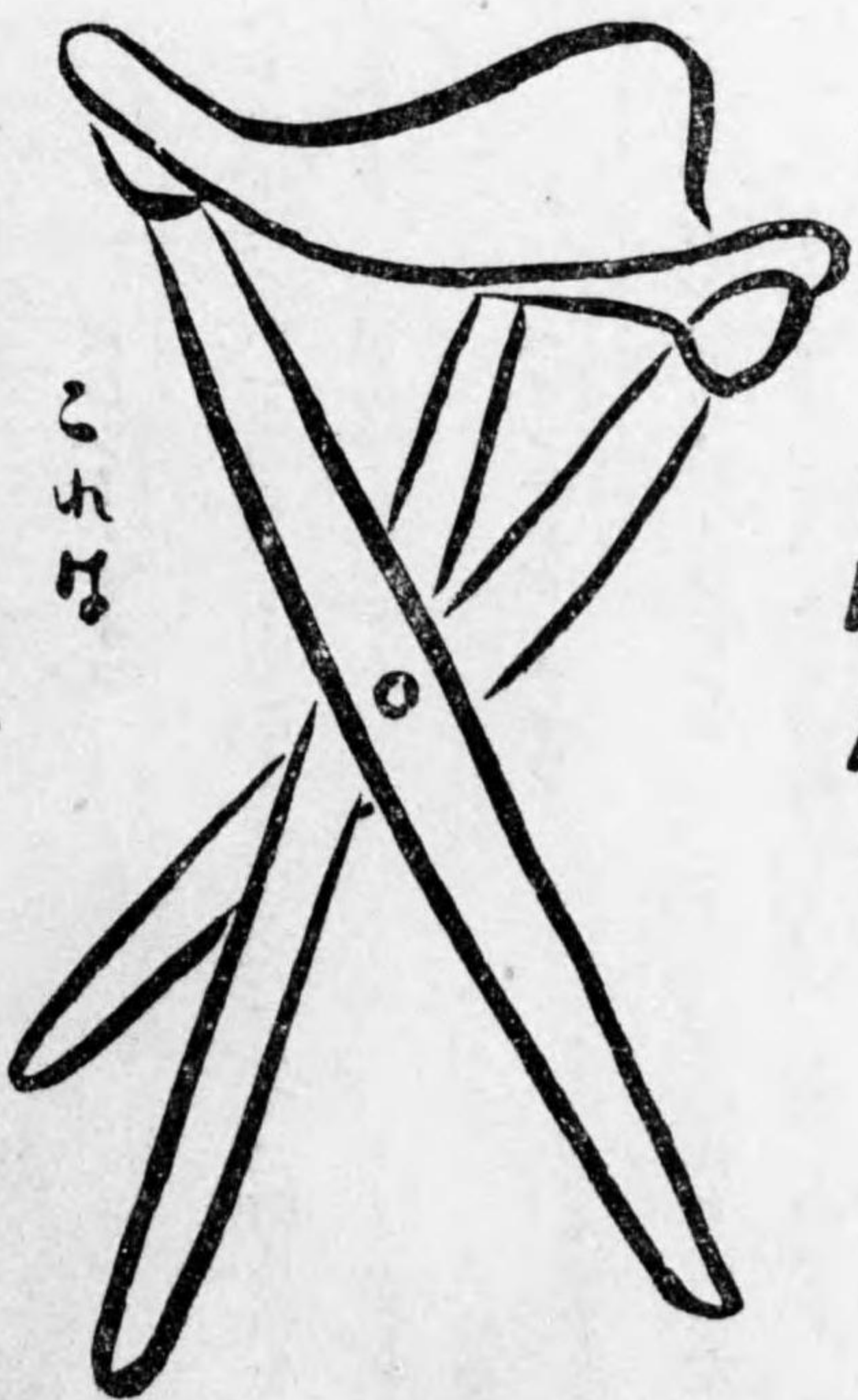
油壺の種類圖
に角
一個に二個付

袖繪の手ほどき

描くのに便利の様に、パレットの右側の上方に、つけれる様に金具が裏についてる
金屬製の壺です。一個のミニ二個くつつてるのミニあります。圓形三角形ミニあります、圖
に示す様なものです。

三脚床几

三脚床几

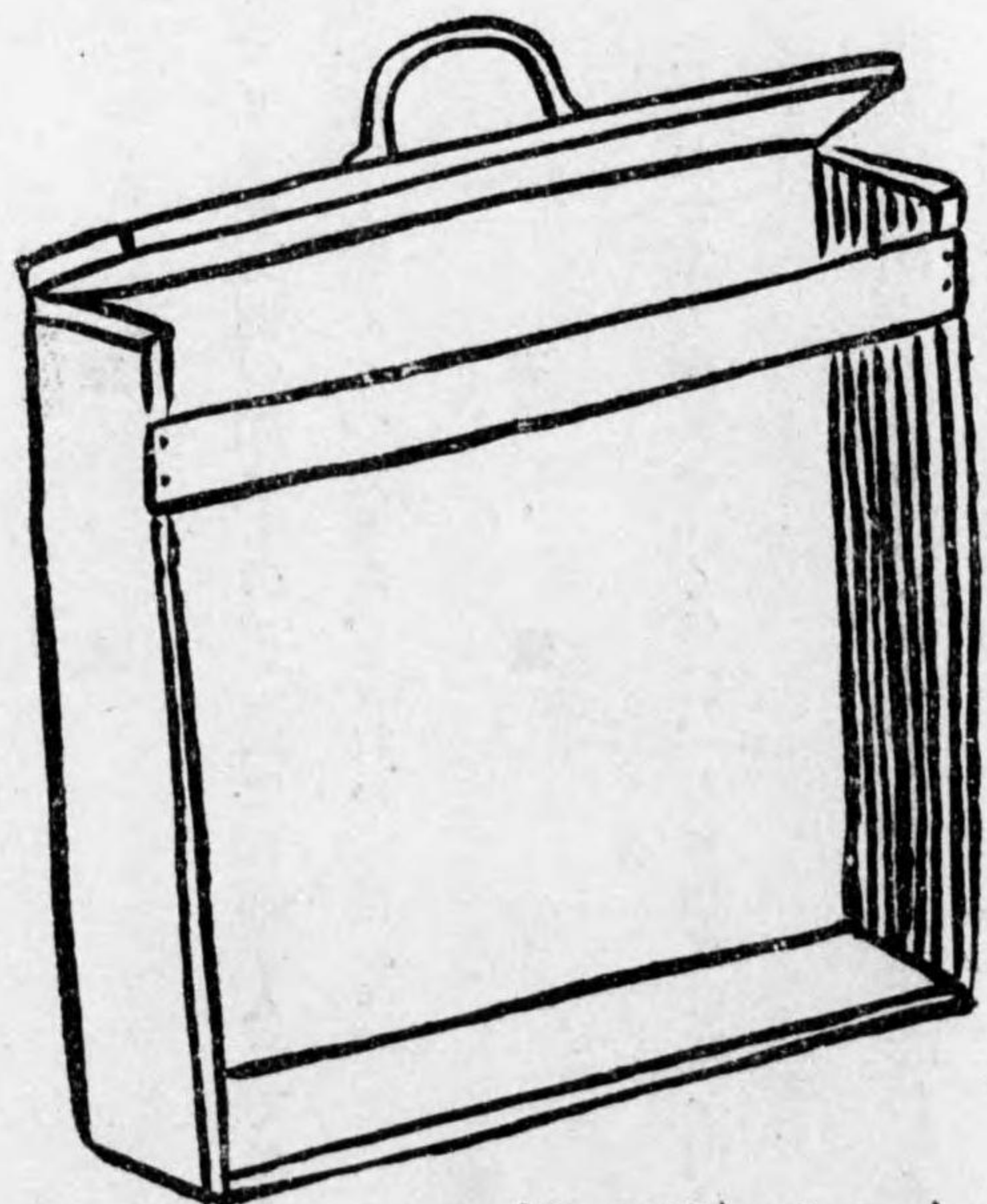


これに

たれもと一尺の棒にふる便あり

大して邪魔にはなりません。上は白鞆革、そして、木は樺材で、真中を鉄止してある。

スケッチ板携帯箱



大さけ羊残位

大型スケッチ箱をもつて
くのは重い。さりこて、ス
ケッチ板で、數板繪をかき
たいミニ云ふ場合、一日の日
曜は楽しく使用出来る。夕
方になつて、出来上つたま
だ乾かない作品を入れてく
るには、すばらしく都合の
よいもの。

スケッチ板携帯箱

枠張の同じ大きさの畫布を二枚もつて、寫生にゆき、それをもち歸る時、かうした大

作畫に就て

コ
マ

洋書材料店
文房堂 神田表
神保町
竹見屋 神田表
神保町
信東堂 神田通
神保町
清泉堂 神田通
神保町
ツカサ商會 本郷二
丁
英蘭社 下谷區
仲町
九善書店 日本橋
東三丁目
マロニエ社 大塚
河内屋 大塚
通
畫通堂 大塚
通
條京 寺町二
條京 四條通
春島會 本郷區
元町一ノ八

きなものは、携帶箱に入れる事も出来ない。この場合、頭ミ尻ミが尖つたコマを四隅にハメ、繪を内側にしてくれば、別によされる事もなく、新聞紙にでもつゝみ、紐でゆはへて持つてくる。大層チヨウホウなもの。

筆 洗

ブリキ製の圖の如きもの。これは石油を入れておき、筆の色をこりかへる場合に、布か紙で大體ぬぐつた筆を、きれいに洗ふ。

布 ・ 紙

よごれた筆の繪具をふくのに、ボロ布又は紙を用ひます。又、私はよく新聞紙を用ひます。

道具の説明もあまり長くなるから、この位にしておきませう。餘は材料店のカタログを御覽になれば、品物の圖も定價もわかる。

油 畫 便 覽

(一) あなたが油繪を始めるについて、儉約して買はれるのでしたら、都會地の古道具屋に、スケッチ箱、畫架、三脚床几、筆、繪具、畫布等が出てゐる事があります。定價の半分か三分の二位で買へます。

(二) スケッチ箱(内部) 畫架、パレット、スケッチ板の裏等は日にあてるこゝ、その事が多いので、藥屋にあるラックニス(コハレ茶碗)に少々こり、綿をつけ、手早く塗るこゝそれが少ないのです。

(三) 短くすり減つた筆は、筆毛をおさへてる平たき金具を縦にたゝき開き、熱い湯につける。そして筆を密着せしめてる膠のゆるんだ時、そつミ指先でひつぱり出し、適當の長さになつた時、元の様に金具をたゝいておくこゝ、又用ひられる。

(四) 繪具を出しすぎて、當分用ひない時に、繪具を硝子の細い板にこり、水の入つた容器に入れこき、一日に一度位水をこりかへれば當分、使用出來ます。繪具は高いから大切に持つて下さい。

作畫に就て

道具を安く買

道具にラック
ニスを塗る事

短くすり減つた
筆は

繪具を出しすぎた
時は

(五) チウブの空^{カウ}思ふものにも、よく繪具が残つてゐるものですから、チウブを長く延ばして板上に横たへ、筆軸の如き圓きもので、壓しつゝ、ころがしてゆくミ口元へ繪具が集まるから、大管になるミさうして取つた後、チウブをまるめて、口元を粹張器ではさむミ、又出て來ます。

(六) 古カンバスを、古道具屋か、友人からゆづつてもらつたりしたら、ブラツシユにシヤボン水をつけてよく洗ひ塵を落し、その後石鹼の残らぬ様によく温水をもつて清める。

(七) 古パレットに繪具が、こびりついてゐる時には、新聞紙を長くまるめて火を點じパレットを下むけて焔を與へるミ、繪具がやはらぐ所を、手早く、パレット・ナイフで取り去る。又、別法ミして、アルコールをパレットの繪具のついてゐる方に塗つて、火をのつけ手早くパレットナイフでこる事もよい。

(八) 商賣人から、カンバス製法の秘訣をきいたのを左に記す。

本式の製造法 (二尺四寸幅の麻布二丈位塗れる割合)

下 塗

- (1) しん地 (麻布) を粹に張る。
- (2) しん地の塵を十分に拂ひ取り去る。
- (3) 膠 (三千本膠) 三四十匁位、但し水は初め出来るだけ少しにて煮る (かきまはし、こげない様にする)
- (4) 良く溶けたら、アマ煮油を、右の膠に對して約一合入れる。
- (5) よく混ぜたら、湯を差す事 (湯は少しをよします)
- (6) そこへ今度は、亞鉛^鉛を一ポンド入れ、刷毛にて塗れる程度に湯を入れ、下塗をして終る (少し濃い方がよろしい) それから日蔭にて乾燥す。

上 塗

- (7) サンド・ペーパー (紙ヤスリ) にて布面の凸部を落す、麻布の裏面に平なるものを置き、ビンの底にてこすり、布面をつるくにする。

い。それは一つの大きなものが熟したからであります。早く熟しきつた、後の種が如何に芽出しするか、その成長をみたい。

素人の進む道

併し、我々素人としては、如何なる道をこりませうか。前述の如くに、多くの人間の作つた技巧に迷はず、こもかく、自然そのもの、第一歩を出発する事です。私はゴッホ氏の本を読んだ時、ゴッホ氏の様な、力強い巨線を模倣しようとした時代もありましたが、それは誤りであり悪い事だぞ知つた時、自然の第一歩が出発点だぞ云ふ事を暗示せられました。それは實に幸福で、危いところで氣づいて助かりました。自分の技巧が、ごんな風に發達してゆくかは、自分自身にもわかりません。或批評家が、私の前途を豫言的に批評してくれた事もありますが、この人の思ふ技巧に進んではゆかない様でした。

私の繪の行き方
自然のままに描く

私は、細い繪をいつもかく男だぞ思ふのも誤りですし、明い繪のみを描くぞ思はれるのも誤りです。時には私は簡単な繪、暗い繪等、其時々、自然のまま、にかくのです。又私は樂觀的の作のみを描いてゆく事のみに成功を認めて下さるむきもあります。挿畫の如き「悲し日の記念」もか、ねばなりません。(祖母の永眠の如き)

人間は二元の間を生活する。しかし、私は勇敢に、明るい世界へ突進したいと思つてゐます。

技巧の二分、
表面技巧、
内面技巧

技巧には以下の如き、二つに分ける事が出来ます。表面技巧と内面技巧です。平俗の人々の云ふてる技巧なるものは皮層なる、第二義に屬するものである。それは餘りに遊戯すぎるものです。第一の内面技巧は、靈のあらはれです。これが個性として求めたいのです。ブレーク・シャバンヌ・ゴッホ氏の作品は、其の點に於て、すばらしい。

天才は第一義
俗才は第二義

天才は第一義からの人にあり、俗才は第二義にある。「達者である」「綺麗である」「すきがよい」「手際がい、」これ等の事に、あくせくし、他をヒナンする批評家や畫家は氣の毒であります。

單に技巧に生きんぞする人は禍である。その前に我々は、人間にならなければならぬ。

畫 因

畫因は、構圖に先だつて、起るべき問題で、畫題が、それによつて決定されます。

作畫に就て

畫因は作畫の
最初の着想

畫因と畫題は原因結果の關係にあります。この畫因は、作者の作畫の根本から、對照と合致して、出生するもので、技巧的要素として、一番大切なものだと思ひます。又畫因は所謂技巧外に出てるものかも知れませんが、貴いものです。

輕薄なる人々が、技巧々々云ふのは、畫因の事ではなくて、重に末消的の技巧、つまり手先の小器用について云ふので、一番重大な、畫因の事を忘れてるので、それに氣附かざるのです。

畫家の個性なるものは、畫因に向つて播種します。又、其の人が、宗教的哲學的の人であれば、作者自身の神性は、繪の上にも自然とあらはれて來ます。例へばジョットウ、ミケランジェロ、ミレー、シャバンヌ氏等の如き、皆、越表面、自然人格の表現であります。

近代的のサイエンスの上からしては、有形的、空な天國にその畫因を求めず、現在認識の上でなければ、承知出來ないとしてか、太陽を崇拜してか、或は意識的の人々もあつたでありませうか、光と云ふものを大切にして、アトリエから、外に飛び出して、風景中に畫因を求めた。その印象派の人々はマネー、モネー、ピサロ、ルヌア

畫家の個性は畫因から

アトリエより飛び出す外光派

畫因よりその人の心が讀める

ール、セザンヌ、ゴッホ、スーラー氏其の他。
又、こゝにはこゝてもかききれませんが、未來派、立體派、表現派、ダダ、構圖派、構成派、感覺派、怪奇派其他も、皆、畫でゆへば、畫因から出發しての事です。そこで、作品の畫因、作因よりして、その作家の人となりを知る事が、この畫因を通して知る事が出來ます。次にその人格を助けるものに構圖があります。

構圖

構圖は前章にも述べたる、畫因の次に、作家の腦中に浮び出るべきものにして、位置、調子、比較等がこの中にふくまれます。目的の描かんことを、畫面の眞中に置き、嚴肅にそれをあつかふか、少し横に安置して、くつろがしめる様にするか又、眞中より上に、或は下に、斜の上に、又は斜の下に云つた如く主従其他、物を置く事の作畫の上の圖の構へです。

又は従たるもの、位置等によつて、やはり作家の氣持が、あり／＼と出てくるものであります。あのアンジェロ氏の最後の審判の構圖の如き實に複雑なもので、その偉

作畫に就て

構圖とは

ミケランジェロ

セザンヌ氏の
リンゴを見よ
法隆寺の壁畫

大な力に驚ろかされますが、又、林檎一個を描くにも構圖の決定が必要です。

日本のものでは、法隆寺金堂の壁畫の如きは、何云ふ壯嚴な構圖であらう、勿論畫因も宗教的のものにはゆる、構圖の力も信仰も大したものだ。自分は、こてもその圖につき云々する事は、拙なき筆の決して及ばぬところである。

過去派から現在派の構圖には、畫面の一部々々にも連絡がされてるますが、未來派の繪は斷片的であるて、併し各連絡のあるものであらうか。それから、カンデンスキー氏の構圖派の作は、時に構圖そのものに全力をそ、いだ作で、非寫實的のものですが、音楽的リズム云ふ如き、やはり全圖に對して、關係が一部々々にならない事もないのである。構圖派から構成派が生れた。これは建築から來たものだが、今、圖案裝飾として、主なる都市では盛に用ひられてゐる。構成派は思想宣傳にまで突進し、すばらしき勢である。

構圖の連絡

構圖派

構成派

位置

構圖は繪の全

構圖は、描く全體についてあるが、位置は、其の部分的の物の置き場所、姿勢

部についで、
位置は一部一
部について

等につき云ふものであつて、狹義のものになつてゐる。物象の位置のとり方によつて畫面への調子が、よくこれ、よくこれない云ふ事になる。調子については、比較云ふ事を考へなければならぬ。

調子

*
極左傾的藝術
調子を無視す
るな

調子なん云ふものは、現在の尖端藝術からは、無視されてゐる様だが、やつぱり初心者、さうした事に盲目的に感染してはいけないので、はじめは調子はどんなものかを経験しておかなければいけない。調子云ふものは、比較云ふものからなる。

比較

比較は標準を
要す

一に對する二云ふ如く、或物の長さを標準として一寸とする、次の線を描くにはそれに對して二寸にしてゆかうか、この傾斜はこれだから、これに對してこの傾斜で描かうか。角度についても考へる。

作畫に就て

色の標準
形の標準

この色はこの位の濃差だから、次のものをこの位の色の濃さでかいてゆかうか。かうした太い線を用ひたから、この位の太い線を次に用ひようか云ふ如き。これ皆、比較によつてくるのである。比較につき最初に必要なものは、標準である。

標準

標準は畫面との相談の上

一つの静物、肖像、風景に面接して、これを描かんとする場合、適當なる畫面を必要とします。そこで我等は、その畫面に向つて、先づ最初に、標準とすべきものを静物なり、人物なり、風景なりから見出さなければならぬ。

畫面に印をつける事

それには畫面に何か、印をつけなければならぬ。この印は、鉛筆か、クレオンの好む色でやつて見る。如何にやるか、それは、机上に林檎を置いたとしたならば、林檎を描かうとするのが目的なのだから、林檎の大きさを定めなければならぬ。その標準が出来たら、その後、机の大きさの標準をきめる。

標準には大きさを定めよ

大きさと輪廓

大きさは、長さ高さ圓さから来る

大きさを云ふものは、長さ、高さ、圓さ等がそれをつくるもので、第一に、林檎の

標準距離は點と點でもわかる

幅さか高さをきめよう。では高さからするに、林檎の大きさを畫面にこの位にかかうか思ふ高さに、つまり上と下に點を一つづつうつてみる。この上と下との點の間には線を引かなくとも長さが、つまり高さが現はされてゐるのだから、その距離が、その描かんとする畫面への、一番根本的の標準の線になるのです。この線が出来たら次に

點點と點點で林檎の大きさをきまる

第二標準線として、横幅を、第一標準線と比較して作る。わざわざ線を引かなくともやはり、點點を兩側に一寸つけておけばいゝ。かう四つの點が出来たら、大體リングの大きさはわかつてくるから、この點を傳つて、圓く林檎の形をかいてみる。それから林檎の頭、つまりこれは植物學から云へばシリツボの所に柄があるから、柄の所へ一寸その曲りがげんの棒をつける。さうするに、大體の形が出来る。この大體の形を輪廓と云ふのです。それから、この林檎に對して机のフチの線がどの邊にあるか、それを引いたら、次は引出しの比較を描く。かくしてゆく内には大體の形、即ち輪廓が出来上るから、それでいゝと思ふたら、油繪の道具を開き描く準備をする

かくして輪廓が出来上る

材 料 (描く用意)

材題は、畫因によつて決定さるゝものだからこゝには、その方面での材料は云はない。又、表現用具の材料については、油繪用具、日本繪用具、鉛筆、パステル、クレオン、ペンキ、サツピツ、ガツシエ、水彩、漆、土繪具、其他、種々のものがあるがその全體に涉つては書く事が出来ない。たゞ本書は油繪を主とした本だから、特に章を新らしくして、描く道具についてかいておいた。

我々は愈々對照物を描かんとする前には、まづ右側に畫架を立て、畫布をその上へのせ、風が吹いても、たふれない様にして置く。それから、左側にスケッチ箱を置き、パレットを左手に持つ。孔の所へ拇指を入れる。パレットには裏表あるから御注意下さい。私の知人はパレットを逆にもち指がいたい痛い云ふた事があつた。それから用具の圖に示した様に、アナタの好きな様にこの位と思ふほど、繪具を出す。そして一々チウブのフタをよくしめておく。それから、繪具が一廻り入用と思ふ分だけ並べられたら、油壺に油を入れたのを、パレットの、右、拇指の上にはめる。油壺の裏に

材料には、描かるべきもの、その材料を、描く道具の材料となる

道具を廣げる

パレットにはめる様に金具がついてゐますから。

それから、風景でしたら、幅廣の筆で空をぬりはじめる。尤もその前に、クレオンか、又は鉛筆で、その風景の輪廓だけを下描きしてをく事勿論です。

愈々筆を把る事になります。描く道具の用意はこの儘にしておきます。

把 筆

把筆とは

把筆の方法

把筆とは筆又は刷毛、又はペン、鉛筆等の描く筆等の把り方です。筆ですと、拇指人指指、中指の三つで、おさへ、柄を拇指人指指との間の上のせる方法は普通ですが、柄を人指指と中指との間にはさむ方法もあり、ヘラで日本人が物をねる様に持つ事(運動方法は別として)其他、用具をニギツテもつ等種々あります。油繪の場合普通の持方の場合の他、ナイフで物をけづる様に持つ事もあります。木の枝などは細い筆で描きます。

この把筆は國々によつてこゝなありますが、それがやがて、又、各種の筆勢を生むものであります。筆を把らんとする時は、その前に強い運動や、重い物をその手にもた

筆を把る手に

作畫に就て

は、その前に強い運動をここに與へぬ事

ぬ事です。さもないと指先がフルへて作畫が出来ません。昔外國等では、細かい所を描く場合に、ステツキの様な腕鎮とか言ふ棒を用ひました。

調 色

調色はなかなか出ない

調色は、筆觸に先だつて頭に来るもので、調色は初心者の人々には、なかなか、求める色合せが出来ず、色が出ないでむづかしい事があります。それからはじめは、色彩に對する感覚が敏感に働かないので、かなり單純の色が表れます。

調色も慣れである

所が追々こなれるに従つて、一色は二色、二色は三色と云ふた風に、混合して描く事によつて、種々さまざまの色を出す事が出来る様になります。

複雑な調色

太陽の光線が七色からなりたつてゐて、物體は、お互にその色が、非常に複雑に反射あつてゐるのだと云ふ。めんだうな方面にある畫家は、調色が複雑になつてゆくさうした畫家は智的畫家に多い。

單純な調色

所が原始的、色彩の原始的單純を好める人には、唯情的作家が多い。そして、この色にも形にも單純化してゆくのが現代の傾向になつてゐる。

私の作畫は細かき原色を置いてゆく

私なきは、寫生の場合、原色を生のみ、置いてゆく方法で、只今までは細い描き方ですが、今後こなつて、大づかみに短時間に、かく様になるかも知れませんが、それも境遇によつて、自由自在にしてゆきたく思ひます。自分はさうも繪具を混る氣がしません。いつまでも、子供の様な色の塗り方であるかも知れません。

調色を三原色でやる人
調色を多色でやる人

調色は三原色をもつてする人があります。三原色は御承知の如く、紅と黄と藍ですが、實際は白繪具を用ひないさうまくゆきませんから四色です。又、五色七色十二色と、段々もつと、より以上の色でなければ描けぬ人もあります。色はわけてゆけば二十四色でも五十色でも百色でもなります。パステルに繪具の高價な箱を見るに、大した色の種類があるものだと思ひます。

パレット上の繪具を筆に取り上げる種々の方法

油繪具の調色の場合、パレットから刷毛に繪具を取り上げる方法に色々あります。それには繪具を前方にしゃくり上げる人、其他手前に引き上げる人なき、又、左右にしゃくり、右方にしゃくる事によつて、繪具は、畫布への附着が異なつて來たりして、この間の事を研究するに、種々の面白い發見があります。これは一々私が申し上げるよりも、皆さんが、自ら經驗し、知つていたゞきたいものです。又、筆を寝かし

てかくき、繪具が厚くつき、立てるこ薄くつきますが、これ等は筆觸の方に近い事ですから次にのべます。

筆觸は畫面への直接交渉の第一歩

筆 觸

筆觸は描く事の畫面への直接交渉の最初であり、第一にありありと畫面にあらはれてくるものです。

點描派の繪

三つの指先、又は五本の指先が助け合つて働いて、毛筆なり、其他、繪具をパレット等から運び上げて、畫面に接する、其瞬間の指先の接觸運動は、其人の技巧的に、上手下手を作る一歩です。

私の知れる點の種類

點觸は、點描法になつて集合して、一つの點描派に云ふ繪をもつくるので、その點は、繪の場合には大きさも形も種々ある事としてあるので、幾何學の點にこころなれます故點にも種々な種類が表れて來ます。支那ではなかく、昔から、その類の區別をたててるのですが、こゝにはその點の形は、私の經驗のだけをお示ししてみます。又、點をあらはすこなるこ、それは、次にのべます。運筆の仕事になつてゆきます。筆觸はい

筆觸は運筆も進む

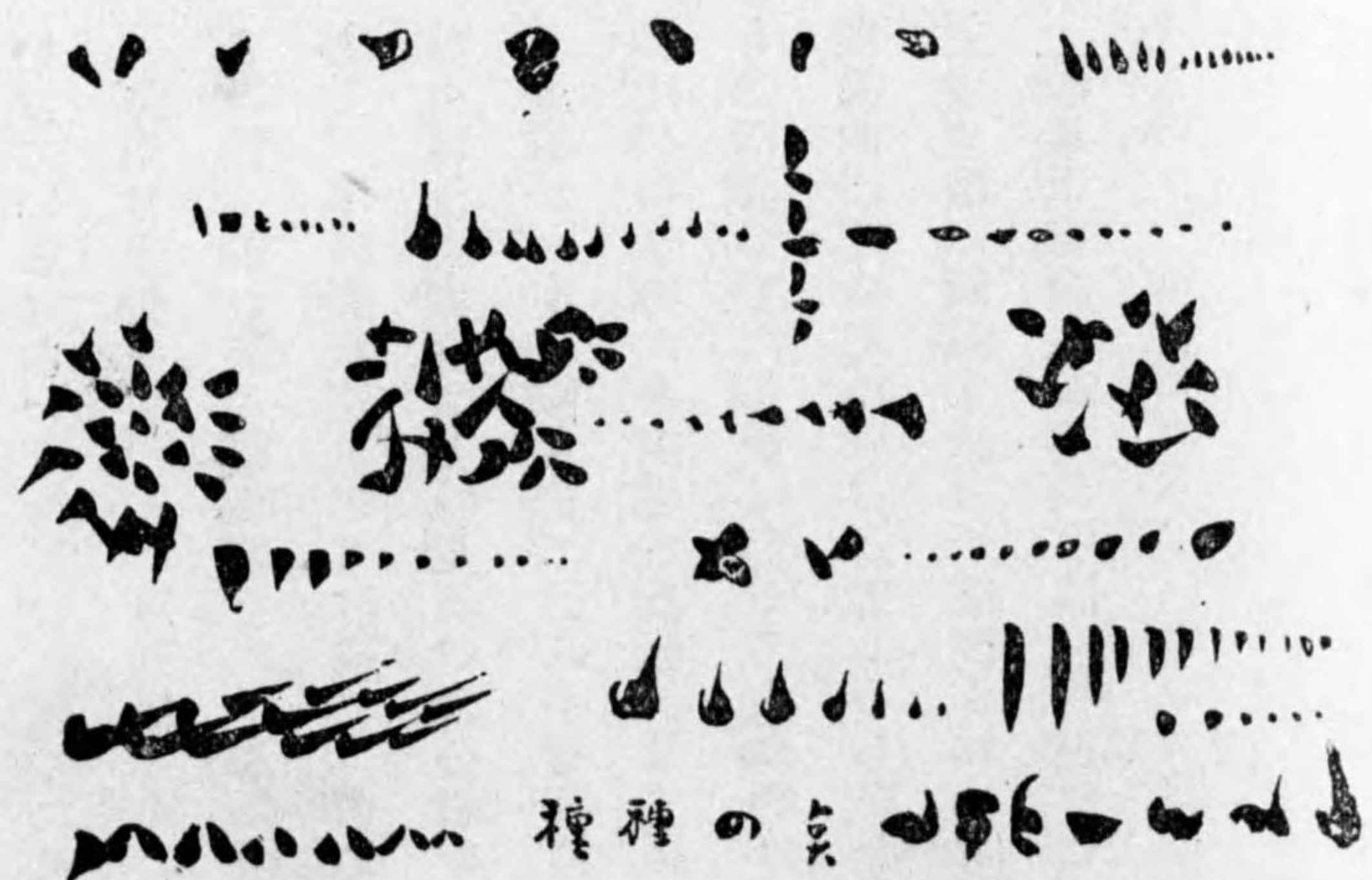
つも、運筆の内にふくまれましたものであるものです。

運 筆

運筆の始めは、筆觸から出發する。運筆は點、線、面を作ります。三つのもの、組合せが、人間の心を通じて萬有の一部を形づくる事になります。

油繪の點は重ねてもいい、又、下をかくす事も出来る

運筆は點、線、面の三つをつくる



作畫に就て

油繪の場合で、一度畫布の上に、筆に繪具をつけて、描く爲めに置いた點なり、線なりの上を、幾度もナヅル事をいけないとする人もあり（つまり一度、すつこ、そのまゝ、引いた點なり線なりをいゝとする）が、又、それを描いて又、その上に、三度も四度も重ねて運筆する人もある。（こちらでも自由である。

運筆は筆勢を生ずる

一つの線、一つの圓は、唯心的怪奇派を生む

油繪は水彩等より、筆の歩み、殊に線の場合にのろい

いけない事はない。お互ひに異つた効果をそこに表すから)

運筆は筆勢を生ずる。筆勢は、その作家の心を一層あらはす事になる。太い點、小さい點、鋭い點、圓味のもの、太い線、細い線、大きな面、小さな面、これ等の、そして、筆の勢のいゝ、又は鈍い、アセツテあり、靜かであり、これ等の事によつて我々は注意すればその人の、讀心術をそこから求める事が出来る。

畫家が一本の線(一ミ云ふ字を初めに練習させるが)この一、一字によつても人々はその書き方が多少異なるし、又、日本畫家が、○を最初に習はせるが、この單純なものによつてたしかに、その人の心は或る程度まで知る事が出事る。この事を一層、理論的に進めてゆき、宣傳よろしきをえたものに、唯心的の繪畫がある。それは、最近の畫壇の傾向を諸君が推察されればすぐわかる。唯心的怪奇派がそれである。

繪具が畫面へ表れるのに、早いおそいがあります。水畫は、筆から繪具が流れ出てくるのが、油繪具より早いので、點なり、線なりが思ふ様、足早やにゆきませんが、油繪の方は細い線なごは、ゆつくり、ネツチリか、ないミ出て來ません。それにしても油繪は、ゴオホ氏の如き燃ゆる線も油で出來れば、ルツソー氏の如き、チチツキきつ

た靜けさの作も出來ます。

組 合 せ

組合せとは、繪の場合に、畫性でも云ひませうか、一本の線、一枚の面、それ等の組合せの方法が人々によつて多少ちがひます。太い線と細い線とのアシライ。面を荒くしたり、こまかくしたり、皆人によりちがふ。

この組合せが寫實を離れて構圖そのものに全力をそぐその時に、構圖派ミ云ふものがあらはれ、又、この組合せが繪畫を離れて、他の材料、例へばハリ紙細工等によつて來たり、お細工的のものになつて來た時、そのハリ紙なり何なりのやり方が、そのもの、主觀的オキ方によつて異なつて來ますが、これは構成派の二つのやり方になります。子供の仕事と最近の成人の仕事は非常に近い。

組合せには、又、寫實ミ、非寫實ミの兩者をもつ、空想的のものもあります。

全 局

作畫に就て

寫實的組合せ
非寫實的組合せ

組合せとはこの場合、畫性にとでも云ひませうか

空想的組合せ

一部に注意し、
つ全體に注
意をおこた
る

あなた方は、將棋や、碁をやつた方がおありでせうが、これ等は、競技するのに、一部分だけのコゼリアイをのみ見考へてたら、遂にまけてしまふさ等しく、何事もさうですが、繪を描く場合もさうです。一部を描きながらも全體の事をいつも心してなければ、思ふた作品が、畫面の内にをさまらず、又、形や色彩に於ても、不注意極まりなきものになつてしまひます。

頭かくして尻
かくさず

このシメク、リのないものは、いつも何事にも成功もしなければ、ウヤムヤに終つてしまひますので、特に洋畫云ふ、精神的のものは一層この點に注意しないご駄目です。頭かくして尻かくさず、こはよく云ふた。

社會にたとへ
れば

社會でゆへば、一點一線は個人の様な役わりなのですから、その個人が、約束を守り、お互に統一に進まなかつたら、理想的な社會は形づくれないご等しいものです。

保 存

保存にシイタ
ラレル作品

描いた繪を保存しておく事は、貧乏畫家には荷やつかない事です。自分は大切にしようとしても、理解のなき家からは、その作品は邪魔あつかひにされます。

兩親でもわかつて同情があれば室内にかけてもくれますが、さもないご物置か、戸棚へでもつつこみばなしにされる。

ワニシを塗る
事は保存にも
よ

作畫は、繪具が乾燥しますご、ツヤのぬける場合が多いのです。この場合この作品を初めの様に艶々しく生して行くには、艶油云ふものを、繪具材料店へゆくご賣つてゐますが、艶油は、作品後、一ケ年位の繪にぬらぬご、早いごいけないさうですがさうでもありません。油繪用具、艶油の所を再讀下さい。

又、しまつておくのでしたら、新聞紙へでもつつんでホコリの入らぬ様にしておく事、そしてシケない所がい、のです。

保存の悪い繪

保存の悪い繪にかうした實際があります。それは、私の知人が、古道具屋にゆきまして、何だかわけのわからぬキタナラシイ繪を安く買つて來たのです。所がやはり何が何だかわからぬので、その土まみれのを水ご石鹼で洗つたのですが、すっかりキタナイものがされて、見事なスイツツルの風景が現はれて來ました。

旅行なごをなさり、繪がすっかり乾くまで壁にでもかけてをき歸りにそれをまごめて持ちもぐるには、枠から畫布をはづして、お互ひに、くつつかない様にして巻き、

枠は枠で一まごめにして、繪をいたまぬ様にそのワキに一つにし、荷にして、大事に
もつてくればいたみません。

油繪は布で三百年位保存をよくするこもつさうです。或人は保存する爲めに繪具や
其他についてギンミする人がありますが、私にはさうもそれほご神經過敏になつて、
繪を永遠にのこす爲めにかかう云ふものはありません。

装飾 (額縁)

繪は、額縁がないと、人間が衣服をきてゐない様に殺風景なものです。しかし額縁
に入れられぬ人はそれでもいいが、自分で、そこら邊の廢物利用をして、額縁をつく
り、そこに、主觀的の創作模様を描く事などは、決して悪い事ではありません。むしろ
いい、事です。

私は焼繪の模様を、白木の手製額縁につける事もありますが、又、手彫りして、そ
こに、藥屋から買つて來た、金粉やアルミ粉ミラックニス (一ピン一圓以下) の少量
を混じた液を額にぬるのも面白いと思ひます。(幅廣い所は綿でぬるこむらがなく

油繪の保存は
三百年ださう
です

額縁は繪の衣
服

手製額縁

立派な額

(ゆきます)。

過去、額縁云ふものは、額の木地に複雑巧妙な石膏の型をハリツケ、その花模様
の華美なもの、上に金箔をはりつけたりしたものですから、ずる分立派なものでした
内には、繪より額縁の方が立派すぎると思ふのがあります。我々にはさうした額縁は
不要です。初めの人は、ハデな額をすき、立人は濫いものを好く。

安置

出來上つた繪を、懸けておく場合には、作品は窓からくる光線等によりまして、明
るくも暗くも、又反射してよく見えぬ等、傾斜の具合等もありますので、本當の色こ
形を眺めんこするには、以上の事も馬鹿にはなりません。

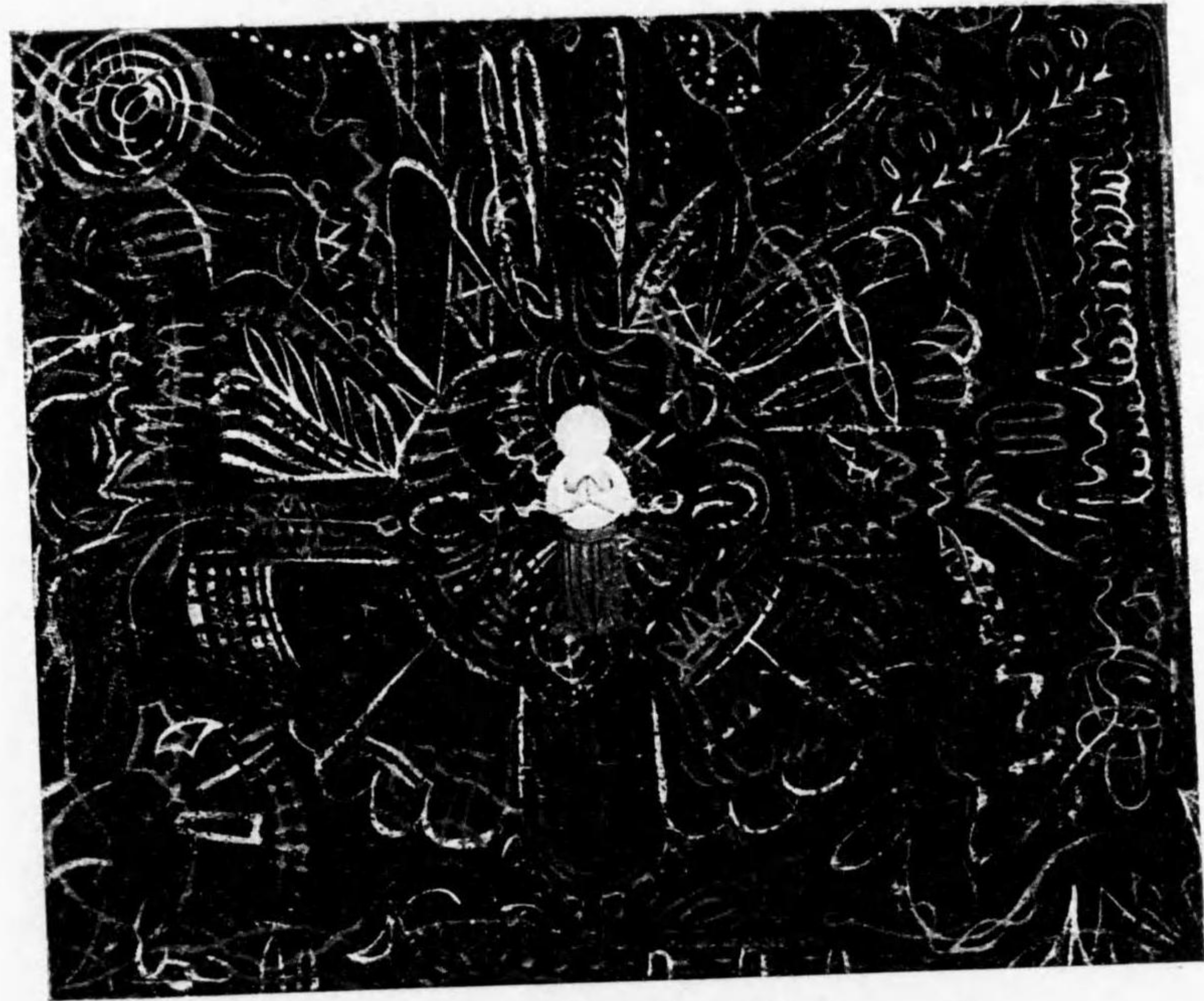
繪を愈々かけるこ、定まりましたら、繪の裏に紙をはつておきますこ、ホコリがつ
もりませんから、この一寸した手数をおこたりますこ、半年一年の内にはすばらしい塵
がつもつて山をなします。

それから、額縁の繪を釣る糸は丈夫な事は勿論ですが、額の高さの半分よりチヨツ

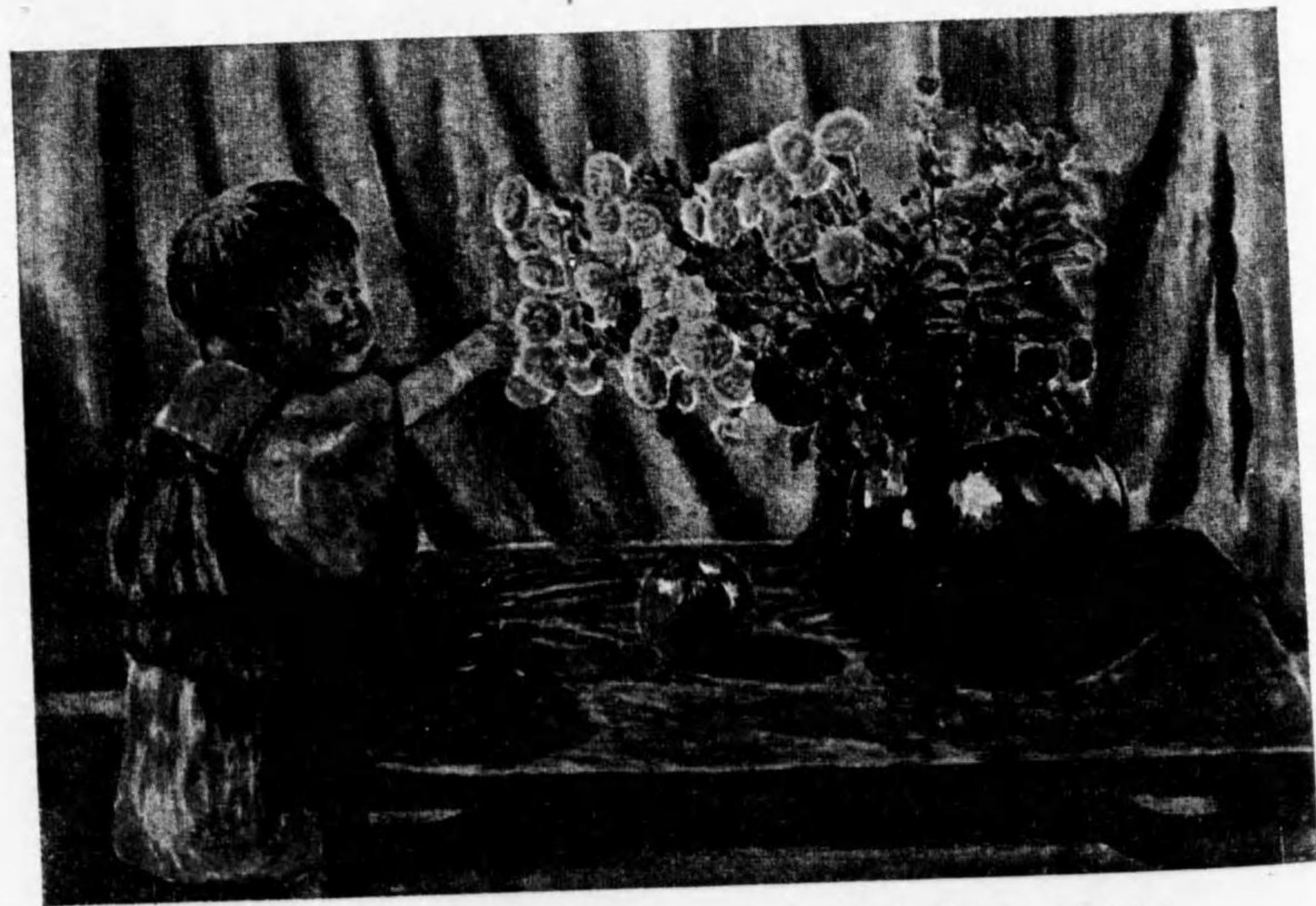
作畫に就て

懸ける窓から
の光線と、傾
斜の具合

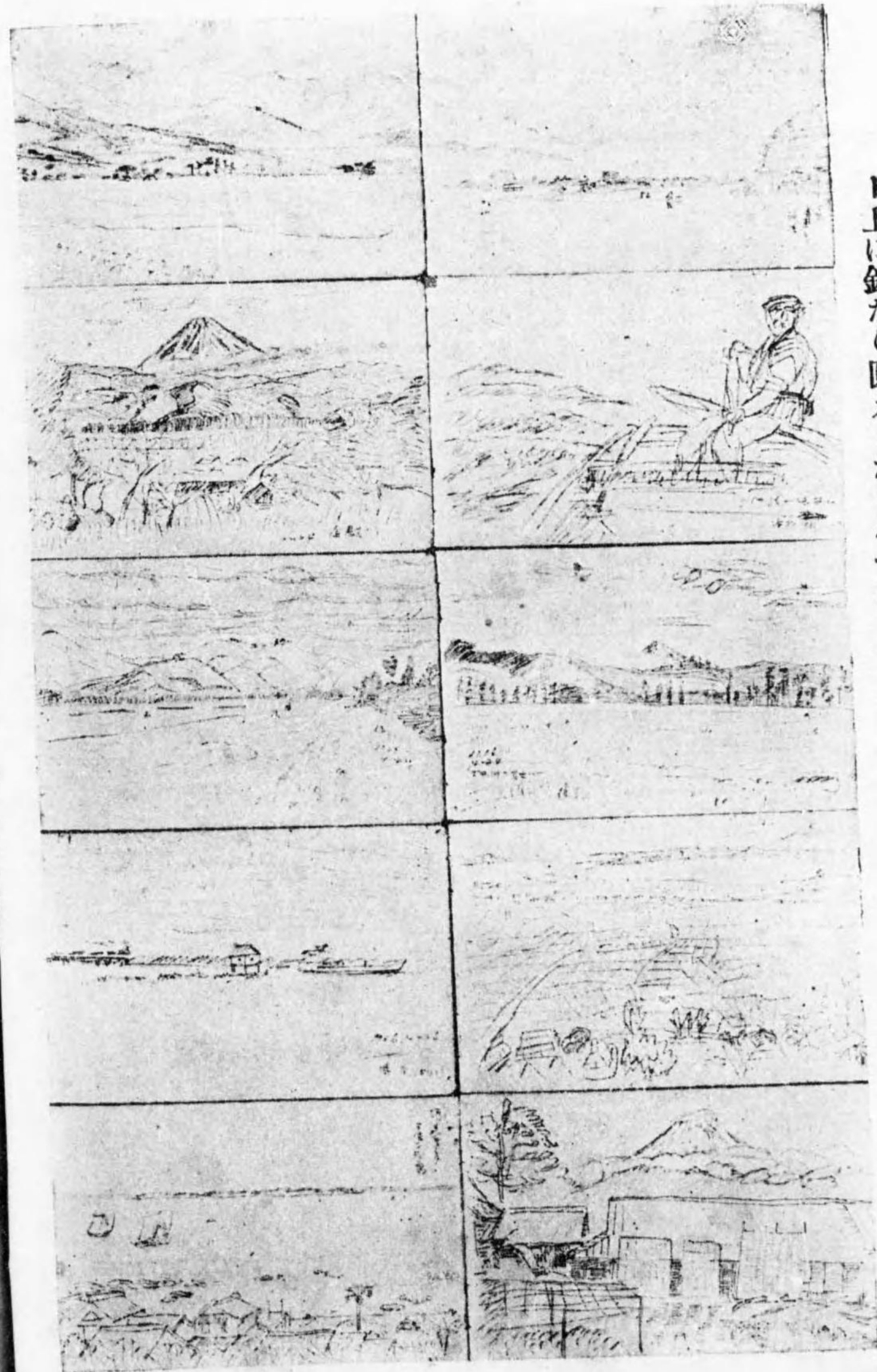
繪の裏に紙を
はるとホコリ
がはたいです
ぐとれる



大號八 作四二九一 繪油 (華の心) 兒 聖



作年十二九一 (紙全マツワ) 畫彩水 兒幼 花に戯る



油繪の手ほどき
ト上に釘なり圓カンなりをつけさかないミ、傾斜がよくゆきません。

百十八頁の鉛筆で描くは
線が紙に透るが
よく見えて
のんく大正五
年の作
徒歩旅行の時

七 一般書法の種類(用具上)

鉛筆書

油繪をやる人は、鉛筆をもやつた人でない。出来かねる。勿論あなたは、遠足の時
なご、スケッチ帖の用意はなされて、そこを楽しく描かれたでせう。こゝにはくごく
ごその事についてのべません。私の挿繪の下手な所を御覽に入れませう。又、前述の
作畫の三時代の、寫生時代中の略畫と密畫のスケッチの所を御再讀下さい。

木炭書

研究所や學校へゆき、よくやらせられるものだ。木炭紙に木炭(圓い炭の棒)裸
體畫をかいたものが、**重**で、よくさうしたものも、知人から僕もみせつけられた。自
分はこの仕事をやつた事がないので、これ以上のべない。この事については、裸體畫
の所で少々のべませう。いや／＼やる、仕事はろくな事はない。

作畫に就て

油繪の手ほどき



クレイオン畫

永久性のない、おちつかぬ繪具です。油繪等の下描きをする時に便利です。これは油繪や、水彩畫の上に、色彩畫ミして、かなり色の混合等に、心を働かすので後日に、クレイオンを習つてゐる小學校の生徒等は、水彩油繪をやるのに役立ちます。クレイオンについては、私はまだその繪具が流行しない前から用ひてゐましたが、それは油繪の寫生の時の輪廓をこるのに使つたり、漆繪の下に用ひました。クレイオンは小學校の先生や生徒の方が我等より、よく御承知でせう。右の挿繪は私のクレイオン畫。

ペン畫

ペン畫は私は随分やりました。しかし、日本人は、インクの代りに墨を用ひ、そして日本の紙（半紙や、唐紙、畫筆紙）をなせもつこ用ひなかつたこくやんでゐますが、これから、大にその墨繪の方をやりたく思ひます。遂、インクミペンを用ゆるこ、こりあつかひこ、細線の便があるので、そして紙が、あの比較的堅い紙を使へるので、

作畫に就て

クレイオンは色の研究の上水彩畫の助けになる
百二十頁のクレイオン畫
小笠原島の繪
大正十二年の作

インクとペンは線の味がな
い。墨や筆には味がある

下のは、ペン
 畫です。素描
 をケナシタ私
 も、やる時は、
 この位のもの
 をやる。大正
 八年の作

百二十三頁の
 は、墨繪でか
 いた、怪奇派
 いた、怪奇派
 樂童の心極
 一樂童の心極
 作一樂童の心極

その方にかたむいてしまったのです。

油繪の手ほじき



墨繪

一本の線を引き、一個の圓をかいて、一番藝術味のゆたかなものは、東洋紙に、墨でかいた味です。この一つの線で十分その個人の個性が慣れると見破出来る。前述したほじ、正直に表現力のあるものが墨描きです。こ

れについては、後章の怪奇派の内面白い、理想郷をかたりますので、楽しくお読み下さい。今迄の畫家の企てられなかつた、日本畫界上の一大革命です。



作畫に就て

テンペラ畫

テンペラの繪具は、水にまけ、油をまぜても用ひられる云ふ便利な繪具だが、私
はこれを用ひた事がありませんので、説明をしかねます。さうも知つたかぶりも出来
ませんからかく申す。その代り次の水彩畫について少しくわしくのべさしてもらひま
す。

水繪自修記(大正九年十月より「みづゑ」に掲載)

水繪の發端

寶玉店の内から時々、前側の文房具屋のウインドを眺め、繪具や、筆、畫架、其他
描れたる水彩畫に見入つてる青年は誰あらう私であつた。中學校、女學校の生徒、畫
家達が二分求めてゆく、用具。

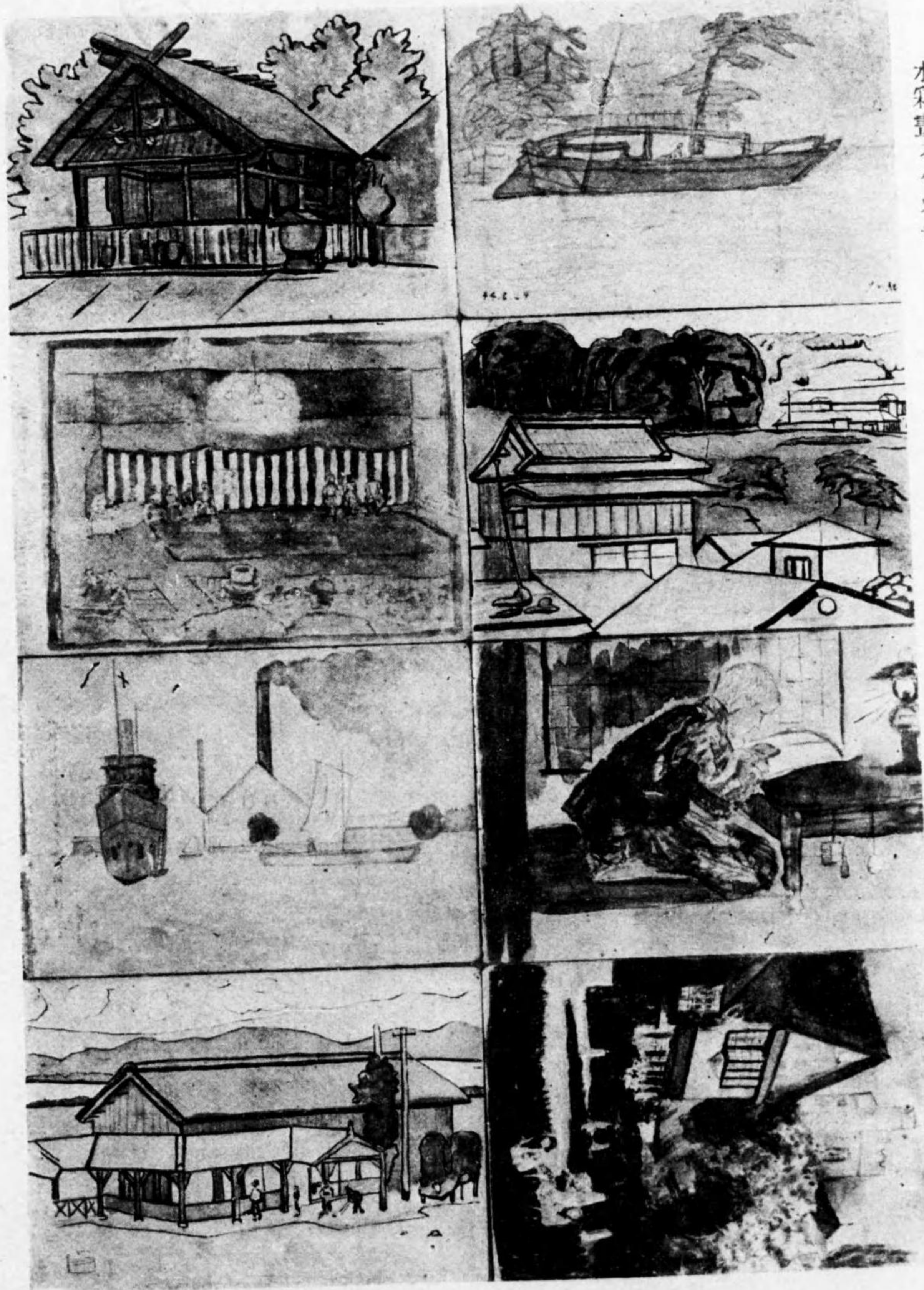
「自分は水繪を何故氣附かず、描かなかつたらう」「描いてみようか。道具を求めよう
か」「簡單にするには、是非室内寫生に限る」こんな考への起つた時、其文房具店で、

寶石店から繪
具店を眺める

水繪を始めよ
う

水彩畫スケッチ

明治四十年より四十四年頃の作



水彩のチウブ
入を買ふ

筆を買ふ

木炭紙を買ふ

無限の慾望を
もつな

面白くも、水彩畫、油繪、油繪の素人展覽會がある。私も見にゆく。水彩で林檎や風景等がある。

小さな動機が自分をして始めしむる事になり、僅ばかりのさしづめ入用のものを求める事にした。錫の筒に入つてゐる一寸五分位の繪具を、明い色から、暗い色まで十色揃へる。和製のものもあるが、小學校の生徒等より以上の色を出したので、英國ロンドンのROWNEYの手にする。

筆は大小二本、それは黒毛の黒柄の附いたもの。平筆を求めるのも忘れて圓筆のみ次に必要なパレット（輕重二個）前者はセルロイド製の橢圓形のもの。後者は二つ折の四角の鐵地の内部を白のエナメルにて？塗り、外を黒のそれにて塗られたもの。木炭紙數枚ミ、一本の上等鉛筆が加へられ、それで靜物畫であつたら、不自由ながらも描けるのである。私は新しく産出されんミする、描藝を楽しみつゝ、其の道具を抱へ、田舎の我家へ歸つて來た。

習作（室内にて）

自分は無限の慾望をもつてはいけない。さう思はない時、今日ほごの日を、喜びを

作畫に就て

以て満足して行かなければならない。そこに神あらば、神は私を生じ、私は神を嬉しからしめる。

其日昨日までの勞力に、寶石店から私は、私の體を休息せしめた。午後日光のすばらしき時、田舎家の室内にて、湯へきつてた、藝術をむさぼり始めずにはゐられなかつた。萬屋からの、大桃を机上のセルロイドの水彩パレット上に安定す。

西に座せる自分は、南の庭先からの蔭を北に見る。純白の四ツ切の木炭紙は同大形の板上に鋏止めされる。

早々着描……鉛筆で大體の輪廓、次に萬年筆で、輪廓の内部に進み、蔭をも加へる。お初の黒光りせるパレット上に、次から次ぎ、明るい色から暗い色へ、チウブの口は、繪具の新鮮の原色を吐きだす。

五本の指先からの筆は、桃の色を紙上に運ぶ。兩者の不思議であり、當然である瞬間の連續のタッチが、點と線と面とを作つてゆく。然しもう自分は苦しくなつて來た——思ふた様にちつともかけないから。萬年ペンでキチンと平面的に線で圍まれきつた内に、立體的の暈された、濃淡のふつくりした色彩の密集からの桃、及び地紙の白

寫生を始めるので桃など求める

書く用意

輪廓をとる

影描する

を取り込んだ、原色青の濃差からの重なりあつた葉と葉。又、桃の赤味がかつた蔭と葉と葉の青味がかつた、それが白紙のまゝのセルロイドのパレットに語り合つてる色合、又其等が層目の机板に合致しようとしてゐるのに、私は是等全部の仲を割る様な下手な心で描いてゐる熱心のたらぬ悪心に、粗末な机板の描結によつて、最も不愉快に悶えたが、これが研究上の基礎になつていつて、所謂、縁の下の力持になつてくれると思ふと、其繪も可愛ゆくなつて破つてしまふ氣にもなれなかつた。

何しろいくら幼稚な作でも、自分としては羈絆を多く持たぬ、最初の作だから、或小さな満足を持たねばならぬ（自分はいつとも繪を描く時に昂奮状態に入つて、周囲の人々の一舉一動のみならず、自分自身のそれが癪に障つて仕方がない）

この桃の繪も紙から水氣が飛んでしまふと淡い弱いものになつてしまつた。そこで失望と同時に、次への努力を忘れない様にした。

自 畫 像

晴れた太陽の日。亦も十分に店での過勞は、私を弱らせ、私の心の一つは回復をば要求してゐる。だが別の一つの心は、朝の歩みを店に向けた。田舎の堤上の路。兩側

作畫に就て

繪の終つたあと

水氣が飛ぶと弱い色になつた

勞め人の心理

は平坦にして廣大の見晴らしの稻田。所々ポプラの直立の遠近に工場の煙が立ち昇る。蛙の聲、聲の他に、私は叢から初夏の蟋蟀の働歌に感付いた（蟲さへも目的に働く時）百姓の野に働くさま、務人の急ぎゆく道上。

『あ、この働の全世界に、何故自分は全身、特に脚部に異怪な疲勞に喰ひつかれるのであらう。いけない、いけない、一人前に働らけず、一人前の給料を受けざる事は、自分として好まない。潔よく家に歸らう』最初の心は全權をこつた。

私は家でぼんやりしてゐる。生の消えつゝある、一秒々々が、恐ろしい大きな顔になつて、心の鏡に見えます。たまらない。せめて繪を描いて心身から疲勞の魔物を追放してやらう。

あ、この時、藝術は貴い尊い、強烈な健康藥であつた。自畫像それを水彩畫で。机上に道具を廣げ、鏡を其先に置く。萬年筆は今回も止められぬほぎ、私に親味になつてくる。輪廓が外部から内部に移轉する事は、私には一番安全な道だつた。ペンは随分用ひた。

自分は彩描になつて、顔から始めた。朱、橙、黄で。そして反射の暗い所には洋紅

働きの世界

生をうばふ一秒一秒

藝術は健康藥

自畫像の彩描

こ群青を、以上に加へて。次に眼蓋から頬を。これ等はむつくりしてゐる。眉を描く（毛の自然生勢に）髪毛は純黒で生させる。（繪具の生乾の時、前に色を重ねて蔭の濃き毛を描く、何人も目玉を入れる時は、特別の注意を拂ふが、自分もそれには遠慮しなかつた。細線で息を殺して線つける。

鼻は濃差を強くしたので、平たくなりすぎずにすんだ。自分は油繪で自畫像は幾度も描いたので、近頃大分慣れて來た（こゝら近所までくる時、油斷を警戒しなければならぬ）。短い亂杭の口髭が、自然の一相として加へられる。口は狐みたいに尖らずにすんだ。其は顔の部の終りにするので、お粗末になり易いが注意しよう。喉から衣服に移り下つて來たが、こゝはペンが彩描を助けてゐた。背景は特別に目だつた華美華美しいものにしなかつた。その事は肖像により以上、引きつける爲めで明い淡色を平面に塗つた。

一枚を描く内、時々自分は休んだ。そして考へた。水彩はむづかしい。此の繪にも非常に不満である。油繪はねつちりかけるが、今私には水彩ではさうは描けない。自然は無言だ。人間が氣をつけぬき、有り難い事も有り難くない事になつてしまふ。

水彩は油繪よりむづかしい

嬰 子

小兒を描く

第一。小兒が眠つてゐる所は、まるで善良の神様の體現だ。私はその像を見入る時
こても筆をこらさずに居られない。せめて十愛の化身の、一部も描いて禮讃したい。
私はその日、兒の目の醒めぬ内に、急速に描く身構から實行に入つた。

ペン畫で淡彩

眞夏の事にて室内の蠅は退治られてあつた。小兒は腹に巻布して、乳豆を口にし大
の字になつてすやく／＼してゐる。手早くそこを素描する内、時々動く。良い風が助け
て元の位置に安眠させてくれる。ペンで淡彩で紙上に現れ眠る子。

蚊帳の中の嬰
子

第二。次に嬰子は蚊帳に入つてゐるを作る。背景に庭の部を入れる。素描の不満は紙
を裏反しにしてやり直す。所が疊の黒のへりが、赤の青蚊帳の縁に遮れて、一直線に
ぬつてゐなかつた失敗を生じた。自分はこれには油繪の如くに消せないで困つたが、
一策を案じて木炭紙の一片を貼る事によつて助かつた。彩描して小兒はごく下手に
人形の様な手足に出來たが、小さな蚊帳を通して簾越しになつてゐる山茶花の暈けたこ
こは、水彩でなければこても手早く油繪ではゆけないと思ふ。小兒の繪は上手に云ふ
點はちつともなかつたが、題材が神聖なものだけに嬉しかつた。

蚊帳に眠れる
子

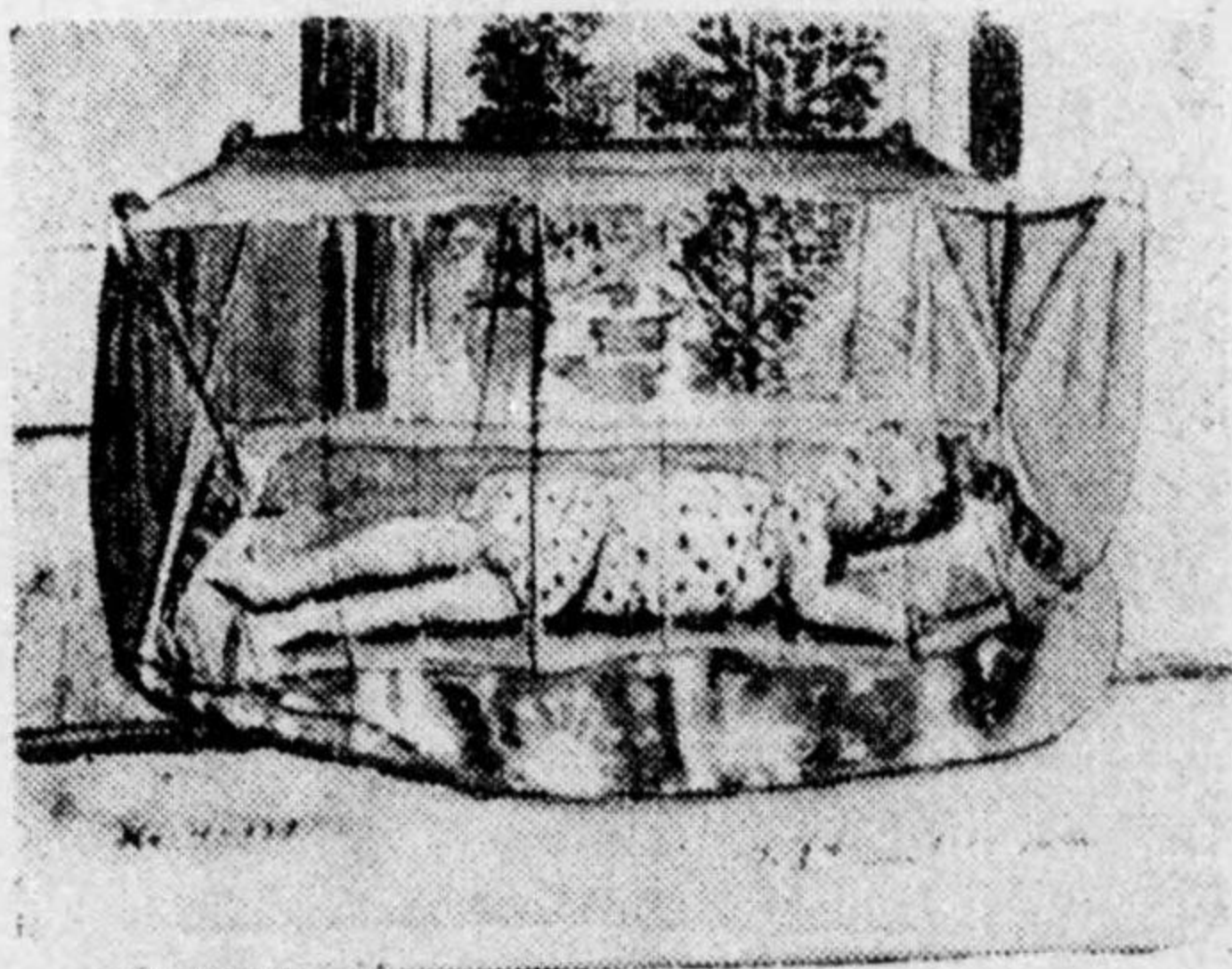
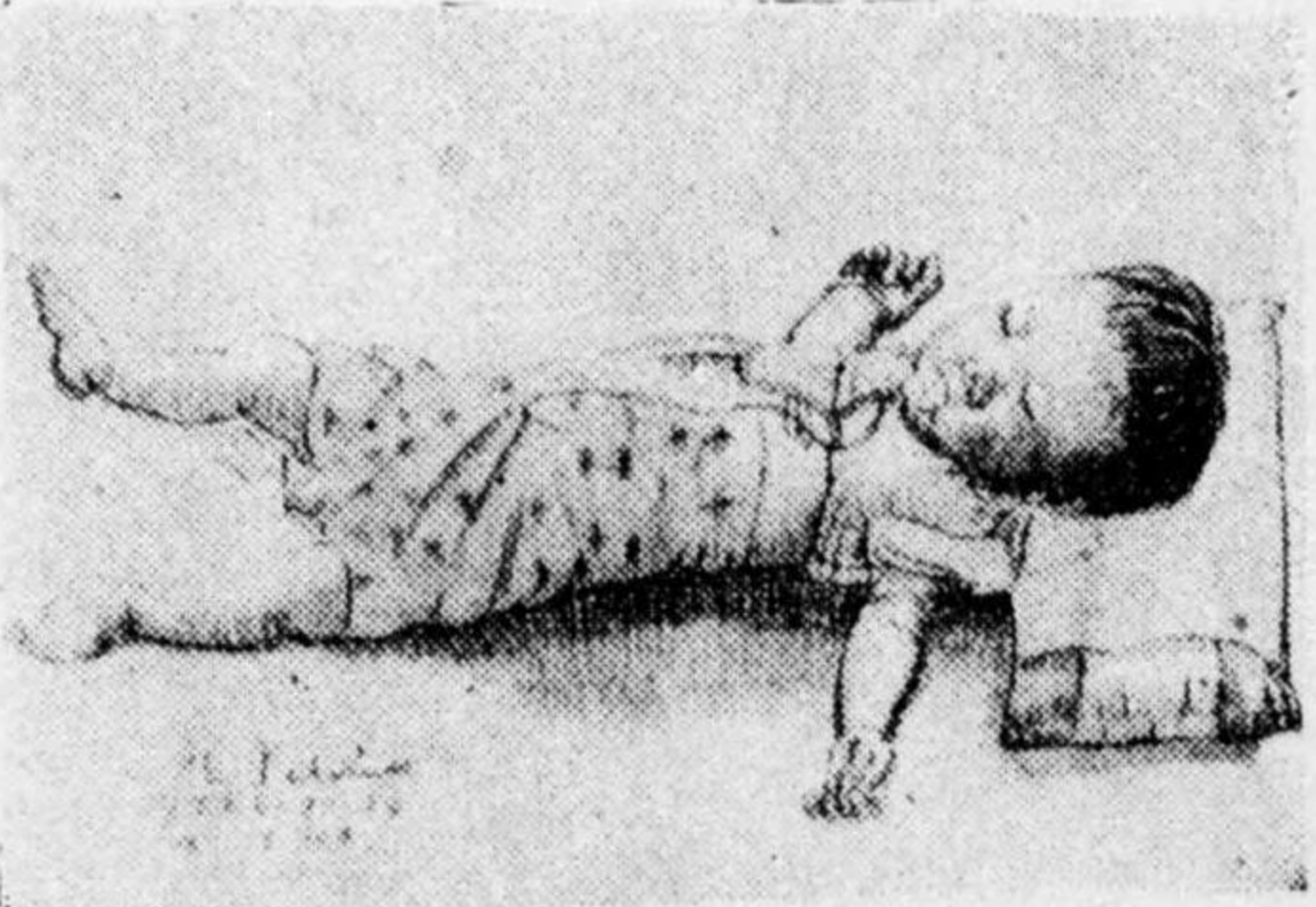
水彩畫の手紙

弟の作品を見
た時

日曜の夕方、君が農家にある僕の家を訪つてくれてゐる頃は、僕は今晚、店でダイ
ヤだのプラチナだの豪華を極めたものを賣つてた時だつた。多くの人が寝る頃、田
舎の闇路を歸つて來て、

急直に君及び君の友人の
習作に接見したほごの樂
しみは大きかつた。

それに概觀に近い繪
(君の)、説明された繪(友
人の)これは君と友人と
の個性の分野で、君の鶏
頭の花は、水繪具に水を



その作品に
なり

ほごんご入れぬに云ふ君の技巧により油繪の様に、一般のみづゑからは變つた描き方
だつた。

作畫に就て

等しき構圖をこつた、それも紫の布の上にかいた林檎も、共に友人の方のは平靜な
繊細な薄い溫和なものだつた。兩人の異心であるところに、自分は將來に興味をもつ
てゐる。

初心者はなれ
ぬのにメチャ
な彩描せぬ方
がよいと思ふ

君が最初、水彩畫を始めやうとて、スケッチ帖の鉛筆の略風景に、家に歸つてから
想像で彩色したものを、元氣に見せに來た時、自分は頭ごなしに君に、彩描も大自然
の眞寫でなかつたら、初心者は駄目だ、見る價值はないと不愉快に批評した。

水彩の色彩が
弱い

次に第二回目にそれに發奮して、木炭紙全紙に夕方の庭の繪（茶座敷に石燈籠に其
間に浮きうづめるモミヂミ飛石）（十日間か、つたもの）。別に十數冊の本の上にベコ
ニヤをおき、紫のバックで描れたもの（一日で）では努力を買つたが、色彩が弱かつ
た。

今度は濃厚な
色合

第三回目のが濃厚な色彩のそれで、今夜拜見してゐる作だ。そして自分云ふものも
加へて、此の三人の初心者が追々みんな方向に進歩して行くかと思像した。

展覽會の招き

所でR君、君等が今熱してゐるのに對して調度、誹向の學生水彩油繪展覽會が、僕の
働いてゐる店の前で開催されてゐるから、早速見に來給へ。學生は素人だから割合無邪

僕の作をどう
思ふてくれる

氣な獨特な描方をしてゐる。そこがこの會の面白味のあるところで、友人の巧者なもの
なら、僕は飽きくしてゐる。まあ百聞は一見にしかずさ。

次に君は僕の今度描いた、壁張になつた、靜物を如何う思ふてくれるかね。初め
寫す品物を机の上に置いたが、平凡なので、疊の上から飛行眼に見て、棚の前に紫の
風呂敷をかけ、左奥に瓶、右に罐、罐上に二枚葉をひいた桃、前左に茶碗、右前に小
瓶としたので、案外心持よく出來てくれた。

描畫の説明は止めようが、これが自分の水繪の限度では決してない。もつこ、もつ
こ善良なものでなければならぬと思ふた。

花に戯るる幼兒

愛弟!! 僕は、この手紙を君に送るのが、どれほどだかは、後まで讀むと解るだら
う。唯もう、以外な事は何事も投げやつても、繪がかきたくて描きたくて仕方がなく
なつて來た。

描く慾求

それもワットマン全紙を一氣に強烈に飢ゑてる獅子が人間でも、何でも喰ふ様な氣
分を思ひ出すほどの慾求だつた。それは今朝ワットマン全紙に、菊花をかかうとした

作畫に就て

ボブラ

サツピツ畫の
ボブラ花に戯る、幼
兒を描く動植物に戯る
る幼兒を描く
構圖

ので、妻は百姓家から黄菊紅菊を求めて来てくれた。そして壺に生けて貰ったが、數時間た、ぬき、本當の花の自然姿に戻らぬので、其間の時間を利用して、矢庭に郊外に飛び出して、時間を惜しみつゝ、一年前から描かうくゝしてた立竝ぶボブラを犬に吠えられながら、朝霧の中で稻の取入れを前景として、ケント八切（板に鋏止めせる）に色鉛筆で始めた。まるでミレー氏の繪の様な、壯麗な景で、何丈も云ふボブラの頂に、群鳥が飛ぶ。實にいゝ。ボブラ云へば、あそこのかき感づく（君の）ほぎ有名なものだが、別に又次には、縦一本に十數本を見た。ボブラをサツピツ畫で始めた。風が強くて枝葉が揺れる、ゴオホ氏を思ひ出す大生命が空間を征服してゐる様だ。祝してくれ給へ。喜んでくれ給へ。僕は走る様にして、我家にも、歸へつて来た。所がMIちゃん（幼兒）花がほしくて朝から、それを稱讚してゐるさ。それでそれが暗示になつて、MIちゃんを畫中に入れる事にした。が、何しろ歩きかゝつてゐる兒を、繪にする事は動くので非常に努力のかゝるものだつたが奮發するに決した。

あの君も知つてゐる机の上に、菊花の壺を置いた。幼兒がそこに戯れてゐる云ふ麗嚴な光景。ワットマン全紙は、考案によつて、障子を外して、それに鋏止めた。水繪の筆では力が出ないので油繪の筆刷毛を用ゆる事にした。妻は幼兒を机の側に立たしめて、花に戯るゝに注意した。

油繪の筆を用

自分はこの瞬間々々を、最も概觀的に、最急に小さな水彩パレットに、大きな油繪ブラッシュを走らせた。幼兒は種々の知識をもつてしても、立疲れてしまつた時分には大體が紙面の上に彩體された。尤も、色鉛筆やバステルが、此の速急な仕事を助けた事は大したものだつた。そして面白い線がそこから出て来る。

この寫生に時
間をかまひな
し。天候をか
まひなし

天氣はこの間に曇つたり晴れたりした。自分は過去の如く無理やりの瞬間の瞬間を描く事より外、知らなかつた時代から、新しい瞬間の連續を描寫する頭腦になつて来たので、又光線の變化は、他人には不自然の様で、私一人には最も自然であるので、平氣で晝も夜も光線を一枚の紙の上にする自由がある（これは日頃、店に勤めてゐて、時間のない事が、私に暗示した産物である）。

幼兒の次には林檎を描いた。太陽の直光があつた。次が机上から、菊花から、葉に來た時は、其の葉の混雜してゐるのを充分に見分けなければならぬので、大分力を使つてしまつた。その終る頃には、夕方がすでに訪づれてゐた。

夜までも一つ
繪をつづける

油繪の手ほどき

一三六

一家楽しく夜食して、電灯の元で繪の續きを續けた。壺が黒味がかつて重くよい。そして机上に幼兒のミ林檎のミ壺の異つた蔭が平たく然し異動である事が、自分には今迄の因襲の繪畫から別れた創造が嬉しかった。このことは、日本及び外國に自分も等しき道の人が偶然にも在つたにしても、それは自分の創造には、ちつとも障りにならない。

氣儘勝手に机下に黒を使つたり、背景に紫布を幕として、痛快の内に、目出度『花に戯る、幼兒』は出来上りとした。愛弟、君は此繪を見て、さう考へてくれるか。だが、此繪も自分の將來の作の一つの階段に過ぎないのだ。こんなもので、僕が満足しきつてゐれば、ミてもやくざな者にしきやなれない。自分は猶々、自分自身の驚騰するほごの大作を獨創しなくちやならない。ではこれで筆を擱く。

漆繪 自修記 (大正十年六月より「みづゑ」に掲載)

漆繪の今昔

世界的の大美術品の唯一として、大日本人の作—漆を主とする蒔繪象嵌等は、古來

漆は、日本を



椎の太木(上)

愛花園下

黒漆繪 (模造紙全紙方) 一九二二年作

代表せる世界的なもの

漆の老衰

世界の大觀と漆の自覺家

漆繪に関する新發表

蒔繪の大家にとふ

仕事室より外光へ

時に有名なものだつた。ジヤパンなる語は、漆から來たさうで、して見るに、漆は日本を代表した別名であるほど、國外人はそれに感激したものであつたに推測される。所が今日こなつては、過去の先輩の作品を凌駕する様な、大作家も出ないし、従つて技術の進歩も遅鈍だし、行詰つてしまつたので、昔日の觀は無い。然るに、現在の時潮を大觀すれば、今や全世界の國際戦争が終つて、丁度横糸に對する縦糸の様に、階級戦争が始まつて來てゐます。そして思想界の改造—藝術の改造—美術のそれ—繪のそれ—日本畫—漆繪の改造—眞理は、明にそれを強示してをります。

自分がこの時に、漆繪に向ふて、新らしき試を發表しよう云ふのは、何もなく其の道の、我が日本を代表する、重大な責任がある様な氣がします。

私は現在生きてゐられる蒔繪の先輩にお伺ひしますが、あなた方は、何故日本畫の圖案的の八方光線から、城壁をお越えにならなかつたのです。壁内は安易で獨力が不用でありますでせう。が、城外の野には、邪魔の住家の危険がありますが、努力が、新鮮なものを—太陽を浴する愛花の如くに恵まれるのでないでせうか。『いや、城外に俺は出て大努力して働いてるぞ』と、あなたは叱る様に云はれるかも知れませんが、

一足御先へ

實行の保證が私の目の悪いせいか見えません。もし御實行の力作がお有りになるなれば、どうぞ、一覽を私にお興へ下さい。私は私として先づ、こゝに例により下手な幼稚なものですが、一般の方々に、新らしき漆繪として、あなたにも、臍氣に、お見えになつたかも知れなかつた事を實歩して、お先に一寸失禮を致します。

私は何故に漆に力を入れたか

こまかい説明は私に求めない

西洋の外光、概観的の繪も、私観的の繪も

歐洲の新派は日本からの影響

何故私が漆繪に力を入れて來ましたかは、『何卒、私の解放の美術を見て下さい』と云ふ事にかかわつてゐます。今迄世界にあつた事は、藝術は、繪畫は、過去其人自身の所有で、相當な立派な作品を示してくれてゐます。

微密な説明的な東洋畫西洋畫には、とても自分等の仕事で無い事が見出されるほど立派なものがあつた。自分はそれに執着せずに、他に新たに求めなければならぬ。

又、西半球に林立せる概観的の西洋畫それ自身も全部を、私が模倣すべきものでない事も知れた。印象派は、日本からの影響が随分あつたにしろ……。

立體派も、日本の木版錦繪等からヒントを得たのぢやないか。疑はしめる點もあつたにしろ。未來派が、印象派の畑から出て、大聲あげて、未來の藝術全部を彼自身の



○筆の繪油と筆畫眞は筆、紙用畫は紙、漆白と漆黒、作のちか頭年十五大、繪漆

作畫に就て

未來派

西洋の作畫は
お互に影響を
うけてる

冬籠りの状態
の漆工界

所有にしようと思ふたにしろ。そりや餘いに面白過ぎる。しかして、未來派の繪の原
始的で、子供の様である強い表現力は、私は大好きだ。こは云へ我々が、ヒウチアリ
ズムを、鵜飲みにする事は悪い事だ。日本人の自分にはそれが出来ない。
最近我國の美術も、大層他國からの實突を受敬してゐるが、日本から外人が驚敬して
る點は、自分は我國有數の錦繪古畫屋に懇意であつた事から十分知れる。
維新前のあの貴族畫家の作から、平民的のそれが如何に無數に海外に歡迎されてし
まつたらう。ごちらにしても、日本と外國の畫家から大なる思想技巧の交換と相俟つ
て、最近の美術を相方で作り合つた事は、隠さうとして隠されぬ事實である。
さて日本獨特とも云ふてよい位の漆からの品々。それは塗物として、蒔繪として、
象嵌として、昔から今日、日用品として、我國以外にも多用されるが。然しその繪模
様は、所謂八方光線とかの東洋技巧の平面のそれから一步も踏み出し得ないほご、當
然通過せねばならぬ、有り難い太陽の御光を、又太陽及び人工灯を、我等の先輩は、
漆繪に於て、力強く表して見るほごに餘りに、大障壁が、漆のカタクナな性質と共に
冬の如き鈍い歩みがあるのだつた。明治になつて、西洋紙それも黒漆、金粉等の材料

漆繪畫書、カ
レンダー、漆
の額繪

自分は一九一
〇年廿一二歳
頃、始めて漆
繪を知つた

漆繪の美に驚
ろく

油繪の自由は
漆を止める

を寄合せて、俗に云ふ漆繪畫書や、カレンダー、名刺、額繪等として、日本の胡麻
化し風景を刷描したものが、一時海外に廣がつたが、低級なもので、藝術的のもので
なかつた。然しこの事は、頭から馬鹿に出来なかつた。これは後に知れる事です。そ
して大正の今日になつて、蒔繪の進歩は死に面せる老獸の様に力がなくなつてゐる。
何だか、こゝに自分を引出す事は變な氣がするが、漆繪の事を話すには、順序で仕
方がない。丁度一千九百十年頃、私の廿一二歳の時に始めて、自分は漆から繪を刷描
できるものを知つた。

そこには此の世で無い如き美しい妙力に接近して、繪畫の不思議なものに驚きまし
た。それは燃える愛の芽出しが、美術の方に春の如く、目醒めて來たからでせう。數
百枚の繪葉書を作つた以後には、獨想的のものを塗描してゐた。それは善き夢の世界
であつた。一千九百十四年頃までは、私には漆繪も平靜なものであつたが、其後油繪
を知つて漆繪の上に進歩を見ようとして、油繪を研究し出したが、油繪の大自由は、
こゝも總ての點に於て統治者の力があるので、遂其方に一千九百十九年頃まで夢中
なつてゐた。

かへりみれば
漆繪を研究し
てから十年

愈々漆繪研究
にいろいろ

漆繪を同志に
わかっ

漆の第一歩よ

今日こなつてやつと自己を省みれば、漆繪を始めてから、十年もたちます。懐しく始めて、漆繪を人さんに案内してもらつてから、早いものだつた。自分は現在こしては、漆繪も油繪も少々解つて来た。そして兩者の間に、すばらしき發展地のあるのを発見しましたし、又、長い間の豫期に驚ろきました。そして愈々年來の大仕事に取りかかり、着々こして私は習作に習作を重ねて働いてをります。自分は想像を逞しくするほごに、未來が恐怖すべきほごの大幸福を、私に作らしめる様な氣がする。何しろ自分は全世界の中に生れた一人であるからには、小さいながらも、一人の仕事をしこして満足に働き通せば、それがいのである。こゝに漆繪を自分一人で描いてるよりも、若し、廣い世の中であるから、随分『俺も、漆繪とやらから、こんなものが、出来るかやつて見たい』と思ふ方に、僅に紹介こして、次から次に書きませう。

最初の漆繪描法

前回では漆繪の大體を書きましたから、今回からその細部にわたります。知らざる方に知らしむるは、第一歩よりであるのが自然ですから、當然幼稚な事から書いてゆきます。そしてそれは學術的からでなく、私の經驗からに致しま



漆繪畫集

一九二二年頃の作（一枚の大き繪葉書大ほど。模寫と創作とあり。）

繪に心得ある
高尚な内職
應募の店を訪
問す

漆繪の説明者
が漆繪繪葉書
をか

す。

私の漆繪の初められたのは、中學を終つてから間もない頃の出来事でした。或日偶然にも、新聞に、繪に心得ある方の高尚な内職云ふのが出てたので、私も少青年時代の好奇心によつて、其の東京神田の、さある、未知の店を訪問するに、既に應募の澤山な人々が男女來てゐた。職は漆でもつて、繪葉書を作る事だに人々に教へられた。自分はその刷物の如き繪葉書を見て、これは機械でなく、人間の指先で描かれるものか、不思議な興味が湧いて來た。

説明者は、机の上で、無地の繪葉書の臺紙をこり、其上に富士山形の別の厚紙をのせ、蠟燭に火をつけた。珍奇の目をもつて人々の前で、臺紙の上に溶けた一滴を紙の適當の位置に落せば、圓くついて、これは後に剝して月にするのださうな。自分は、この事が意外に面白いと思ふた。圓刷毛（四本の柄のある徑一寸五分位）（其毛は周圍の擴がらぬ様に布で巻いてある）に黒漆を薄くむらなくつけて、硝子板上に出されたる上にて）富士形を境に、臺紙の上に軽く巧妙に圓く、刷毛を螺旋形にこする。そして形をばつせば、富士を白く抜ける空が現れる。

漆繪の描き方
刷り於ては、土
刷りから來てる
土繪は、土繪
具(安繪具)を
用ひ、明治初
年に流行した
描き版畫

私も漆繪の試
し描きたし大

漆繪挿毫の約
束

油繪の手ほどき

一四四

竹の柄の馬毛の一分や、圓刷毛にチヨット薄く漆をつけ、白き山の頂の方をこす
る、山の脈が出来る。又、臺紙半分位の形紙を間に合せて、白毛の刷毛で刷ります
水平線となる。次に馬毛の三分刷毛にて、舟形にくりぬいた紙をあて、こするに、舟
が紙上に浮び出る。それから田舎屋の紙形にて隅に家を建てる。扇形の刷毛(やはり
馬毛の一分刷毛を扇形に開き糸にて縛つたもの)にて波を描き、眞書筆で、中天から
筆を下せば松の大木の幹となる。それから枝が生え、別に、大扇形の三分圓刷毛でも
つて、松の繁葉からして、天地人の樹木の姿が現れてくる。それから地上に雜草、な
ほ眞書で鳥數羽を飛ばして、それで繪は終りとなつたが、自分は、この人の早業には
驚かされた。練習は云へ實に早い。一日中熱心にやれば三百枚は出来るさうな。
自分は始めてこの奇抜な繪の組に入つて、大に研究してみたい氣になつた。説明者
の云ふがまゝに、私が一枚を描いて見たが、粘りの強い漆はこても、自由に働いてく
れなかつたが、懐しきものが出來上つて、それは學校にて教へられなかつた異様な世
界のものたる事が知れた。

こゝで説明者は繪葉書の見本ミ等しきもの百枚描けば〇〇の禮をするこの事だつた

傳授料と道具
を買ふ

早速漆繪を刷
描す

道具立をする

私は漆繪を學びたし、其の作法の深い秘密をも充分に知りたいたので刷描を約束した。
そこで傳授料を與へ、見本繪二枚、小さい硝子の曲物に入つてる黒漆、刷毛(普通
の刷毛屋に賣つてゐる)眞書筆、繪葉書臺紙(繪葉書問屋にもある)二百枚ミテレメ
ン油の小瓶(漆の日のたち濃くなつた時、少量混じてやはらかめる事を教へてくれ
た)是等は其店で求めて、大きな愉快を有つて別れた。今から思ふに、可笑しいが、
其店の店主は、黒漆の製法や、別の藥はテレメン油だ云ふ事すら秘密にして、最初
の者には明さなかつた。

* * *
自分は早速藏の二階の窓側の靜かなところで、この未知の世界を研究するのが止め
ぎなき、瀧勢の思ひだつた。そして富士の形紙を、又、舟形家形等を自分で(普通の
使用ずみの葉書から)作つてこりかゝる。

最初は例の蠟燭の月から、硝子板の上に少量の漆を出し、四ツ柄の白刷毛(それは
初めて使用する時は、毛を熱湯につけて出し、水氣を充分に去つて使用すれば、毛の
抜けが少ない)を教へられた。そして布でもつて毛の開くのを巻く。で、私は作り方

作畫に就て

一四五

を教へられた如く、空ばかり三十枚ほぎ作り、次は富士の脈、次に舟、家、立木、雜草、地上に刷描した。これは一枚つゝ、繪を仕上げてゆくよりも、早く描ける方法だから。數十枚の完成した時は、愉快だった。失敗は一つつつ成功をあかしたて、くれた。それは實に黒漆の美しき光のものが、風呂桶の湯のぬいた、そして冷えかゝつた頃に入れられた（描いた繪葉書が）。

道具の後仕末

そして描く事が終りになつて、筆や刷毛は、又硝子板は、初め紙でふき、次に灯油でもつてよく漆氣をふき、洗ひ取り去つた。油氣をつけておく事によつて、永く時がたつても刷毛や筆はこはばらず、使へるを教へられた通りにした。

風呂に入つて
た漆繪

翌早朝待ちかねて、風呂の蓋を開ければ、光澤が非常によく出来上つた。それは偶然にも、漆の乾燥に對する濕りゝ温度がよかつた事ゝ、不完全な箱なごに霧を吹いて濕つた布をかけこいたりするのゝは異つて、完全なものだつた。だが箱の中でも、馴れば十分出来る。何しろ漆は湿度がないと乾燥がおそい。

私の漆繪は初
めは氣に入ら
れ次に理解さ
れずなつた

この時分には、自分は早大に在學してゐて、幸にも圖書館が好きだつたので、宇宙の何？ 人生の何？ 自分の何？ 男の何？ 天職の何？ 好きな美術の何？ ゝ氣

付きかゝつた時だつた。従つて漆繪に對しても、最初の百枚は、漆問屋の氣に入る様に描いて、金も割合貰へたが、次の百枚を描いた時は、自分の思ふ様に描いて、反つて問屋からは氣に入られなかつた。

年賀狀にかく

自分は漆繪は大分馴れて來た。そしてそれは歳の暮だつたので、年賀狀に出すこの奇抜な繪で、友達なごを驚ろかしてやらうと四百枚目頃には、別の繪葉書屋から臺紙を求め、さまざまの型紙をつくつて、各種異なつた景色をつくつた。又、名刺の上部に漆繪を小さく描いて、百枚刷り上げた事もあつた。

梅の漆繪が問
屋に氣に入る

亦々或日、久し振りで、漆繪の問屋にゆき、三百枚目を持つて行つた所、前方正月の梅の圖案が、店から出たので、自分が寫生した梅の枝に蕾や、開いた花を澤山につけ（それは例の蠟の方法によつて、白く抜く）店主に見せたら、大に賞められた事があつた。

漆繪問屋の閉
店

愈々正月が來て、店で一同御馳走になつたりしたが、其後迄もこの問屋は横濱に我がの繪葉書を幾千幾萬運んだが、何故か閉店のやむなきに至つた。

漆繪に對して
自立

自分は、これが動機となり、以後は、自分の獨創で、藝術慾を満し楽しんでゆかな

圖書館で漆の本をよむ

色漆繪を始め

ければならない。それは此頃、益々盛んになるべき、女性に對する戀愛が、この美術の方に轉化されてるので、今考へてみるに、繪は割合に熱心に研究せられてゐた。圖書館に通つて、漆の試験報告書をよんだり、昔の蒔繪秘傳本を調べたり、泰西の名畫を手本として、又、寫生を元として描いたりして來た事が、問屋で教へられなかつた、色漆繪（問屋では黒漆の繪のみだつた）朱や青や黄や黒や脂色等を合して、太陽の光の中のものを、試用してみた事は、過去の日本に無かつた事かも知れない。幾年間の自分の漆繪に對しての其後には、葉書大位の繪を幾百枚も描いたが、大作は極めて少なく、アダム、イーブや猛獸に追はる、野人、ケント全紙の娘の全身像であつた。そして私の漆の上に於て、大なる停止と進歩を來したものは、それは實にあの油繪の自由さであつた。

漆の面白い會話

漆は西洋にあるか

（自分）漆は西洋には無いのですねえ？
（職人）ありませんよ。日本に支那位ですね。日本のは光があつて持ちが良くて、支那の様に重くありません。大阪には、支那漆が來てますよ。

漆の木は何年位から役にたちますか

（自分）漆の木は、何年位から、役に立つのです。
（職人）本當にやくにたつのは苗木から、八年か、拾年目位ですね。一本一年間に何金云ふて、百本か二百本と定めて買ふのです。それが五年間位使へますね。先づ初年に二尺五寸おき位に、横に木に漆鎌で（小さい鎌）キズをつける。そして三方面に切付けます。丁度、松の脂と同じ様に脂が出て來ます。漆採りは、朝の四時頃から起きて、夜の十一時頃まで働くのです。そして昔の一圓位しかこれませんから、皆嫌やになつてしまふのですよ。漆は翌年は休みます。一年おきに採ります。

採りたての漆はどんな色です

（自分）採りたては、漆はどんな色です。
（職人）白い色です。それを生漆と云ひます。何しろ採集するのにあれほどの時間と血をつかつてやつと、僅な漆しか得られないのですから、漆採りは、混合物を入れて行くのです。

漆には昔山の芋の汁をまぜ

（自分）何を混ぜるのですか。
（職人）昔は自然生（山の芋）を擦りまして、それを漆に混ぜました。

作畫に就て

漆には今は燈油と水飴

漆の種類

(自分) 山の芋なご入れて、漆にさしつかへ無いのですか。
 (職人) 別に大して差しつかへありませんね。ですが、漆が弱められてしまひます。
 (自分) 漆は、その生漆で、如何して、種々ミ種類を拵へるのですか。
 (職人) それは、今は重に機械でしますが、小さな店では、あなたも御承知でせうがあの大きな、木鉢の内に漆を入れ、火を側に置いて、濕氣を防ぎ、暖めやはらげ
 て(漆は濕氣によつて乾燥しますから) 灯油ミ水飴ミを適當に加入して、お杓の形の大きい様な物で、かきまぜるのです。そして種類の區別をつくります。
 (自分) 漆の種類は。
 (職人) 黒からですミ六種類あります。上等から上花、中花、並花、一寸上等で塗立
 中塗、ロイロです。
 上花は五月頃ですミ、翌日(塗つた) 油が浮いて來ます。そこで半紙をもんで取るミ艶が持ちます。
 塗立は下塗でして塗つても油が浮きません。
 中花は一般安物に用ひられます。

並花ミ云ふのは、唐紙等に塗るのです。中塗磨きになる。そしてロイロを、其上にかけます。油氣があるミ磨きそこなうから(すべつて) 艶がないのです。黒で箔下、油無し。

(自分) 水飴ミは、變つたものが入りますね。奇抜だ。そしてよく思ひついたものですね。

(職人) 水飴が入つてゐるのですから、三時間位も乾燥させますミサラサラミしますが、漆は製造家によつて、一家一家、漆が異つて居ます。灯油は乾燥が、後になります、砥石のトクソを入れますミ、乾きが早くなります(昔用ひた方法です)

(職人) 呂の製り方。寒い暖かいによつて、適用法があります。そして風呂の湯氣のヌキかげんによりますが、これは經驗です。それによつて、上手下手が別れるのです。五月の中頃から九月頃までは、戸棚かこの外に入れて、塵の落ちぬ様に風呂敷を離してかけミ、乾燥後、ホコリがつきません。

酒屋にあります、オトシ(飲口よりたれた酒を受樽等に入れ溜つてる酒)を風呂内に吹きかけますミ、乾きそこねがないのです。

オトシを吹きかけるミ漆の乾きそこねがない

呂の製り方

漆が厚かつたら、温度はなりたけ下げておいた方がよいのです。それから一日中温度の激變のない様にする事です。さもないと皺が出来ます。本統ですと、二つの風呂が必要ですね。

ここに重箱を塗るにしますと、上下は別々でなく、一度に塗つてもさしつかへありません。つまり、その箱の隅に三角の板を兩端にかいませます。横側になりますと、冬は十五分位、夏は、五分位に箱をひつくりかへさなければなりません。さもないと、漆がたれてかたまつてしまひます。これが塗師の一番つらい事です。

中には夜わかしから、夜あけになつて見て、箱側に皺でも出来ようものなら、それかぎり逃げだす職人が随分あるのです。又、五個なら五個、十個なら十個を、真中に間の物を入れた、そのまゝを裏がへしするのですが、萬一落して、面に瑕でも出来やうものなら、塗粉を漆でもつて、塗り直さねばならないのです。

塗る人、下地の人は、十一、二の時から、練習して年期を入れてゐますから、かへすにも機械的になつて來てゐます。静岡あたりでは、機械で、このムロ内の積

まれた器物を裏がへしにします。

(自分) 繪具は如何です。漆では、自由な色が澤山出来ませんねえ。

(職人) 今では進んで参りまして、白と洋紅だけが、出ないだけで、残りの色は出せる様になりました。

(自分) さうですか。そりや大變だ。漆の發展に多大の力があるのですから(自分は愈々、漆繪大成の時期がそれによつて近よつて來た事を知れます)

(職人) 何でも其道の御研究者によりますと、我々も異つて、學問でしらべて、こつても言葉で言へぬ、變つた色をお出しになるのですからねえ。私達も大に考へさせられますよ。そして、或物なきは、風呂の内に、塗られた漆器を入れて、其周圍に藥をまき、その藥の氣によつて、色が出てくるのですから、良い色が出ますよ。學問の力にやかなひませんねえ。

(自分) 昨日店先で、一寸お話のあつた繪具の『ドダイ』(これは研究者が秘密である云はれてる品)は、みんなものですつて。劇薬ですつてね。毒藥ぢやないのですねえ。

ト鉛化ビスミツ

イ亜鉛化をドダ

漆の繪具には
アク(灰)は禁
物

(職人) 透明色液體です。私も小瓶に入つてその液を見ましたが、それを水の中に加へますと、白い粉が沈澱して來ます。何ぞか云ふてゐましたがね。さうさう鉛化ビスミツトでした。其白い粉(上水をこり乾燥せしめたもの)に繪具を染めてそれを漆にまぜて用ひますと、白と洋紅の他の色は出るのです。私の知人の家にも、其参考品がありますが、かなりな色が出て居りますよ。

(自分) (自分はこの話を非常に大切なものとした) さうですか。實際それが出來たらすばらしいものですな。

(職人) 然し、我々仲間では、もつこ手輕な方法があるのです。それは亜鉛化をドダイに用ひます。それに繪具を混じて、漆と共に用ひます。

(自分) ですが、私が早大の時に、亜鉛化は用ひませんでしたか? 繪具と漆を合した色で繪を描いたら、早速退色してしまひましたが、如何なる理由でせう。

漆酸の作用でせうか。

(職人) 繪具に灰(アク)があるといけません。繪具と云ふものは、私達商賣がらで舌でなめて見ましたが、シヨツパイものです。これが灰ですよ。

鹽きを遅くす
るもの

鹽氣は漆の乾燥をさまたげます。それから生脂、手脂も乾きを邪魔します。それから蜜柑の汁は、乾きを遅くする利目があります。

(自分) 蜜柑の汁? 實に漆には奇抜なものが入りますな。さうも面白い、山の芋の汁が入つたり、水飴が入つたりして。

(職人) 艶にはミカンの汁はさしつかへありません。油は艶にさしつかへます。

(自分) 漆は何しろ、日本の代表的の産物ですから、それから日本人の自分が、立派な繪を、漆から描けたらと、大に努力する考へです。いづれアナタにも、私の今まで人の手につかなかつた繪を、御覽に入れる事も出來ませう。色に白と洋紅がなくとも、その他が出てくれ、ばうれしい。

(職人) 繪具は何でも灰をこらなくてはいけません。それには繪具を水に入れてよく晒すのです。そしてアクをこります。幾度も幾度も水をかきまはして内をさらせて來ます。さうした繪具でしたら、漆と混合しても、變色する事はありません。が、漆の色彩は、風呂で乾燥の仕方と日にちが、たつにつれて、色が出て來ます。

繪具からアク
(灰)の取り方

漆繪を描くに
黒ならキジヨ

色繪には朱漆
漆の乾きを早
くするには樟
腦を入れる事
片腦油は漆を
殺す

漆を一番用ひ
る所は京都

新らしき漆繪
をかく用意

油繪の手ほどき

一五六

(自分) 漆繪を描くには如何なる漆を求めたらよいでせうか。
(職人) 黒でしたらキジヨミ(木から採つたばかり)ですな。大阪では伊勢漆云ふのが、前のミ一所です。色物でなければ、伊勢漆でいゝのです。つまり黒に用ひるのです。

色繪には、朱漆ですな。漆は動きがおそいですから、樟腦を入れるミ漆がヒヨロヒヨロになつて来て、動きます。片腦油は樟腦ミ似てゐて、漆を殺します、私の子供の時分に、センメが百目四圓八十錢でしたが、今では拾圓に百六十目位です高くなつたものです。

(自分) 日本中では、何所が漆を用ひます。

(職人) 京都でせうなあ。静岡もありますが、京のは漆の製り方がそろつてゐます。静岡のはテンデに合せてゐます。漆の本場は越前ださうですねえ。

新漆繪描法

こゝに朱塗ミ畫用紙、又は模造紙、ケント、又はスケッチ板等、油繪用のブラツジユミ、漆用の眞畫筆。



作の順年二一九一 (繪漆色)

ザ イ イ ム ダ ア

之の用具が寫
實主義の畫家
と興へられた
としたり

漆は是眞が使
つた

客觀世界を十
分研究した後
強い主觀の環
境に現れる

白の代用は私
はキララ(雲
丹の粉)又は
アルミ粉(輕
銀粉)

朱、紅、橙、黃、淺黃、紫、黒及び金粉、銀粉(アルミ粉) 蝶貝の類等、漆を調色する硝子板。トモシ油の一瓶。テレピン油。以上これ等が、今、寫實主義の畫家の前に興へられたとしたならば、今までの傳統を破壊した(昔一流の蒔繪から別れた)何物か、作られなければなりません。自分はくたくだしき細部を捨て、この新世界の自由、未開地を皆様に御紹介するの光榮を有します。

自分は今、大分の繪を漆から描いて研究してみました。そして種々の感じる事がありました。漆でこれだけのものが描けるのに、何故過去の人は、この方面に歩を進めなかつたのだらう。是眞が漆を畫中に使つたさうだが、これとても一度は、何と云つても通化せねばならぬ、太陽を中心とした、光の中のものゝ氣づかなかつたのぢやないかしら。自分等は、この客觀世界をも十分研究し、尊敬した後、強い主觀の環境の中に現れようか。今急にそこに走る事は、私としてはあまり考へすぎる事になる。私等はまだまだ多年の修養を要します。

新漆繪の描き方としては、油繪等と異なる點は、油繪ほどの白が十分出ない事で、むしろ紙地の白を利用した方がよい事。もし板等を用ふる場合には、自分はキララ粉

を用ふる事によつて白を表せるが、輕銀（アルミ粉）もよいであらう。

又、自分は紙上に夜景など、黒色ばかりで、表はず時には、コンテイを用ひて描きおき、家に戻つて来て、其上を清書したものでしたが、漆がざらついて、筆が自由をきかしてくれませんでしたので、今はクレオンの黒で紙上に描き、それから當時の記憶により、松煙と朱漆を混じて、その原畫を清書してゆきます。又、スケッチして來たものを手本として、別に描く、この方法は表面的寫實からわかれて、主観に入る尊いものが出来るに信じます。

又、色彩で描く時にも郊外などは、クレオンの各色をもつて描き、それを漆の各色によつて、清塗して描き上げた方が便利な事もあります。然し、自分は靜物を色で描く時は、直接、漆の繪具で描いてをります。同じ筆で別の色を描く時はよくトモシ油で筆を洗ひ、新聞紙か布の上で洗ひふきます。

漆は一時に餘り厚く塗りますと流れるものですから注意すべく、又、薄すぎるに紙上に艶を吸ひこまれるのです。この艶のあるないは人の好みによりますが、

描かれたる繪はなるべく、在來のムロに入れて乾燥せず、自然乾燥にして、壁なり

下描きにはクレオンの黒

郊外形描にはクレオンで下描きしとく

漆は厚いと流れる

自然乾燥

最初の色は乾燥と共に漆に混ざり、數ヶ月後に回復する

漆と繪具の混ぜ方

右のスケッチ板に漆繪をか

漆の新世界

又、戸棚なりに靜かに入れ、四隅を鋏止めして張つておきます。夏は早く、冬はおそく乾固します。この時に、濕氣を過度に與へないで、自然法によりますと、漆が悪く變色しない。又、漆にシワの出來が少ないのであります。尤も本當の色は、描塗後、數ヶ月でなければ、現れて來ません。

又、繪具は、自分は大口の三寸位の高さの瓶に入れ、ダース入れの箱に入れてあります。そして描く時には、筆なり、刷毛なりに漆を一寸つけて、それを瓶の繪具に突きこみ、硝子板上なり、又、板上なりで混ぜて、使ひます。これは比較的繪具がむだになりません。

又、近頃私は、油繪の描きからしのスケッチ板を、古道具屋から十枚ばかり見出したので、漆を使ひ餘つた時に其上に下塗しこいて、全部ぬれる方法を利用してゐます。私は板の上に描く事をすゝめてゐますが、これからして見ますと、自分の如き不器用者にも出来るのですから、今に漆塗の工藝美術品にも、寫實的のものが、出てこなければならぬはずです。

新らしく漆繪を研究して見たいと思はる、方は、漆や、刷毛や、繪具について、質

作畫に就て

問されたならば、そして文房具店ら畫用紙、ケント、又は油繪用の刷毛のブラツシユを求められたならば、尙、漆を曲物から出す時に使ふ手製の竹へら、そこに新らしき未知の新世界はあなたを、はげしく待つ事になりませう。

漆の技巧については随分面白い事があつて、これを油繪の上に應用したらご考へた事もありました。これ等も機を見てお話しする事にしませう。何しろ、お互に日本にも、法隆寺時代から漆繪や、密陀繪があつて非常に長年月ですが、今や老衰の形殻を脱して、若々しき寫實の上から誕生をせねばならぬ期が來ました。

以上、私は無學ながら、日本特有の漆の爲めに多言を致しました。漆を利用して、如何に立派な繪が將來日本に出来るか。それは新らしき蒔繪師の方々の自覺と、特種の方々の御勉強による事と思ひます。私も及ばずながら、永遠に向ふて、漆繪を研究し、又、時々展覽會もして、皆様から立派な作品を見させて頂けるの日を楽しく御待ち致します。

* * * * *

附記 以上は大正十一年の「みづゑ」誌上で發表したもので、不備の點をかなり見

漆繪の技巧を
油繪が應用す

大愚塗

出しましたので、こゝ大正十五年に「大愚塗」の發表と同時にいささか補筆します。

大愚塗

漆の塗に馬鹿塗り云ふのがあります。さうして馬鹿塗り云ふたかは、出鱈目ぬりだからと思ひます。塗師が仕事がすまんとして、色漆が餘つてゐる場合、これは、もつたないからこゝで、箸箱や菓子箱の木地に、ぬりたくつておいたものを、トイシと朴の木炭でゴマ油をつけて研出したものがありますが、この馬鹿塗は決して馬鹿でなく、後には、わざと意識的に作つたので、なかなかよいものを見ました。これはしかし、あの有名であるカンデンスキー氏の構圖派の元を無意識的(音樂的)云ふ意識)

に日本の職人がやつたので、これをもつて徹底的に意識的にやつたならば、ごの位漆の上で、面白い模様が出来るか知れない。私はこれを「大愚塗」として、今後最近に世上に發表しようと思ふ。これは「心の華」を熟讀されたら、實に、すばらしいものになる素質を、漆工上にも、持つてゐる事がお解りでせう。大愚塗は以上で締めこまます。まだまだ最近の發見もありますが、紙面が少ないのでこの位。以下一寸雑話。

筆に漆をつけ、繪具をつけ、板の上で練る時は十分に、繪具をまぜる事、それから

作畫に就て

一六一

馬鹿塗な馬鹿
でない

筆の始末（其
他の用戸も油
を付けて、布
で拭き取り、
きつた時は指
についた油を
テレピン油を
布につけふく
事）

漆にカブレタ
人は

油繪の豫備研
究

油繪の手ほどき

一六二

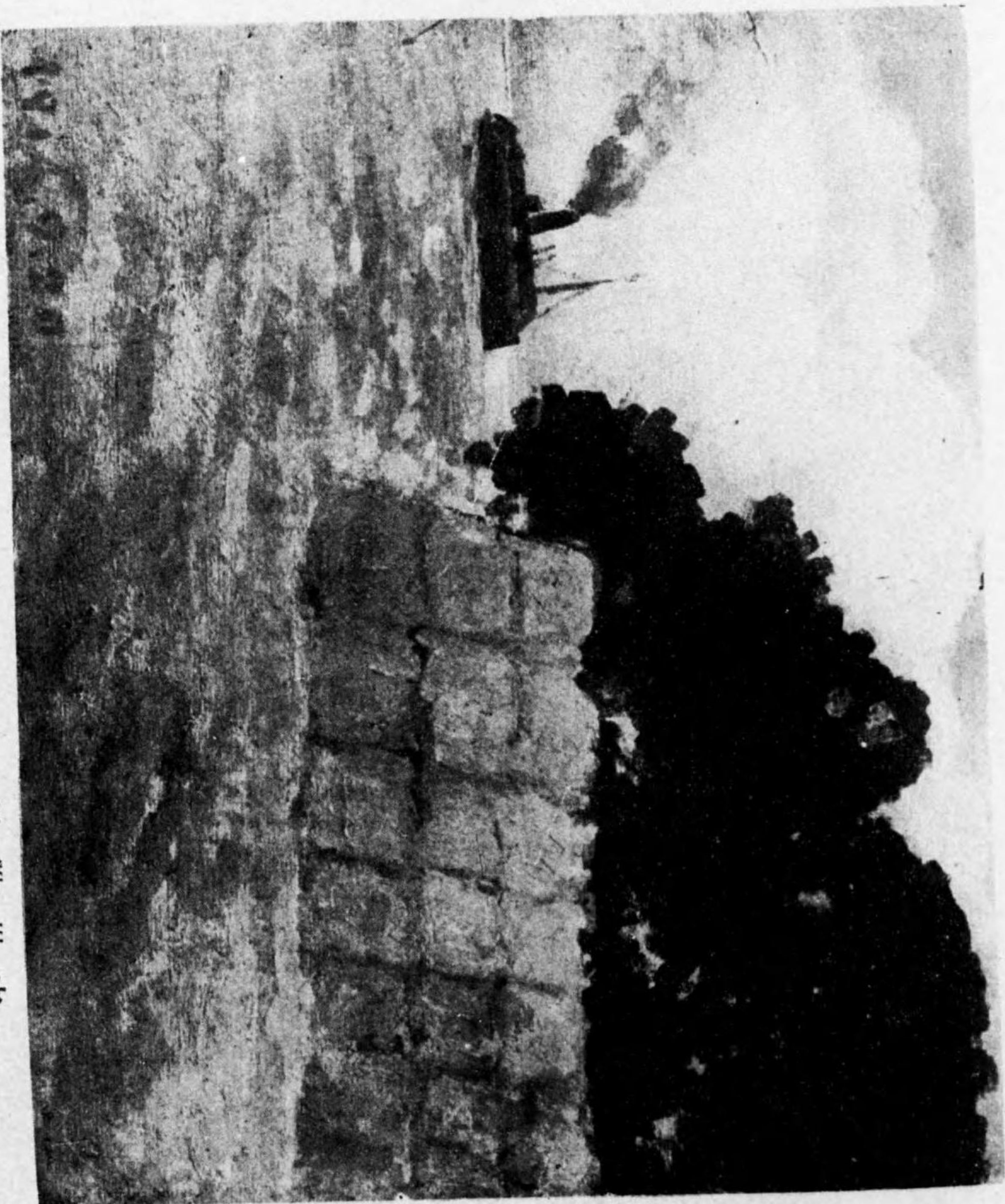
終つた時は、テレピン油にて、よく筆の漆をすつかりこり、その筆を、トモシ油でぬらしておく事、こうしないに筆毛の奥に入つて漆により、筆毛が自然コワバツてしまひます。それから、今度使用する時に、その油をフキこり、テレピン油で洗つてすつかり油氣を紙又は布でこつて、ここのトモシ油が漆にまざるこいけません。

終に諸君の面白き御研究に御報告をまつ。
尙、漆は人により、カブレます。その時は湯に入る事、そして、カニの汁をつける。こ早くナルそうですから、御注意まで。不備ですがいづれ又。

ペエニ繪の描き方

油繪をやりたいが、金がかゝるだらうとか、そして、なか／＼めんごうくさそうだとか、今まで思はれてゐました人も、今日こなつてみるこ、そうでもありません事がおわかりでせう。

が、その前に、あなたが豫備研究をして、ペンキにエナメルニスこの繪をかいてごらんになるのも、面白く愉快な事と思ひます。これを「ペエニ繪」に私は名づけ



作年四一九一（繪キッペ）

ペンキは油繪
具に比較的
近い材料

ペンキ罐の
あしけ方
繪具の出

廢物利用の
畫面でもい

ます。

ペンキ繪

これは油繪に非常に近い材料ですが、決して高價なものでもありません。それは藥種屋にゆくミ、一罐ミなつて數種の色、白黒、藍、黄、紅、青、赤土色等が五十錢前後位で賣つてゐますから、それを數種もこめて來てをけば、小學校の教員の方が、生徒に、その繪具を使用して、繪をか、せるのに、非常に便宜だと思ひます。又、創作玩具をぬのにも便宜です。

まづ、罐を、釘かなんかの先でこぢあけますミ、上の方に油が浮いてゐて、下の方に、繪具が沈んでゐますから、それをヘラかナイフの様なもの、シヤクイ出します、そしてそれを、ボール紙の上に出します。つまり、各色を、並べ入用ミ思ふ分だけ出すのです。

今度は畫面ですが、それは、煙草の空箱（タバコ屋へゆくミタダでもくれます）を切り離してそれを、畫面にするのもよく、又、もつミ上等の紙、畫用紙でもいいし、土産にもらつた折箱のフタや底でも、何でも、廢物でも用ひてごらん下さい。それが

刷毛屋にて刷

毛
竹楊枝の「ヘ
ラ」

ら、次には、刷毛屋にゆき、巾二分位のから、五分半位の平刷毛を、求めてくる事です。それから文房具屋にゆき、細筆と眞書筆を一本づつも、求めていらつしやい。それからこう云ふものも利用して下さい。齒磨の竹楊枝を尖らしたりして「ヘラ」をおつくりなさい。これは、丁度左官屋が壁を塗るのに似て似ないが、繪具をつけては畫面の上に置いたり、ナスツタリして描くのです。ペンキ繪はこの位の材料があれば小學校でクレオンをやつたり、水彩をやつたりした子供でさへあれば、或程度まで描けるものです。もし、ボール紙の上に繪具が、ボール紙が油を吸ひカタクなつたら、ペンキの罐からして、油をつけ合せます。又石油を別にビンに入れておいてそれをつけてもよいのです。

先づ、白ペンキと黒ペンキから繪をかこうじやありませんか。では僕のかいたものを、こゝに御目にかけてませう。ペンキはボール紙等にかくこツヤが引きます。もし、すばらしい艶を出しよきたかつたら、エナメルを用ひて下さい。

白黒の繪

エナメル繪

エナメルは、空氣に乾燥するのに非常に早い性質をもつてゐますから、ボンヤリは

エナメルは根
氣よく態度も
ぬる

エナメルの硝
子繪

線描き

人造金粉銀粉
の利用

使へません。又、一度氣に、エナメルは厚く塗つてはいけません。厚くぬるこ内側はいつまでもかわきません。もしエナメルで濃い色を出したかつたら、根氣よく二度でも三度でも薄くぬるのです。エナメルはペンキより稍透明に近いものです。硝子に描くこ面白いと思ひます。何、繪が反對に出ますつて？ そんな事がありますものです。因襲にこらはれてはいけません。エナメルは硝子にしがみつく性質があります。硝子はあらかじめ、キハツ油でよくふきこつここ、なほいゝでせう。エナメルを硝子にぬり、半かわきの時に、キリの先にて、細い線の繪をかき、それが後、乾燥したら、そこへ別の色の繪具をスリコミ塗りますこ全體、筋の所だけのこつて、面白い線描きを見る事が出来ます。エナメルも藥屋にあります。ペンキより少し小さい入物に入つて、やつぱり五十錢前後。

ニス 繪

以上の繪具に、金粉や銀粉アルミ粉等を混ぜてもうまくゆきませんが、ヴァニスにまぜるこ、うまくゆきます。ヴァニスは、藥屋にゆきますこ、ビール瓶に似た瓶に一杯い入つてゐて、壹圓ださずに買へます。これを、小さな入物に流し金銀粉（これも

使用後の注意

薬屋にあります)にまぜて用ひます。粉は浮いて、鮮やかにぬれます。これも乾きの早いものですから、幾度も同じ所を、こすらぬ様、やつぱり、エナメルも同じ様です。ペンキも、エナメルも、ニスも、使つたあと、十分にフタをしておけばいつまでも使へます。又、使用した筆は片で片具をふきこり、石油ですぐ洗つてふいこければいつまでも用ひられます。

場末の理髪店

場末の理髪店等によく、油繪だま云ふて、横額の富士山をキレイにかいた繪があります。あれはペンキ繪です。ペンキでもあの位に出来るのですから、油繪をやる前の練習には安直で遊戯的のものですが、面白いものです。ペンキ繪だま云ふと、頭から下品なものにしますが、しかしこれも描く人によるので、ペンキの材料だまて、使ひ方によれば十分に役立つものです。帝展にいつも入選して人々でペンキを油繪具にまぜて出品畫に用ひてゐる人がある位です。

ハ 油繪による二大道

物畫の描き方

基礎 試作

(解説—初心者が繪具の使ひ方、筆の使ひ方、畫面への接觸の試みとして、寫生をする前に、是非やつていたゞきたい事があります。それは、書家が、最初一云ふ文字を研究して澤山かく如く、又、日本畫家が、最初、圓を幾つも描いて、墨や筆の具合を練習しますが、それよりも、もつと興味あり、面白き自由自在な、練習をやつていたゞきたいと思ひます。つまりそれは、朱、紅、青、藍、黒、白等、種々の色を紙なり、板なり、何なりに、所謂出鱈目云ふた風に、しかしあなたの描いてみたいと思ふ様に、眞面目に、繪具をヌリタクツテごらん下さい。曲線、直線、圓、三角、點々何でもいゝのです。こうした物は、やつぱりアナタの心の繪なのですから、自らイヤシミ、捨て、はいけません。今、世界中で、この心の繪がスバラシク研究されてゐる

繪具や筆、道具の練習。それには意義ある「心の繪」の研究が出来ると

ですから。かくして、幾枚もの練習がつみ、ハケや、油の使ひ方等もなれて來たら、今度は、寫生的に描いてごらん下さい。寫生して繪具が又、無駄になつても捨て、はいけません。残つたら、出しごくカタマリ使へなくなるから、「心の繪」にして、別の畫面に眞剣にナスリ描きして研究してごらん下さい。後には一枚の立派な「心の繪」が出来ます。それについては、漆繪の大愚塗りの所や、心畫の描き方の『心の華』をよんで下さい。

物 畫

物畫とは、客觀的に存在するもの、繪するもの、繪する順序

物畫とは、私の勝手につけた名稱ですが、寫物畫云ふてもい、のです。心畫の如く、心の方に重きをおかず、自己云ふものを少なくして、客觀的に存在してゐる物のそのまゝを描いてゆかう云ふ流派に屬すべきものです。物畫に入るべきものには、研究の順序としては、靜物から肖像、風景をやつた方がと思ひます。しかしこれに限つた事はありませんが、こゝでは、そんな順序としてのべませう。

畫家には靜物の好きな人、肖像の好きな人、風景の好きな人がありますが、私は風景が一番特に好きなのです。



品田園科三年六二九一

繪油 (大號二十) リンネルの實